

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

食と観光で世界を魅了する
「かごしま」の地元定着促進プログラム

令和元年度
事業報告書
(総集版)

目次

巻頭言	2
I 事業協働機関の連携	
1 かがしま学卒者地元定着促進協議会 記録	4
2 COC+教育プログラム開発委員会 記録	4
3 COC+教育プログラム開発委員会 部会 記録	6
4 その他の機関との連携	10
II 共同事業の取組と成果(平成27年度～令和元年度)	
1 COC+の実績とレガシー	12
2 COC+シンポジウム・COC+推進フォーラム	14
3 かがしまCOC+公開講座	20
4 地元企業よかとこ発見バスツアー	22
5 地元就職率向上に向けたアンケート	26
III 事業協働機関のこれまでの取組と成果	
1 鹿児島大学	28
2 鹿屋体育大学	34
3 鹿児島国際大学	37
4 志學館大学	40
5 第一工業大学	43
6 鹿児島県立短期大学	46
7 鹿児島女子短期大学	49
8 鹿児島工業高等専門学校	52
9 鹿児島県・経済団体等	55
IV COC+大学及びCOC+参加校の事業実績(令和元年度)	
1 鹿児島大学	66
2 鹿屋体育大学	72
3 鹿児島国際大学	74
4 志學館大学	78
5 第一工業大学	82
6 鹿児島県立短期大学	85
7 鹿児島女子短期大学	88
8 鹿児島工業高等専門学校	92
V 就業支援:地元企業と学生のマッチング(令和元年度)	
1 合同企業説明会・研究会等	98
2 インターンシップの実施状況	101
VI 広報活動	
1 かがしまCOC+通信	110
2 かがしまCOC+ホームページ・COC+PORTAL	130
VII 資料	
1 事業目標と進捗状況	132
2 かがしま学卒者地元定着促進協議会構成員	133
3 COC+教育プログラム開発委員会及び部会構成員	134
4 実務担当者	135
5 事業協働機関連絡先	137



平成27年度に、「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラム」(かごしまCOC+事業)が、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)に採択され、本年度は補助期間の5年目となりました。

COC+事業の採択に際しては、事業協働機関全体で学卒者の地元就職率を平成26年度の54%から令和元年度で61.5%まで引き上げることを重要目標として掲げ、その実現に向け、事業協働機関による「オールかごしま」の協力体制の下、地域人材育成、学卒者の地元就業支援、就業先の確保・拡大、受

入環境の整備など様々な取組がなされ、特に、鹿児島県の有望な産業分野である「食と観光」を強く意識した取組を行ってきました。同時に、COC+事業を通じて、鹿児島大学をはじめとする県内高等教育機関は、「地(知)の拠点」としての機能強化に向けた教育改革を推進してきました。このような中、学卒者の地元就職率の達成は厳しいものがありますが、一方で、COC+事業の取組を通して、今後の地域活性化につながる大きな成果を得ることができました。

地(知)の拠点の基盤強化にとって、地域との間に安定的かつ持続的な協働のプラットフォームを構築することが重要ですが、「かごしま学卒者地元定着促進協議会」の仕組みは、協働のプラットフォームのモデルとなるものです。また、COC+事業の実施によって、多様な組織が集まった大きな合議体を運営していくためのノウハウが蓄積されたことも、今後の協働体制を維持していく上で大きな財産となりました。

教育改革の面では、地域の企業・行政の協力の下に、各大学における地域志向教育の充実と、大学間の協力による多様な学びの機会が実現し、地域人材の育成体制が大きく前進したと考えています。また、企業人や行政職員による授業への講師派遣、地元でのインターンシップや企業見学会の実施、教員・学生・企業・行政が一堂に会するフォーラムの開催などが定着してきたこと、更には、鹿児島県での共同研究とその成果の社会実装に向けた取組も進展しており、地(知)の拠点としての好ましい流れが出来つつあります。

本年度をもってCOC+事業の補助期間は終了しますが、これからは、地元での自立的な取組が求められます。令和2年度からは、新たに「大学地域コンソーシアム鹿児島」内に設置される「地域連携・就業部会」において、COC+事業とその推進の仕組みが継承されることとなっています。

これまでの事業協働機関はじめ関係の方々の並々ならぬ御尽力に、厚く御礼申し上げますとともに、今後も「オールかごしま」による連携を一層強め、若者の地元定着と地域活性化に向けた取組が推進されることを祈念いたします。

令和2年3月

かごしま学卒者地元定着促進協議会議長

鹿児島大学長 佐 野 輝

I 事業協働機関の連携

1 かごしま学卒者地元定着促進協議会 予定

令和元年度 第1回かごしま学卒者地元定着促進協議会 議事要旨

日 時 令和2年3月16日(月)
場 所 鹿児島大学事務局 特別会議室(4階)
出席者 38人(うち委員27人)

〈協議事項〉

- 1 かごしまCOC+事業の継承及び協議会の解散について
- 2 かごしまCOC+事業のこれまでの取組と成果について
- 3 その他

〈報告事項〉

- 1 令和元年度かごしまCOC+事業の目標達成状況について
- 2 その他

※ 協議会の開催は本事業報告書の作成後となるため、予定で記載した。
実績(議事要旨)については別途、補完する。

2 COC+教育プログラム開発委員会 記録

※配布資料については、本報告書での記載を省略した。

第1回 COC+教育プログラム開発委員会(メール会議)

日 時 令和元年7月24日～31日(メール会議)

〈議 事〉

地元就職率向上に向けた取組について
～平成31年3月卒業生の地元就職率を踏まえたアンケートのまとめ～

〈審議結果〉

回答のあった8委員すべてから「承認する」との回答があり、審議の結果異議なく承認された。
なお、審議に際しては、回答がない場合「承認」とみなす旨を付記していたことから、結果的に全会一致で承認された。

第2回 COC+教育プログラム開発委員会

日 時 令和元年10月11日(金)
場 所 鹿児島大学事務局 特別会議室(4階)
出席者 15人

〈協議事項〉

- 1 かがしまCOC+事業終了後のあり方について
- 2 次年度のかがしまCOC+公開講座のあり方について
- 3 「かがしまCOC+総括シンポジウム」について

〈報告事項〉

- 1 「かがしまCOC+公開講座2019」について
- 2 「地元企業よかとこ発見バスツアー2019」について
- 3 かがしまCOC+通信について



議 事 要 旨

〈協議事項〉

- 1 かがしまCOC+事業終了後のあり方について
南COC+推進コーディネーターが、資料1及び2により説明した。委員から質疑・意見は特になかった。武隈委員長が議事について諮り、原案どおり了承された。
- 2 次年度のかがしまCOC+公開講座のあり方について
井上副委員長が、資料2により来年度の継承事業計画のうち公開講座のあり方について説明した。委員から質疑・意見等は特になかった。武隈委員長が議事について諮り、原案どおり承認された。
- 3 「かがしまCOC+総括シンポジウム」について
井上副委員長が、資料3により11月29日開催予定の総括シンポジウムについて、プログラム内容等について説明した。委員から質疑・意見等は特になかった。武隈委員長が議事について諮り、原案どおり承認された。

〈報告事項〉

- 1 「かがしまCOC+公開講座2019」について
井上副委員長が、資料4-1及び4-2により説明した。意見等は特になかった。
- 2 「地元企業よかとこ発見バスツアー2019」について
南COC+推進コーディネーターが、資料5により説明した。意見等は特になかった。
- 3 かがしまCOC+通信について
牧野特任助教が、資料6により説明した。意見等は特になかった。

第3回 COC+教育プログラム開発委員会(メール会議)

日 時 令和元年12月20日～26日(メール会議)

〈議 事〉

「大学地域コンソーシアム鹿児島」規約改正(案)について

〈審議結果〉

意見等は特になく、了承された。

※「その他」として、令和2年度の新コンソーシアムの負担金の考え方について、意見・要望があり、コンソーシアム事務局につないだ。

3 COC+教育プログラム開発委員会 部会 記録

(地域志向教育部会、地元就業部会、広報部会、ポストCOC+あり方部会)

※コンソーシアムとは、「大学地域コンソーシアム鹿児島」のことをいう。

※配布資料については、本報告書での記載を省略した。

第1回 部会(3部会合同会議)

日 時 平成31年4月23日(火)

場 所 鹿児島大学 産学・地域共創センター セミナー室

出席者 23人

〈協議事項〉

- 1 かごしまCOC+事業終了後のあり方について
- 2 平成31年度共同事業(案)について
 - ① 地元企業見学バスツアー
 - ② かごしまCOC+総括シンポジウム
 - ③ かごしまCOC+公開講座

〈報告事項〉

- 1 平成30年度外部評価について

〈その他〉

- 1 平成30年度事業報告書について

議 事 要 旨

〈協議事項〉

- 1 かごしまCOC+事業終了後のあり方について
資料1-1により、コンソーシアム運営委員会(3/26)で説明し、一体化に向け協議していくことについて了承を得たことを報告した。
資料1-2、1-3により、今後検討すべき事項や会員の考え方等について説明・協議し、いずれも了承された。
- 2 平成31年度共同事業(案)について
 - ① 地元企業見学バスツアー
資料2-1、2-2により、実施日までの作業工程とともに募集チラシ作成等の依頼を行い、協議し、了承された。
 - ② かごしまCOC+総括シンポジウム
資料3により素案について説明・協議し、了承された。
 - ③ かごしまCOC+公開講座
資料4により、分科会ごとの担当校について説明・協議し、了承された。

〈主な意見〉

- ・行政会員に4自治体が入っているが、その理由は何か。今後、増えていくのか。
- ・産業会員から3人選出予定のコンソーシアム代表者会議や運営委員会等の委員は、どのようにして選ぶのか。互選か。
- ・新たな組織体制は、私立大学で進めようとしているプラットフォームと同じか。

〈報告事項〉

- 1 平成30年度外部評価について
資料5により、平成30年度外部評価(3/29)の結果について説明した。

第2回 部会(4部会合同会議)

日 時 令和元年7月18日(木)
 場 所 鹿児島大学 産学・地域共創センター セミナー室
 出席者 22人

〈協議事項〉

- 1 かがしまCOC+事業終了後のあり方について
- 2 かがしまCOC+公開講座について
- 3 かがしまCOC+総括シンポジウムについて

〈報告事項〉

- 1 地元就職率向上に向けた取組について(アンケート結果まとめ)
- 2 地元企業見学バスツアーについて
- 3 かがしまCOC+通信について

議事要旨

〈協議事項〉

- 1 かがしまCOC+事業終了後のあり方について
 資料1-1により、事業協働機関に対して行った、新たな組織への移行に係るヒアリング結果について説明・協議し、了承された。
 資料1-2により、新たな組織に係る名称や会員の位置付けなどについて、COC+事務局案とコンソーシアム事務局案の両論併記で示し、説明・協議し、了承された。
 資料1-3により、フォローアップ調査に係る事業協働機関の満足度アンケート結果について説明・協議し、了承された。
- 2 かがしまCOC+公開講座について
 資料2により、学生の応募状況について説明するとともに、さらなる参加者の確保について依頼した。
- 3 かがしまCOC+総括シンポジウムについて
 資料3により、素案について説明・協議し、了承された。
 特に、成果報告の発表者やパネルディスカッションの登壇者(モデレーター、パネリスト)についての確保、配布資料の原稿作成について依頼した。

〈主な意見〉

- ・企業会員と団体会員などがあり、会員の位置づけが分かりにくい。もう少し分かりやすく。
- ・従来どおりとなる大学の分担金(予算)について、早めに金額を決めてほしい。

〈報告事項〉

- 1 地元就職率向上に向けた取組について(アンケート結果まとめ)
 資料4-1、4-2、4-3及び参考資料1、2により、平成30年度地元就職率を踏まえて各校に対して実施したアンケート結果について説明した。
 今後、COC+教育プログラム開発委員会(メール会議)に諮り、関係者にフィードバックする予定であることについても説明した。
- 2 地元企業見学バスツアーについて
 資料5により、各コースの申込み状況について説明した。また、各校から、今後の参加学生確保に向けた取組予定などについて説明があった。
- 3 かがしまCOC+通信について
 資料6により、かがしまCOC+通信第16号、第17号の発行を説明した。

第3回 部会(4部会合同会議)

日 時 令和元年9月18日(水)
 場 所 鹿児島大学 産学・地域共創センター セミナー室
 出席者 23人

〈協議事項〉

- 1 かがしまCOC+事業終了後のあり方について
- 2 次年度のかがしまCOC+公開講座のあり方について
- 3 かがしまCOC+総括シンポジウムについて

〈報告事項〉

- 1 かがしまCOC+公開講座について
- 2 地元企業見学バスツアーについて
- 3 かがしまCOC+通信について

議事要旨

〈協議事項〉

- 1 かがしまCOC+事業終了後のあり方について
 資料1により、鹿児島大学の大学運営会議(7/30)において決定された、協議会及びコンソーシアムの両会議体に諮る体制案について説明した。名称、会員の位置付け、コンソーシアム代表者会議・運営委員会の構成とその考え方についても説明・協議し、了承された。
 資料2により、継承事業の計画案、実施体制、予算措置について説明・協議し、了承された。
- 2 次年度のかがしまCOC+公開講座のあり方について
 資料2の(3)により、次年度のかがしまCOC+公開講座は、コンソーシアムの教育連携事業部会で開催されている「かがしま教養プログラム」に組み込む方向で継承していくことで了承された。
- 3 かがしまCOC+総括シンポジウムについて
 資料3により、パネルディスカッションの登壇者等について決定状況について説明するとともに、未決定の行政・産業界からのパネリストについて今後作業を急ぐことを説明し、了承された。

〈報告事項〉

- 1 かがしまCOC+公開講座について
 資料4-1、4-2により、8/10に開催したかがしまCOC+公開講座の報告と、アンケート結果について説明した。
- 2 地元企業見学バスツアーについて
 資料4-2、5により、地元企業見学バスツアー(9/3、9/4、9/5、9/6に実施)の参加実績を説明した。
- 3 かがしまCOC+通信について
 資料6により、かがしまCOC+通信第18号、第19号の発行を説明した。
 また、第20号、第21号の発行予定についても説明した。

第4回 部会(4部会合同会議)

日 時 令和2年2月5日(水)
 場 所 鹿児島大学 産学・地域共創センター セミナー室
 出席者 22人

〈協議事項〉

- 1 新コンソーシアム「地域連携・就業部会」の実施事業(令和2年度)について
 ・地元就業推進フォーラム2020【仮称】(素案)について
 ・地元企業よかとこ発見バスツアー2020(案)について
- 2 令和2年度の公開講座の取扱について
- 3 新コンソーシアム「地域連携・就業部会」の運営について
- 4 4月以降の担当者について
- 5 かがしまCOC+通信第22号(最終号)の発行について

〈報告事項〉

- 1 かがしまCOC+事業の継承に係る新たな体制の協議状況等について
- 2 「かがしまCOC+総括シンポジウム」について
- 3 かがしまCOC+教育プログラム開発委員会(メール会議)について

〈その他〉

- 1 令和元年度事業報告書について
- 2 3月末までの業務予定について
- 3 令和元年度事業報告書について

議事要旨

〈協議事項〉

1 新コンソーシアム「地域連携・就業部会」の実施事業(令和2年度)について

資料1-1により、地元就業推進フォーラム2020【仮称】(素案)について協議し、大筋で了承された。今後、開催日や場所等について具体的に詰めていくこととした。

資料1-2により、地元企業よかとこ発見バスツアー2020(案)について協議し、了承された。今後、実施日や担当校、使用するバス等について具体的に詰めていくこととした。

2 令和2年度の公開講座の取扱について

資料2により、融合先となるコンソーシアム教育連携事業部会担当者との協議状況と、来年度のシラバスでの文言調整等を終了したことを説明した。今後、「食と観光」の講義担当教員を依頼することとなった。

3 新コンソーシアム「地域連携・就業部会」の運営について

資料3により、「地域連携・就業部会」の運営の考え方を説明するとともに、分科会設置など具体的な運営方法等について説明・協議し、了承された。

4 4月以降の担当者について

COC+事業に関する残務対応の担当者については、COC+事務局から照会することとなった。「地域連携・就業部会」の担当者については、今後、コンソーシアム事務局が所属部会の確認とともに取りまとめることとなった。

5 かがしまCOC+通信第22号(最終号)の発行について

資料4により、これまでの総括として第22号(最終号)を発行することを説明し、了承された。今後、各広報部会員に編集後記原稿をお願いすることとした。

〈主な意見〉

- ・フォーラムの開催日は、学園祭や鹿児島国体の日程も踏まえて調整・決定するのがよい。
- ・新コンソーシアム「地域連携・就業部会」の構成員は、いつ頃決まるのか。
- ・文科省との「約束」でCOC+事業を継承することとなっているので、少なくとも現構成員はそのまま、あと、いくつかの高等教育機関等が加わるものと考えている。
- ・「地域連携・就業部会」の運営については、手続きとしては新部会で決定されることになるが、基本的な部分について可能な範囲で詰めておきたいという考えで提案した。

〈報告事項〉

1 かがしまCOC+事業の継承に係る新たな体制の協議状況等について

資料5-1から5-4により、コンソーシアムの事務局を担う鹿児島大学での組織改編による新たな組織と、新コンソーシアムでの事業部会設置について、これまでの検討・協議状況と今後の予定について説明した。(※議事の進行上、会議の冒頭で行った。)

2 「かがしまCOC+総括シンポジウム」について

資料6により、かがしまCOC+総括シンポジウムが成功裡に終了したことの報告と、協力に対するお礼を行った。

3 COC+教育プログラム開発委員会(メール会議)について

資料7により、審議(メール会議)の結果、新コンソーシアムの規約改正(案)が了承されたことを説明した。併せて、「その他」として、負担金について意見・要望があったことも説明した。

4 その他の機関等との連携

1 鹿児島労働局との連携

◇「鹿児島働き方改革推進協議会」への出席

鹿児島労働局が設置している政労使から成る「鹿児島働き方改革推進協議会」会議に、かごしまCOC+事務局はオブザーバーとして出席した。その中で、「かごしまCOC+事業でも働き方改革は欠かせず、就職に際して学生が求めるものは賃金だけでなく、むしろ職場の雰囲気や働きがいなどである。受入れ企業として働き方改革に取り組んでほしい」旨発言し、関係者の協力を求めた。（令和元年5月13日、東急REIホテル）

◇リーフレット「鹿児島に住み働くことの魅力」の活用

平成29年度の政労使会議で、鹿児島大学の発意により鹿児島労働局が作成したリーフレット「鹿児島に住み働くことの魅力」の提供を受け、地元就職支援イベントや授業等で学生に配付・説明するなどして活用した。

また、鹿児島大学のセカンドキャンパス（東京、福岡）にも設置した。

2 鹿児島市との連携

◇「令和元年度第1回かごしまで働きたい若者応援会議」への参加

各団体（産業界・教育界・行政の18団体）から、取組実績の報告がなされた。

鹿児島大学COC+グループからは、COC+大学及びCOC+参加校の若者の地元定着促進に関する取組が報告され、会議参加者にCOC+の活動を周知できた。（令和2年3月17日）

3 九州・沖縄ブロック及び全国COC+大学との連携

◇各種の情報収集

九州・沖縄ブロックのCOC+大学を通じて、地元就職率の状況、インターンシップの参加状況、COC+補助終了後の検討状況等について情報収集し、かごしま学卒者地元定着促進協議会、COC+教育プログラム開発委員会及び同委員会部会（4部会）の会議資料に反映するなどして、かごしまCOC+事業の推進に役立てた。

◇シンポジウム等への参加

シンポジウム等に参加し、他の事業協働地域の取組について学ぶとともに、関係者と情報交換した。

- ・九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムへの参加（令和2年2月8日、熊本）
- ・COC/COC+全国シンポジウムへの参加（令和2年2月27～28日、高知）
- ・全国COC+推進コーディネーター会議への出席（令和2年2月28日、高知）

4 海外高等教育機関との交流

◇韓国における学会発表

韓国の慶南大学主催の「第1回地域革新大学ネットワーク国際フォーラム」（韓国 慶尚南道）において、かごしまCOC+事業の招待講演を行った。（令和元年12月5～6日）

◇台湾における地方創生に向けた意見交換

台湾の国立高雄科技大學から招待を受け、かごしまCOC+事業の事業報告のほか、高雄市における地方創生の取組に関する意見交換を行った。（令和2年2月24～27日）

Ⅱ 共同事業の取組と成果

(平成27年度～令和元年度)

1 COC+の実績とレガシー

●COC+の実績

かごしまCOC+では、「学卒者の地元就業率」「県内でのインターンシップ参加者数」「事業協働機関雇用創出数」を主要な数値目標として掲げてきた。このうち、事業協働機関雇用創出数と県内でのインターンシップ参加者数は目標値をクリアしたものの、地元就職率は基準値である平成26年度をも下回り、目標をクリアすることはできなかった。また、鹿児島大学では、県内でのインターンシップ参加者数は目標値をクリアしたものの、年々減少傾向にありテコ入れが必要である(図1、図2、図3)。なお、COC+推進コーディネーターのネットワークを利用して、九州各県(可能な限り全国の状況の把握)の結果は、鹿児島とほぼ同様の傾向であった。

COC+事務局では、毎年、各事業協働機関に対して前年度の地元就業率の実績を示し、原因分析及び対策について調査を行い、調査結果を各事業協働機関で情報共有し、各年度の事業実施に生かしてきた。共通した原因としては、首都圏を中心とする県外企業からの求人圧力が年々高まりを見せたこと(給与水準の引き上げ、働き方改革への対応、求人時期の前倒し、ワンデーインターンシップと称する企業説明会の増加など)が考えられ、これに対し、県内企業の対応スピードが追いついていない状況があった。

【学卒者の地元就職率】

かごしまCOC+は事業目標(KPI)として、学卒者の地元就業率をCOC+8大学等全体で、平成26年度の54%から令和元年度末には61.5%まで引き上げること为目标に掲げ、様々な取組を行ってきた。

しかし人口減少が加速する現在、首都圏を中心とする県外企業からの求人圧力は高く、目標の達成にはほど遠い状態が続いている。この傾向は首都圏から遠い都道府県ではほぼ共通している。

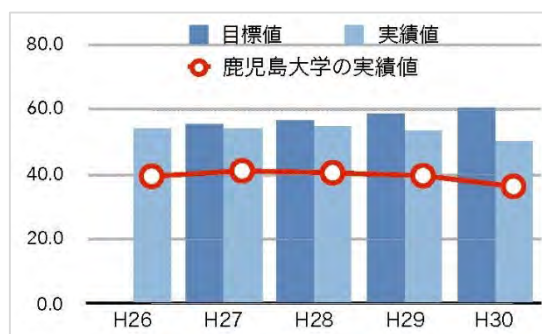


図1 学卒者の地元就職率の推移

【県内でのインターンシップ参加者数】

県内におけるインターンシップ参加者数は毎年度目標値を上回り順調な伸びを示している。近年インターンシップの内容は多様化しており、これまでの一般的な3～5日の職場体験型から、事実上に会社説明会になっている1デイ2デイズといった超短期ものも増えている。

一方、学生と受入側双方にとって負担は大きいが得るものも大きい課題解決型の長期インターンシップも徐々に増えつつある。

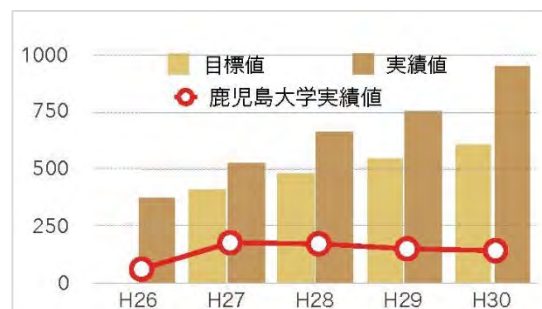


図2 県内でのインターンシップ参加者数

【事業協働機関雇用創出数】

毎年、目標値を上回る新規雇用が生み出されている。一方で、新卒者の県外流出も多く、県全体としては厳しい求人難の状態が続いている。

新規企業立地や新産業の創出では、即戦力となる中途採用が多く、学卒者の採用が本格化するのには、COC+事業終了後となる見込みである。



図3 事業協働機関雇用創出数

●COC+のレガシー

学卒者の地元定着率の目標達成は厳しい状況ではあったものの、目標達成に向けた様々な取組を通して、今後の鹿児島県の活性化につながるであろういくつかの重要な成果が得られた(図4)。

特に、「かごしま学卒者地元定着促進協議会」というプラットフォームの構築による取組は、地(知)の拠点形成の基盤強化と、「オールかごしま」による地方創生への持続的取組を可能にするものと言える。

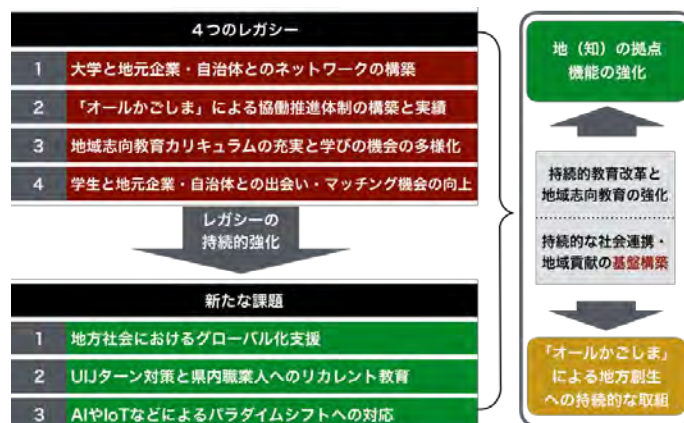


図4 かがしまCOC+のレガシー

このプラットフォームにより、教職員・学生と地元企業・自治体との接触機会が広がり、地域活性化に向けた産・学・官それぞれの思いに対する相互理解が進んだ。地域人材育成では、企業・自治体からの講師派遣、フィールドワークを活用した課題解決型のアクティブラーニングの導入、地元でのインターンシップや企業見学などが活発に行われるようになり、地域人材のキーマンとなる学生たちの、地域理解・地域就業への意欲向上につながっている。また、学卒者の受け入れ環境の向上に向けたシンポジウム・フォーラムも、学生、地元企業・自治体等が一堂に会する機会として定着してきた。

次年度以降のCOC+成果の持続的展開は、大学の教育改革・地域人材育成はもとより、地方社会におけるグローバル化支援、UIターン対策と県内職業人へのリカレント教育、AIやIoTなどによるパラダイムシフトへの対応など、地域課題の解決にとっても極めて重要である。

【大学と地元企業・自治体とのネットワークの構築】

地(知)の拠点にとって最も重要な基盤は、地域と如何につながり安定的かつ持続的な協力関係を構築できるかであろう。これからの大学は社会の変化に対して、企業、行政と呼応するとともに的確に対応しながら、社会、特に地域社会の活性化に寄与していくことが求められている。そのためにも、日頃から互いの顔が見える信頼関係を築いておくことが重要であり、このことが大学の基盤強化につながるものと考えられる。

【「オールかごしま」による協働推進体制の構築と実績】

様々な目的と形態を有する多様な組織が集まった大きな会議体を運営していくには、それなりのノウハウが必要とされる。今回のかがしまCOC+事業によって、様々な組織が一堂に会して、目標を共有しその実現のために具体的な取組を協働して進めていくための体制と経験は、今後の地域社会の活力を高める上で大きな資産となる。

【地域志向教育カリキュラムの充実と学びの機会の多様化】

学卒者が地域社会のキーパーソンとして成長していくためには、多様な社会状況に対するリアリティを高め、専門教育での学びを地域課題の解決に生かしていく視点の涵養や協働の体験が重要で、そのためには、地元産業界や行政からの講師派遣等によって、地域課題や彼らの経験知を学生に伝えていくこと、また、大学の枠を超えた協働での学びの機会を提供していくことが重要である。

【学生と地元企業・自治体との出会い・マッチング機会の向上】

学卒者の地元就業を進めるためには、地域企業や自治体との接触機会を高めることが重要であるが、企業人や行政職員による授業への講師派遣やインターンシップ機会の向上、企業見学会の実施、教員・学生・企業・行政が一堂に会するフォーラムの開催などが定着してきたことは、好ましい流れであり、今後も様々な工夫を凝らしていくことが求められる。

2 COC+シンポジウム・COC+推進フォーラム

学生と企業人の出会い・交流の機会を高め、地元就職への意識醸成と受入環境の向上を図ることを目的に、シンポジウムや推進フォーラムを共同事業として企画し、5年間で5回開催してきた。

これにより、大学側と地元産業界・行政との意思疎通を図り事業の意義や目的を共有し、「オールかごしま」による連携・協働を、円滑かつ効果的に推進することができたと考えている。なお、各大学等においても独自のシンポジウムを開催してきた。

令和2年度以降については、学卒者の地元定着に向けたフォーラムを、大学地域コンソーシアム鹿児島において事業継承することとしており、代表者会議において令和2年度の事業計画が承認されている。

●キックオフシンポジウム

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム

日 時 平成28年3月7日(月)

場 所 東急REIホテル

参加者 171人(事業協働機関関係者、一般市民)

【概要】

平成27年11月に、文部科学省地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラム」が採用されたことを受け、事業を推進するための決意表明を、県内に宣言する機会とした。

はじめに、かごしま学卒者地元定着協議会議長の前田芳實鹿児島大学長の開会挨拶と事業協働機関を代表して伊藤祐一郎鹿児島県知事(代読、中堂藺哲郎企画部次長)の挨拶、文部科学省高等教育局大学振興課永田昭浩課長補佐による来賓挨拶があった。

その後、住吉文夫鹿児島大学理事・副学長(研究担当)からかごしまCOC+の概要説明が行われ、引き続き、小林浩リクルート進学総研所長による特別講演「地域社会で必要とされる大学とは」が行われた。

休憩を挟んでパネルディスカッションが行われ、最後に、COC+事業推進責任者の福島誠治鹿児島大学産学官連携推進センター長の閉会挨拶で終了した。

【パネルディスカッション】 地方創生と高等教育機関の役割

- ・パネリスト:清原貞夫(鹿児島大学)、大久保幸夫(鹿児島国際大学)、楠原良人(鹿児島工業高等専門学校)、中堂藺哲郎(鹿児島県)、津曲貞利(鹿児島商工会議所)、片平金也(鹿児島県農業協同組合中央会)、白橋大信(公益社団法人鹿児島県観光連盟)
- ・モデレーター:小林浩(リクルート進学総研所長)

大学側のパネリストからは、地域人材の育成にフィールドワークなどを活用した実践的教育の展開や地元企業・自治体との連携について、地元産業界のパネリストからは、地域人材の地元定着に向けて産学官金の連携を強化することへの期待が、行政のパネリストからは、県の総合計画や地域人材の地元定着に向けた施策についての紹介と教育産業界との連携について、それぞれ期待と決意が示された。



パネルディスカッションの様子

【情報交換会】

キックオフシンポジウム終了後、同会場にて情報交換会が行われ、自由な雰囲気の中で活発な情報交換がなされ、事業協働機関による事業展開を円滑にするよい機会となった。

●九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016 COCとCOC+が拓く地方創生と大学改革

日 時 平成28年10月29日(土)
場 所 鹿児島大学 稲盛会館 キミ&ケサメモリアルホール
参加者 205人(九州・沖縄地区COC/COC+関係者、学生、企業・団体及び自治体関係者、事業協働機関、一般市民など)

【概要】

九州沖縄地区のCOC/COC+事業実施担当者が一堂に会し、各県でのCOC/COC+の取組及び産学金独自の取組等について情報交換・共有するとともに、地(知)の拠点としての各大学のあり方などについて意見を交わし、効果的な事業推進に努めることを目的として開催した。

はじめに、前田芳實鹿児島大学長の主催者挨拶と三反園訓鹿児島県知事の来賓挨拶があり、続いて塩田康一内閣府地方創生推進室次長による基調講演と、3つの事例発表が行われた。

休憩を挟んで3つの分科会に分かれて、参加者による活発な意見交換がなされ、再び全体会合に戻り、分科会の成果発表とそれらを踏まえたパネルディスカッションが行われた。最後に、かごしまCOC+事業推進責任者の福島誠治鹿児島大学産学官連携推進センター長の閉会の挨拶で締めくくった。

【基調講演】地方創生への取組と今後の方向性

塩田康一氏が、内閣府地方創生推進室次長の立場から、地方創生におけるCOC/COC+のねらいと方向性について解説し、「しごと」と「ひと」の好循環を創り出すために、各大学における地域人材育成と学卒者の地元定着への取組に期待を示した。また、雇用対策や地域産業の競争力強化等の施策について紹介があり、「オールかごしま」での活躍への期待と激励があった。

【事例発表】

大学、学生、地域の立場から実践的な取組事例について説明がなされた。

- ・國武久登(宮崎大学みやだいCOC推進室長)
「大学COC事業 から地域を志向する新学部設置へ」
- ・若松香澄(鹿児島大学法文学部3年)
「かごんまのよかとこ発信プロジェクト」
- ・斎藤拓(九州インターンシップ推進協議会)
「産学官連携による地域の人材育成について」



事例発表の様子

【分科会】

- ・第一分科会「大学が変わる」座長: 富永茂人(鹿児島大学)

話題提供者: 石川雄一(大分大学)、伊藤奈賀子(鹿児島大学)、三島伸雄(佐賀大学)、枚田邦宏(鹿児島大学)、影山隆之(大分県立看護科学大学)、遠藤光男(琉球大学)

・第二分科会「学生が動く」 座長:牧野暁世(鹿児島大学)

話題提供者:岡部由紀夫(西九州大学)、吉村充功(日本文理大学)、
中谷賢人(愛媛大学 3年)、高橋空雅(北九州市立大学3年)

・第三分科会「地域が紡ぐ」 座長:井上佳朗(鹿児島大学)

話題提供者:日高政勝(さつま町長)、田中ひろみ(北九州市立大学)、
大久保幸夫(鹿児島国際大学)、鶴ヶ野未央((株)九州タブチ)

【パネルディスカッション】「大学が変わる×学生が動く×地域が紡ぐ＝地方創生

・パネリスト:塩田康一(内閣府地方創生推進室次長)、國武久登(宮崎大学みやだいCOC推進室長)、
神代真宏(九州インターンシップ推進協議会)、若松香澄(鹿児島大学法文学部3年)

・コーディネーター:出口英樹(鹿児島大学かごしまCOCセンター特任准教授)

基調講演、事例発表、分科会での話題を受けて、大学の地域人材育成、教育カリキュラム改革、学生の
地域貢献意識の醸成、インターンシップのあり方や地元企業の受け入れ体制について、多角的な討論が
行われた。

●かごしまCOC+推進フォーラム2017

「大都市圏に対する地元就業の魅力」～かごしまにおける学卒者の地元就業への取組～

日 時 平成29年6月5日(月)

場 所 鹿児島大学 稲盛会館

参加者 約220人(企業経営者・人事担当者及び自治体、事業
協働機関、教職員、学生など)

【概要】

このフォーラムは、地元企業に対して、地元大学等が行政や企業
と協働し「オールかごしま」で地域人材の育成に努めていることを理解
してもらおうとともに、地元就業の魅力やメリットについて認識を共
有し、地元企業や大学等が、学生に対して大都市圏に比べ地元で
も豊かな環境の中で自分の可能性や夢の実現ができることを情報
発信することにより、地元就業への意識醸成を図ることを主要な目
的とした。

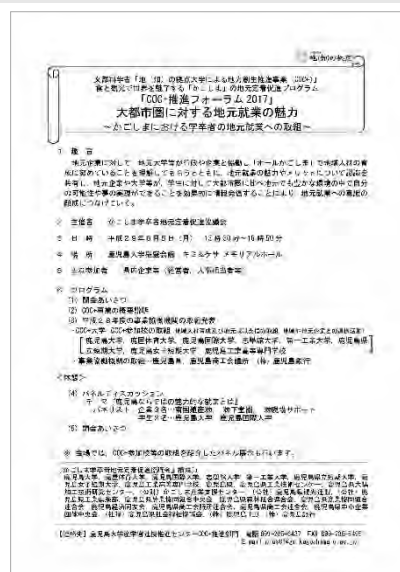
かごしま学卒者地元定着促進協議会議長の前田芳實鹿児島大学長の挨拶に続き、前半はCOC+8大学
等と鹿児島県、鹿児島商工会議所、鹿児島銀行から人材育成と地元就業支援の取組の紹介があり、後半
はパネルディスカッションが行われ熱心な議論が交わされた。

【パネルディスカッション】鹿児島ならではの魅力的就業とは

・パネリスト:西村文孝(南国殖産(株)人事教育課長代理)、下堂
蘭元((株)下堂園副社長)、福留進一((株)現場サ
ポート代表取締役)、張本淳平(鹿児島大学4年)、
西村未来(鹿児島国際大学4年)

・モデレーター:井上佳朗(鹿児島大学産学連携センター特任教授)

県外企業に対して地元企業魅力を維持・向上させるには、①学卒者が活躍できる場を積極的に作るこ
と、②従業員の活躍に対して適切な評価がなされること、③ワークライフバランスの取れた就業環境を整備
することなどに加え、中小企業の多い鹿児島では、「規模の小ささが魅力につながる」ことが指摘された。



学生と企業人による
パネルディスカッションの様子

学生からは、「企業とは、お金でつながるのではなく、思いやエネルギー(熱意)でつながることが生きがいや充実感を実感しやすい」、「中小企業は大企業に比べ、一人の従業員が係わる仕事の種類が多い分、仕事に対する自我関与が強く、充実感にもつながりやすい」との発言があった。

また、企業人と学生との直接接触の機会を低学年からもっと増やしてほしいとの要望や、「女性や外国人が働きやすい職場環境の整備」が、企業の魅力アップにとって重要との意見が述べられた。

【事後評価】

フォーラムの満足度について、「非常に満足」及び「やや満足」と回答した人が全体の72%あり、概ね満足のいくフォーラムとの評価を得た。学卒者の採用について、最も多かった回答は、「毎年採用したい」で全体の60%であった。インターンシップについては、「積極的に受け入れたい」及び「受け入れたい」と回答した人は全体の59%で、半数以上が前向きな姿勢であったが、多くは受入は「内容次第」とであった。

●かごしまCOC+推進フォーラム2018

「私たちの『就職本音トーク』～学生の本音を地元企業にぶつける～」

日 時 平成30年10月27日(土)
場 所 鹿児島大学 学習交流プラザ
参加者 約120人(学生、地元企業、関係団体など)

【概要】

地元就職及び県外就職について、学生どうしのトークや参加学生全員と地元企業とのトークを通して、地元就職にとって魅力的な職場づくりの重要性を理解し、地元就職の意識醸成につなげていくことを主要な目的とした。

フォーラムは、COC+8大学等の参加学生と地元企業人との間で、互いの就業観を真剣に述べ合え、まさに本音をぶつける「場」になった。なお、COC+共同事業では、企画から運営までを学生主体で手掛けた初めての取組であり、開会に先立ち学生による準備状況をまとめた動画をスクリーンで放映した。



【壇上トーク】 学生から見た魅力的な地元企業とそこでの働き方

- ・トーク学生(パネリスト):永留慎太郎(志学館大学4年)、溝口絵子(鹿児島県立短期大学2年)、森口知帆(鹿児島女子短期大学2年)、宮下歩未(鹿児島大学4年)、池元洋平(鹿児島大学4年)、金子奈央(第一工業大学4年)
- ・モデレーター:七村祥平(鹿児島国際大学4年)

地元就職を決めた理由では、「文化など地元のよいものを支えていきたい」、「住み慣れた地域に貢献・恩返ししたい」、県外就職では、「自分のやりたいことができる企業、大学で学んだことが生かせる企業であった」などが述べられ、地元企業に対しては、福利厚生や長期研修制度の充実、女性が活躍できる職場づくり、積極的な企業の情報発信などが挙げられた。会場の参加者は、スマホを使って自分の意見をリアルタイムで投稿し、それをモデレーターが紹介するなどの工夫も行われた。



学生の「壇上トーク」

【全員トーク】

全学生と企業人が10グループ(1グループ:学生6人、企業2人)に分かれ、ファシリテーター役の学生の進行で、壇上トークを受けて議論を深め、最後に、6グループがまとめを発表した。学生の意見として「地元企業は想像以上に様々な改善工夫をしていることがわかったが、学生によく伝わっていない」、「地元・県外以前に、どのような働き方をするか考えることができた」、また企業の意見として、「固定観念を持たずに、視野を広げていろいろなことに挑戦してほしい」、「情報発信にもっと力を入れ、労働環境の改善に努めていきたい」などがあった。

【学生たちの準備作業】

COC+事務局スタッフが参加校を廻り、学生達と意見交換を行った後、地理的に離れた学生達が一堂に会して協働作業を行うために、鹿児島中央駅前にある市所有の会議室を借りて、午後6時30分から2時間程度の企画立案の基本作業を4回行った。その後、メールによる作業と鹿児島大学での個別作業担当者(総合司会、モデレーター、ファシリテーター)による打合せなどを行った。教職員はスーパーバイザーとして、学生達の作業が円滑に進行するように、場所の確保やフォーラム運営のノウハウを伝えるなどの支援を行った。



熱気に溢れた「全員トーク」

【事後評価】

フォーラムに参加して、ほとんどの学生(80%)が地元・県外就職のイメージが変わったことが明らかになった。企業はほぼ全員(95%)が学生の本音を感じられたと回答した。その他、「企業の求める人材が少しわかった気がした」、「学生と企業の本音と真剣さが伝わり、素晴らしい成果であった」といった意見も寄せられた。

●かごしまCOC+総括シンポジウム

学卒者の地元定着への取組～これまでそしてこれから～

日 時	令和元年11月29日(金)
場 所	鹿児島大学 稲盛会館 キミ&ケサメモリアルホール
参加者	約160人(事業協働機関関係者、地域企業、自治体、教職員、学生など)

【概要】

はじめに、協議会議長の佐野輝鹿児島大学長による開会の挨拶、文部科学省総合教育政策局の水田功地域学習推進課長の来賓挨拶(代読、香西健次課長補佐)があり、次いで、日本政策投資銀行南九州支店長の新崎恭史氏による特別講演が行われた。

その後、かごしまCOC+事業の5年間の取組と成果報告が行われた。休憩を挟んで、令和2年度からのかごしまCOC+事業継承に向けた推進体制と継承すべき共同事業について説明があった。最後に、産・学・官・学生が登壇してパネルディスカッションが行われ、5年間の取組を総括し、補助期間終了後に向けた事業の継承と推進体制及び今後の方向性などについて、熱心な議論が交わされた。

【特別講演】 鹿児島県の未来～地域経済の振興と人材育成～

新崎恭史氏（日本政策投資銀行南九州支店長）による特別講演があり、少子高齢化、人口減少やSociety5.0の時代到来に直面する鹿児島の今後の方向性と、かごしまCOC+事業で築いた産学官金の連携インフラを生かした地域人材育成の推進に対する期待が述べられた。



特別講演 新崎恭史
日本政策投資銀行南九州支店長

【5年間の取組と成果】

「学卒者の地元定着への取組:これまで」 鹿児島大学の井上佳朗特任教授と第一工業大学の吉本博明教授から、かごしまCOC+が平成27年度に採択されてから5年間の、地域人材育成、地元就業支援、就業先の確保拡大への取組について、報告が行われた。最初に、4つの共同事業（かごしまCOC+公開講座、地元企業見学バスツアー、かごしまCOC+推進フォーラム、かごしまCOC+通信）の取組と成果について報告があり、引き続きCOC+8大学等の特徴を生かした独自の取組について報告があった。学卒者の地元定

1	大学と地元企業・自治体とのネットワークの構築
2	「オールかごしま」による協働推進体制の構築と実績
3	地域志向教育カリキュラムの充実と学びの機会の多様化
4	学生と地元企業・自治体との出会い・マッチング機会の向上

成果報告:かごしまCOC+4つのレガシー

着率の目標実現は、なかなか困難ではあるものの、かごしまCOC+事業を推進することで得られたものも多く、地（知）の拠点大学の基盤となるレガシーとして左図に示した4つをあげた。

【ポストCOC+の推進体制】

COC+事業推進責任者の前田広人鹿児島大学産学・地域共創センター長より、補助期間終了後は、かごしまCOC+事業の円滑な継承を図るために、「大学地域コンソーシアム鹿児島」内に「産学連携・就業部会」を設置し、現在の「かごしまCOC+事業協働機関」に加え、新たに、いくつかの大学や機関が参加した「産学官金」協働のプラットフォームとするとの説明があった。

また、鹿児島大学では、円滑で機動的な地域人材育成と地元就業支援活動を支えるために、令和2年度よりキャリア形成支援センターを発足させ、かごしまCOC+事業の経験教員を配置することとしている。

【パネルディスカッション】 人口減少社会における‘オールかごしま’の取組

- ・パネリスト:中野功久（鹿児島県商工労働水産部次長）、山下春洋（鹿児島商工会議所専務理事）、志賀玲子（志学館大学准教授）、篠原愛衣（鹿児島大学3年）、麻生大雅（第一工業大学4年）
- ・モデレーター:大久保幸夫（鹿児島国際大学長）

活発な議論が展開され、その中で、かごしまCOC+事業で構築した産学官連携ネットワークや地域人材育成に係る協働体制等のレガシーを生かし、‘オールかごしま’による持続的な取組の重要性が再確認された。

これまでのかごしまCOC+事業は、次年度以降、（新）「大学地域コンソーシアム鹿児島」に引き継がれるが、県が進めている「かごしま故郷人材確保・育成プロジェクト」と連携して、さらなる機能強化を図っていくことが重要であるとの認識が示された。

また、急激に変化する社会の中で、地域人材育成では、様々な「学びのバージョンアップ」を行い、若者がいつでもチャレンジでき、自己成長につながる風土を、地域が大学と一緒に作っていくことも重要な視点であることが指摘された。



パネルディスカッション

3 かごしまCOC+公開講座

【目的と意義】

地方社会の活力を高めるためには、組織の違いを超えて協働することで、単独では得がたい課題解決力を発揮することや、異質な価値を統合し新たな価値を提案するなど、創造性に溢れた地域人材の育成が重要であると考えている。

そこで、かごしまCOC+では、各大学等での教育理念に基づいた地域人材育成プログラムに加え、8大学等の多様性を生かし、学生が組織の枠を超えて交流し課題解決に向けた共同作業をする場を作り出すことを構想し、平成29年度より夏期休暇を利用して、アクティブラーニング型の「かごしまCOC+公開講座」を共同開講してきた。

【公開講座の基本的枠組】

1. 目 的: 各校の得意分野を生かした地域人材育成を共同で行う。
2. テー マ: 「食と観光」で鹿児島に魅力をアップを考える(毎年度共通)
かごしまCOC+事業の冠に掲げた「食と観光」を意識した取組とした。
3. 構 成: 全体を「食と健康」分科会と「観光とまちづくり」分科会に分けて並行開講。
午前は各大学等による地域活性化の取組事例を聴講
午後は午前の講義を受けて課題解決型ワークショップ(課題は毎年変化させる)
ワークショップ終了後、両分科会合同でワークショップ成果発表会と講評
4. コンセプト: 将来の地域リーダーを養成するために、夏休み期間を有効に使い、COC+8大学等における地域活性化の取組を学ぶとともに、グループワークを中心とするアクティブラーニングでよく使われる基本的手法のブレインストーミングとKJ法のスキルアップを図る。
5. 開講時期: 8～9月の夏期休暇中の1日(9:30～16:00)
6. 運 営: プログラム開発委員会・地域志向教育部会

【講義担当】

平成29、30年度:COC+8大学等を2分科会担当に分け、各分科会4人の教員が講義

令和元年度:COC+8大学等を2分科会担当に分け、それぞれ2人の教員が講義

【ワークショップのファシリテーター】

午後のワークショップは、5～6人のグループに分かれ、学生ファシリテーターがグループワークをコントロールし、教員はスーパーバイザーとして支援した。

ファシリテーター役の学生は、各大学に依頼して募集を行った。応募してきた学生は、1年生から4年生までと、既存の学習内容には差があったが、事前研修を行い、①公開講座の目的、②ファシリテーターの役割、③グループワークの運営の仕方について理解してもらうとともに、④ブレインストーミングとKJ法の基礎及びSWOT分析の基礎について学習し、簡単なリハーサルを実施した。

【令和2年度以降の対応】

過去3回の参加学生による事後アンケート結果では、講座全体に対して「満足」と「やや満足」を合わせ8割を超えており、概ね好評であったことがわかる。ワークショップで取り上げたテーマについても、「大いに興味を持てた」と「興味を持てた」を合わせ8割を超えていた。スキルアップについても78%が「大いに役に立った」または「役に立った」と回答しており、開催趣旨に沿った成果が得られたと判断される。

評価結果は、大学の枠を超えて、多様な教育的背景を有する学生が協働することで、地元の地域資源が有する価値を理解し、課題解決スキルを磨くことの意義を、実感させるものであった。

【開催記録】

<平成29年度>

開催日 平成29年9月8日(金)
会場 鹿児島大学 共通教育棟1号館4階 コモンルーム
参加人数 学生46人、教職員22人



「食と健康」分科会	「観光とまちづくり」分科会
講義内容	
鹿児島国際大学 菊地 裕幸 教授 「食」を通しての阿久根市地域活性化事業 志学館大学 野上 真 准教授 美味しい鹿児島再発見プロジェクト 鹿児島県立短期大学 中熊 美和 助教 鹿児島のだしの世界 鹿児島女子短期大学 住澤 知之 教授 鹿児島の食材の有効活用について	鹿児島大学 井上 佳朗 特任教授 鹿児島市の第3次観光未来戦略 鹿児島市の第3次観光未来戦略 鹿児島市の第3次観光未来戦略 鹿児島市にグランピングを展開するには 第一工業大学 羽野 暁 専任講師 若者の“気づき”から始まる地域活性化 鹿児島工業高等専門学校 内田 一平 准教授 観光地における移動の問題点など
ワークショップテーマ	
鹿児島の海産物のブランドを高める	鹿児島の自然を活かした観光プランを考える
全体発表+講評	

<平成30年度>

開催日 平成30年9月14日(金)
会場 鹿児島大学 共通教育棟1号館4階 コモンルーム
参加人数 学生47人、教職員22人



「食と健康」分科会	「観光とまちづくり」分科会
講義内容	
鹿児島大学 侯 徳興 教授 地域食資源を生かした食品イノベーション 志学館大学 志賀 玲子 准教授 「食」に関するプロジェクト型学習の可能性 鹿児島県立短期大学 有村 恵美 助教 かつおの魅力～栄養と健康～ 鹿児島女子短期大学 岩切 朋彦 講師 フードツーリズムとしてみる 「かごまふるさと屋台村」	鹿児島大学 隅野 美砂輝 講師 スポーツの「チカラ」 鹿児島国際大学 西原 誠司 教授 外国人から見た鹿児島の観光 第一工業大学 河原 洋子 准教授 薩摩藩武家集落の保存と活用の課題 鹿児島工業高等専門学校 町 泰樹 講師 観光と伝統文化
ワークショップテーマ	
鹿児島の豊かな自然や安心・安全な食材で 「鹿児島のウェルネス」を考える	鹿児島の自然を活かした観光プランを考える
全体発表+講評	

<令和元年度>

開催日 令和元年8月10日(土)
会場 鹿児島大学 共通教育棟1号館4階 コモンルーム
参加人数 学生51人



「食と健康」分科会	「観光とまちづくり」分科会
講義内容	
鹿児島大学 長島 未央子 講師 専門的知見をビジネスに ～食×スポーツ産業の可能性～ 鹿児島県立短期大学 木下 朋美 助教 世界に広がる鹿児島茶の魅力	鹿児島工業高等専門学校 内田 一平 准教授 観光地として必要な要素とはなにか？ 鹿児島国際大学 西原 誠司 教授 外国人から見た鹿児島の観光
ワークショップテーマ	
鹿児島のお茶販売高を倍増せよ！ ～かごしま茶のブランド力向上を図る～	修学旅行生向け体験観光ツアーの開発 ～将来のリピーターを育てる～
全体発表+講評	

4 地元企業よかとこ発見バスツアー

【目的と意義】

「学生は意外と地元企業を知らない、または知ろうとしない」とよく言われる。また、「地元には自分の夢を実現できる企業が少ない。」と言った思い込みすらあるとの指摘もある。さらに、人手不足が続く中、県外企業の採用活動がより一層早期化・活発化しており、学生が地元企業の情報等に触れる機会が少ないまま県外企業に目が向いている現状もある。

このようなことから、COC+8大学等では、学生が地元企業を知り、地元企業の魅力とともに地元就業の魅力に触れてもらうことを目的に、共同事業の一つとして平成29年度から地元企業見学バスツアーを実施してきた。

【バスツアーの基本的枠組】

バスツアーは、県内5コース(又は4コース)において、地元企業の協力のもと、また、県地域振興局や地元自治体の連携・協力も得ながら、日帰りで企業を訪問するもので、各コースの担当校が協力校と連携して、企業選定などの企画から当日の運営まで行っている。

訪問先の企業では、経営者による経営方針や事業活動の説明、若い社員との意見交換、関連施設や工場の見学など、それぞれの企業で工夫ある内容で進められた。

また、使用するバスは、予算の都合もあり平成30年度から、担当校や鹿児島県の所有するバスを無償で提供してもらった



「魅力」発見に出発！



車内での説明の様子

【これまでの実績】

令和元年度で3回目となった地元企業見学バスツアーには、これまで延べ13コース・37企業において、362人の学生等が参加した。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	計
コース数	5コース	4コース	4コース	13コース
訪問企業数	14社	12社	11社	37社
参加者数	119人	129人	114人	362人

参加学生は、経営者の話を直に聞くことにより経営者の熱い想いと経営哲学に触れたり、かねて見学することのできないモノづくりの工場を見学したりした。また、和気あいあいとした雰囲気の中で、年齢の近いOB・OG社員と仕事のやりがいや苦労等について本音で意見交換するなどして、働くことのイメージをしっかりと描いていた。



平成29年度 募集チラシ



平成30年度 募集チラシ



令和元年度 募集チラシ

【実施概要】

＜平成29年度＞

大隅、南薩、姶良・伊佐、鹿児島及び北薩の5コースで実施した。このうち大隅、北薩及び南薩の3コースについての概要は以下のとおり。

○大隅コース…(株)ナンテク、(株)さかうえ、山佐木材(株)＜担当：第一工業大学＞

このうち(株)さかうえでは、有機循環型の土を使った契約栽培(ケール、キャベツ等)や、日本に3台しかない自走式大型機械による牧草飼料事業、さらには農業IT化等の説明を受けた。同社は、農業工程管理システムによる農業の効率化など「新しい農業価値の創造」を目指しており、このシステムは事業拡大を図る農業生産法人等で導入されている。社員の過半数が20～30代という若い社員の話に学生たちは興味深く聞き入り、新しい農業の方向性を実感していた。



車内での説明の様子

学生からのコメント(一例)

- ・IT化で、農業はこれから未来のある産業だと感じた。
- ・自分のイメージしていた農業と異なり、興味を持った。

○北薩コース…アロン電機(株)・(株)川北電工・濱田酒造(株)＜担当校：鹿児島大学＞

このうちアロン電機(株)では、会社概要について説明を受けたあと、金型治具工具や自動機等の製造工程を見学した。特に、出荷時の焼酎ビン異物混入検知装置を稼働させ、異物混入のビンと正常なビンとを正確に判別する様子に、学生たちはニッチな分野での「ものづくり」に驚かされた。また、若手社員との意見交換では、参加者全員の年齢も近く、入社決め手、やりがいと苦労など多くの質問があり、時間が足りないほどであった。



ほとんどが初めての製造現場見学

学生からのコメント(一例)

- ・ニッチな産業こそ郷土の強さだと思った。
- ・モノづくりにひたむきな姿勢が素晴らしいと思った。

○南薩コース…セイカ食品(株)、(株)エルム、(株)指宿白水館＜担当校：志学館大学＞

このうちセイカ食品(株)では、昨年新設された日置工場を訪ね、主としてアイスクリーム商品の製造工程を実際に見ることができた。200種類以上ものアイス商品やこだわり、衛生管理の徹底、卸業としても手広く手掛けていることなど、学生には驚きの連続だったようだ。また、社員のキャリアパスや担当業務についても伺い、質疑応答が活発に行われた。



丁寧な説明に聞き入る参加者

学生からのコメント(一例)

- ・最新の機械での作業と手作業で様々な工夫がされ、品質管理や新商品開発に力を入れていると思った。

＜平成30年度＞

姶良・伊佐、南薩、鹿児島Ⅰ及び鹿児島Ⅱの4コースで実施した。このうち姶良・伊佐及び鹿児島Ⅱの2コースについての概要は以下のとおり。

○大隅コース…(株)ナンテク、(株)さかうえ、山佐木材(株)＜担当：第一工業大学＞

このうち(株)未来志向では、植物工場で水耕栽培の説明を受けた。同社は、近年注目される植物工場の運営を農福連携で行うユニークなベンチャー企業で、特筆すべき技術として、植物工場野菜で使用

する液肥に生の乳酸菌を添加し、機能性の高い野菜を生産しており、しかも工場の立地が廃校になったさつま町立紫尾小学校という、地域創成にも寄与している企業である。

学生からのコメント(一例)

- ・室内での野菜の栽培は未来感があって、あのような場所で働いてみるのもいいなと思った。



植物工場で野菜の試食

○鹿児島Ⅱコース…(株)ヒガシマル、(株)サナス、(株)プライムアシスタンス<担当:鹿児島県立短期大学>

このうち(株)サナスでは、鹿児島市にある糖化工場を訪問し、トウモロコシから水あめ、ぶどう糖といった糖化製品の製造工程を見学した。「サナス」という社名は一般には認識されていないものの、最終製品としては、清涼飲料水、発泡酒、アイス等の菓子類など、様々なところで使われている製品を製造している企業であった。

学生からのコメント(一例)

- ・トウモロコシから色々な製品が製造されているのに驚いた。
- ・食品の衛生管理をしっかりしているのがよくわかった。



工場見学前のチェック

<令和元年度>

大隅、始良・伊佐、鹿児島A及び鹿児島Bの4コースで実施した。このうち鹿児島A及び鹿児島Bの2コースについての概要は以下のとおり。

○鹿児島Aコース…(株)南光、西原商会グループ、(株)島津興業 <担当:鹿児島国際大学>

このうち(株)島津興業では、学芸員によるユーモア溢れる解説に魅了されながら仙巖園と尚古集成館を見学した。社員の方々の懇切丁寧な対応ぶりから、明るく伸び伸びと仕事に取り組める職場環境であることが感じられるとともに、世界遺産の保全と人々への歴史への興味関心を高めることを目指して仕事に取り組んでいる様子に、一同感激している様子であった。

学生からのコメント(一例)

- ・社員の説明に、社風を感じた。
- ・「長く続けるためには、変わらずに変わり続ける」という言葉が印象的だった。



世界遺産の文化と歴史に学ぶ

○鹿児島Bコース…(株)鹿児島放送、サツマ酸素工業(株)、(株)島津興業<担当:鹿児島女子短期大学>

このうち(株)鹿児島放送では、会社概要の説明後、局内見学を行った。ニューススタジオでは、アナウンサーが用いるプロンプターの説明を受けたり、放送局の心臓部のマスター室見学では、24時間稼働できる備えとして停電時の対処や災害対策の説明を受けたりした。バラエティー番組の生放送スタジオでは、パーソナリティー席に座ったり、カメラの切り替えなども体験したりした。その後、県外で働いた経験のあるディレクターとデスク記者から、鹿児島で放送に関わって感じていることの話聞いた。

学生からのコメント(一例)

- ・想像以上に、テレビ番組制作に多くの人に関わっていることを知った。
- ・とても社会貢献している会社であることを知ることができた。



カメラ操作を体験する参加者

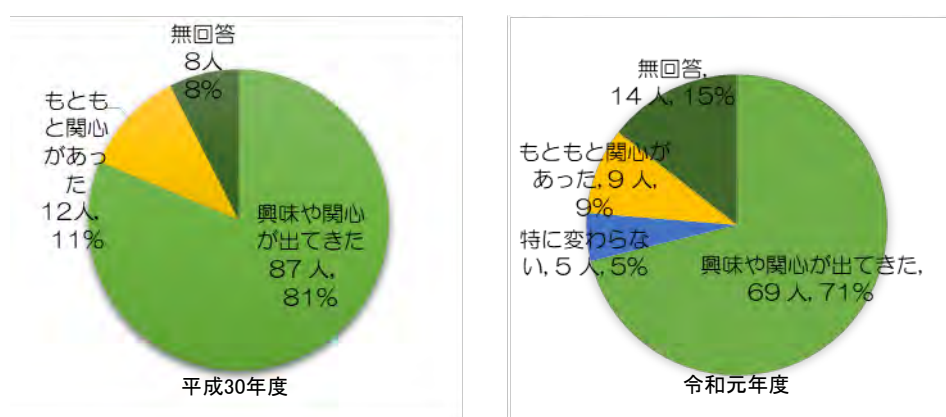
【参加者アンケート】

毎回、参加学生のアンケートを実施してきた。その計数的な結果概要については、以下のとおりである。ほぼ全員の学生が「参加してよかった」と満足し、また8割以上の学生が「地元企業に興味や関心が出てきた」と回答している。

(質問) 参加してどうでしたか。

	回答数	回収率	参加してよかった	どちらでもない	よくなかった
平成29年度	89人	94%	86人(97%)	3人(3%)	0人(0%)
平成30年度	110人	97%	97人(100%)	0人(0%)	0人(0%)
令和元年度	97人	98%	96人(98%)	1人(1%)	0人(0%)

(質問) 地元企業への興味や関心が変わりましたか。



【成果と今後の期待】

これまで訪問した企業は、国内外に誇れる技術を持ったオンリーワンの企業や、鹿児島を代表する「食」に関連する企業、鹿児島発の新分野の企業などであり、これらは鹿児島の多様性と発展可能性を感じさせるものであった。

特に平成30年度は、かごしまCOC+事業の冠である「食」と「観光」に特化した企業を選定するとともに、コースごとに訪問企業の特徴を表すテーマを設定し、「食」と「観光」をまるごと体験した。



参加者全員でパチリ！

バスツアーによる現場での体験は、合同企業説明会などでは得られない貴重なものであり、アンケートの回答(平成30年度)でも、参加学生の全員が「参加してよかった」と満足を示すなど、好意的な意見であった。そして、ほとんどの学生がこれまであまり知らなかった地元企業を知り、その魅力に触れ、地元就業に関心を示すきっかけになったことがアンケートでも示された。また、短い時間ではあるが、他校

の学生との交流の中で、地元就業についての「思い」を共有できたことも大きな成果であった。

COC+8大学等は、COC+補助期間終了後もこの取組を継承していく予定である。

地元企業においては、学卒者の「受皿」としての役割が期待されている中、魅力ある就業先としてより積極的に情報発信するとともに、学生視点でのアプローチに努めていくことが重要である。

5 地元就職率向上に向けたアンケート

学卒者（平成31年3月卒業）の平成30年度地元就職率が取りまとまったことを受け、「かごしま学卒者地元定着促進協議会」ではCOC+8大学等に対してアンケート調査を実施し、その概要を取りまとめた。

【平成30年度地元就職率】	実績	目標
COC+全体（8大学等）	50.5%	60.7%
COC+大学（鹿児島大学）	36.4%	48.0%

1 平成30年度の地元就職率が目標に達しなかったことの分析・評価

- ① 学生優位の「売り手市場」が続く中で、県外企業など就職先の選択が広がった。
- ② 県外企業の採用活動がより一層早期化・活発化し、常態化している。
- ③ 賃金などの待遇面において、地元企業と大都市圏の企業とでは依然として格差が大きい。
- ④ 地元就業の魅力について地元企業自身がよく気付いてなく、学生に十分に伝わっていない。
- ⑤ 地元企業のPR不足や求人活動の遅れ等もあり、学生が地元企業に接する機会を逸している。
- ⑥ 学生は、意外と地元企業を知らない。（地元企業への思い込みや、知ろうとする姿勢に欠ける。）
- ⑦ 専門性（特に理工系）を生かせる地元企業が少なく、必ずしも「受皿」となりえていない。
- ⑧ 県内出身者の割合が低下し、地元就職に結びつかなかった。

2 対応策

（1）次年度に向けた検討

ア 地域人材の育成 ＜学生の地元志向の向上＞

- ・地域人材育成プログラムの着実な実施
- ・教育プログラム修了証等の発行と周知・活用

イ 学生と企業のマッチング機会の増大 ＜地元企業の認知度向上＞

- ・早い段階からの学生と地元企業との紹介・交流の場の設定
- ・個別企業説明会等の内容の工夫・充実
- ・保護者を含めた、進学と就職を一体化させた大規模なフェアの開催
- ・地元企業と留学生の交流会の開催
- ・地元企業訪問見学等の実施

ウ インターンシップの充実 ＜地元企業の理解度と職場適応力の向上＞

- ・学生への参加促進（低年次化など）
- ・受入企業の拡大（受入への積極的な協力）
- ・留学生向けインターンシップの実施
- ・参加学生への交通費補助などの支援策の充実

エ 地元企業による積極的な情報発信 ＜地元企業の魅力発信＞

- ・PRを含めた情報発信の工夫と効果的なタイミングでの求人情報
- ・地元企業と就職担当教員等との日頃からの連携強化

（2）中期的な戦略

- ア 地元企業に対する福利厚生や待遇面での充実・改善
- イ 専門性（特に理工系）を生かせる地元企業の創出・育成支援
- ウ 専門性（特に理工系）を生かせる県外企業の誘致
- エ 大学による、Uターン希望者（卒業生）への対応・支援
- オ 就職後の離職や転職の調査実施による原因分析と対応策の検討
- カ 学生の就職行動に関する調査に基づく就職支援策の検討

Ⅲ 事業協働機関のこれまでの取組と成果

1 鹿児島大学

鹿児島大学では、実施体制の強化と教育改革によるかごしまCOC+事業を推進するため、「総合教育機構」の整備を行うとともに、学部横断の「かごしまキャリア教育プログラム」をはじめとする地域人材育成プログラムの開発と提供を行ってきた。また、共通教育から学部専門教育、さらには大学院を含めた「食と観光」分野の教育・研究の充実・強化に努めてきた。地域貢献機能の強化としては、「南九州・南西諸島域共創機構」の整備と「産学・地域共創センター」の改組を行い、地(知)の拠点として地域振興に向けた機能強化を図った。さらに、就職支援センターを軸とした取組を通じ、地元就業促進を行ってきた。

また、本学では、鹿児島県における有望な産業分野である「食と観光」分野に対する基本方針を立て、学部及び大学院教育において、行政、地元企業、先進的企業、研究機関と連携した人材育成を進めてきた(図1)。このことによって、「食と観光」分野の強化を図り、地域経済の活性化と雇用の確保増大に寄与してきた。

○鹿児島大学の「食と観光」に対する基本方針

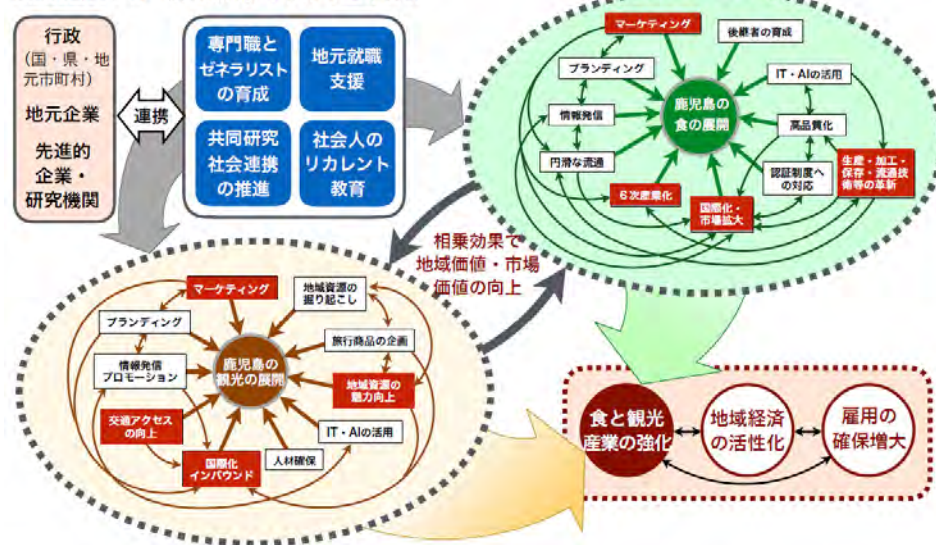


図1 「食と観光」に対する基本的考え

【地域人材育成】

本学では平成28年度から「総合教育機構」が整備され、かごしまCOC+事業では「かごしまキャリア教育プログラム」を開発・運用してきた。ここでは①地域人材育成プログラムの開発と運用、②学生の内発的で意欲的な地域志向活動支援することとし、この両輪によって地域マインドに溢れ、課題解決力の高い「地域人材」の育成を図ることを構想した(図2)。

○鹿児島大学の地域人材育成・・・2つのアプローチ

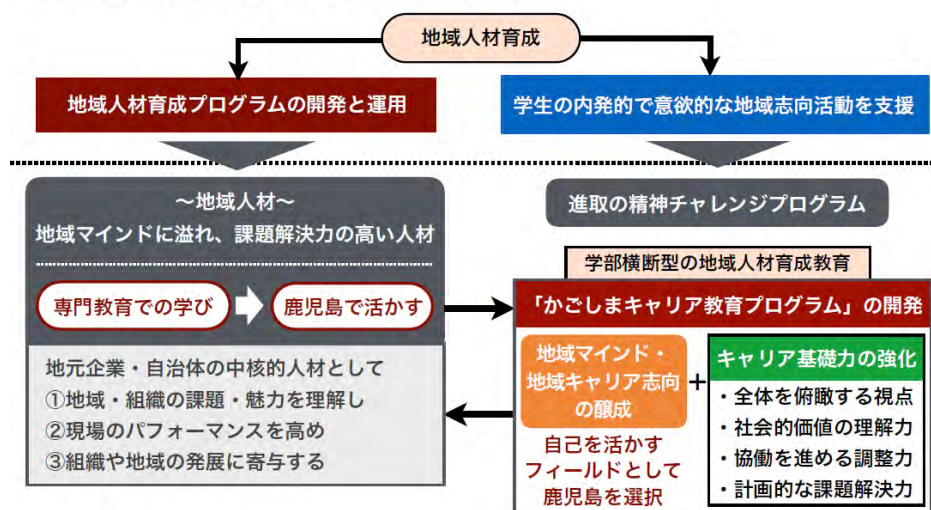
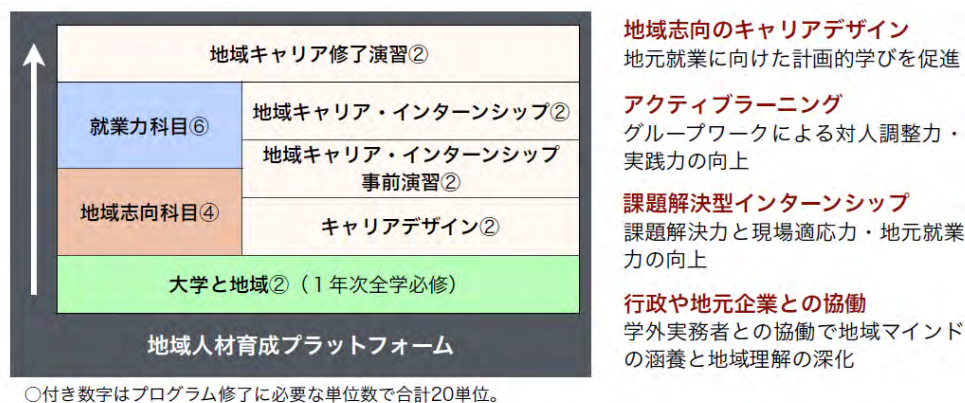


図2 地域人材育成における2つのアプローチ

学部横断的な「かごしまキャリア教育プログラム」では、組織の中核的人材として①地域の課題や魅力を理解し、②現場のパフォーマンスを高め、③組織や地域の発展に寄与する人材を養成することを目標とした。そのために、地域志向のキャリアデザイン、アクティブラーニング、課題解決型インターンシップ、行政や地元企業との協働を特徴とした科目を提供した(図3)。このことによって、自己を活かすフィールドとして鹿児島を選択するといった、地域マインド・地域キャリア志向の醸成とともに、全体を俯瞰する視点、社会的価値の理解力、協働を進める調整力、計画的な課題解決力の獲得など「キャリア基礎力」の強化が図られるとした。



グループワーク

レポート発表

地元企業人との意見交換

図3 「かごしまキャリア教育プログラム」とその特長

学部専門教育や大学院教育においては、「食と観光」分野における教育を強化するための改革も進展しつつある。農学、水産学及び獣医学分野では、これまで実績ある教育研究に加え、新たに企業人向けの「焼酎マイスター養成コース」や食の国際化を念頭にHACCPの認証に向けた「食品管理技術者養成コース」を開設している。

また、観光分野では法文学部において「観光学」の開設や人文社会科学研究科における「総合講義～鹿児島における世界文化遺産～」、「Eco Tourism in Kagoshima」(令和2年度予定)の開設をするなどの対応をしている(図4)。

【学部専門教育】
○農学部、水産学部、共同獣医学部 →食及び農畜水産の分野における充実した授業科目と専門職業人の育成 <取組例> ・焼酎マイスター養成コース：「焼酎」の品質向上と販売拡大を目指した専門家向けリカレント教育
○法文学部 →H31年度から学部共通科目「観光学」（3・4年生向け）を新規開講
【大学院教育】
○農学研究科、水産学研究科、共同獣医学研究科、連合農学研究科、連合獣医学研究科 →「食」分野における研究職を含む高度な専門家の養成 <取組例> ・食品管理技術者養成コース開設：鹿児島発・食のグローバル化～日本マクドナルド（株）と鹿児島大学との協働プログラム～（HACCPの制度化） ＊一般財団法人 日本食品マネジメント協会、三菱総合研究所、鹿児島県との協働
○人文社会科学研究科 →観光関連授業を新規開講 ・令和元年度：総合講義～鹿児島県における世界文化遺産～ ・令和2年度：eco tourism in Kagoshima（7月予定）

図4 専門教育における「食と観光」への取組

また正課の授業とは別に、学生の内発的で意欲的な地域志向活動を資金面で支援する「進取の精神チャレンジプログラム」に、平成28年度には地方創生活動部門を追加し、主体的で実行力のある地域志向学生の育成を支援してきた(図5)。特に、かごしまCOC+事業と関連の深い取組内容と思われるプロジェクトについては、COC+スタッフがその申請時から最終報告まで指導・助言を行ってきた。これらの支援事業により、学部横断的學生ネットワークの形成及びかごしまCOC+事業との連携によるスキルアップが図れており、さらには「かごしまCOC+公開講座」や「かごしまCOC+推進フォーラム」のファシリテーター及び運営スタッフとして活躍してくれた。

進取の精神チャレンジ・プログラム（地方創生活動部門）

・ 学生の優れた**自発的で意欲的な活動**を資金面で支援 → 主体的で実行力のある地域志向学生の育成

<取組事例>

- ・ 鹿児島発！学生主導によるグローバル人材地元定着支援プログラム
(GROAD 代表 理工学研究科 鹿毛健広)
- ・ 鹿大×企業×地域「パッションボーイズ農園」～国際協力を目指して～
(パッションボーイズ農園 代表 農学部 岩永響希)
- ・ かごんまよかとこプロジェクト
(KAGO らぼ 代表 法文学部 森下彩絵)
- ・ 大学生と徳之島小・中学生、高校生の交流ツアー ～島っ子に誇りを～
(イザナミ 代表 理学部 福本慶太)
- ・ 留学生+日本人学生による種子島のInbound活性化および地域資源発掘調査
(T-land KUFSA 代表 農学研究科 小森健太)
- ・ 錦江町こども未来作りプロジェクト
(KG base錦江町学生基地 代表 水産学部 渡辺貴大)
- ・ 喜入中名の空き家を活用した地域住民と学生による地域活性化プログラム
(チーム中名 代表 工学部 小村七海)
- ・ 三島村を国際観光拠点に！～鹿大生による魅力発掘と多言語発信～
(薩南諸島研究会 代表 農学部 勝濱直耶)

図5 進取の精神チャレンジプログラム(地方創生活動部門)

【成果と継承】

これらの取組により、「かごしまキャリア教育プログラム」を構成する全教育科目の完成を受け、COC+事業補助期間終了後の改善策及び対応策について検討を重ね、令和2年度以降の継承への準備が整った。また、「かごしまキャリア教育プログラム」の修了証明書を発行する体制が整ったことから、本プログラムをはじめとする「地域人材育成プラットフォーム」上で提供する教育プログラムへの学生の受講意欲を高めるとともに、学生の地元就業への強力な支援策となることが期待される。加えて、この修了証明書を持った優秀な学生を通じて、地域社会に対して本学の地域人材育成教育の周知が図られ、より一層の地域連携の可能性が広がった。

【地元就業支援】

本学では学内外の組織と協力し、学卒者が鹿児島で就職しキャリア形成をするための支援を積極的に進めてきた。これまでの調査(平成28、29、30年)から学生の現状として、「地元企業を知らないし、接触機会も少ない」、「地元で活躍の場がない」、「都会の方が豊かな生活ができる」等の思い込みがあることが明らかになっており、一方で地元企業の現状としても、「県外企業に比べ、情報発信力・アピール力が弱い」、「魅力的就労環境の創出や働き方改革への対応に遅れが見られる」等が示唆されている。そして、学生と地元企業両者をつなぐ情報の不足が課題であることが見出された。

そこで、地元就職支援の基本方針を①学生の思い込みの払拭、②地元企業との接触・交流機会の向上、③地元企業の情報発信・アピール力の向上、④地元企業における魅力的な就労環境の創出とし、就職支援センターと連携した取組とともに、様々な重点的取組を行ってきた(図6)。

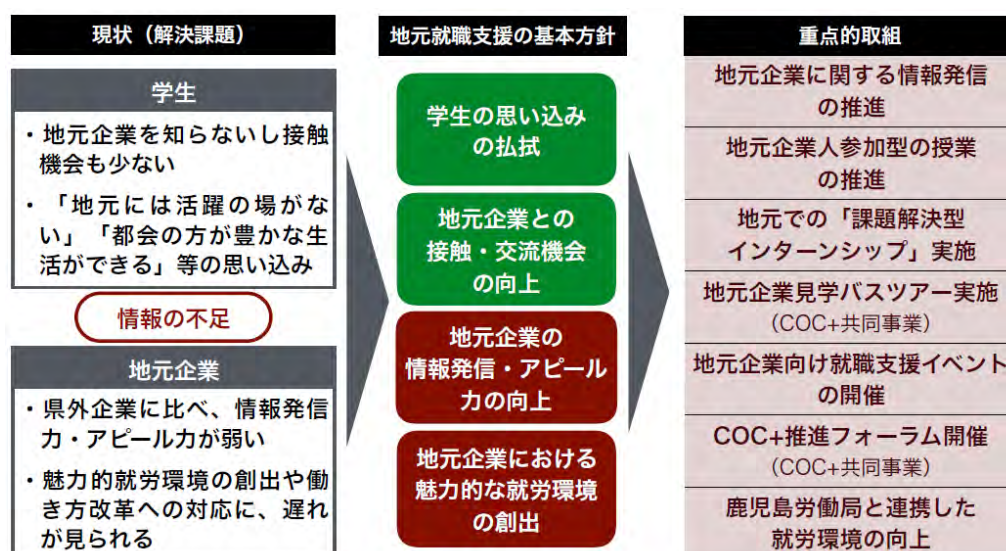


図6 地元就業支援に対する取組

また、近年はアジアを中心とした鹿児島県へのインバウンドの増大に伴い、宿泊・交通・小売業などの留学生に対する需要が増大していることを背景として、留学生の鹿児島県での就業支援も積極的に行ってきた。これまでに地元観光関連企業、商工会議所等と協力し、留学生対象の合同企業説明会や意見交換会などを実施しており、求人は、とくに観光分野から農産物加工分野など他分野へも拡大している（図7）。



留学生に対する県内求人：観光分野から農産物加工分野など他分野に拡大中

COC+事業協働機関による取組

H29年 5月	第1回南九州の観光業界と留学生の就職面談会（鹿児島大学）
6月	企業と留学生の就職面談会&交流会 inかごしま（商工会議所）
7月	外国人留学生就業力育成研修（鹿児島国際大学）
9月	外国人留学生対象就職説明会（鹿児島国際大学）
11月	第2回南九州の観光業界と留学生の就職面談会（鹿児島大学）
H30年 6月	第3回南九州の観光業界と留学生の就職面談会（鹿児島大学）
7月	平成30年度 第1回企業と留学生の交流会 in かごしま（鹿児島県、商工会議所）
9月	外国人留学生就業力育成研修（鹿児島国際大学）
11月	留学生観光体験ツアー（鹿児島国際大学）

図7 留学生に対する鹿児島での就職支援

【成果と継承】

このような就職支援センター等との連携事業によって、学生及び教職員に対して幅広く情報発信をしながら全学的な取組として推進することができた。また、地域就業志向の学生の活動支援・指導により、きめ細やかな就職支援につながった。

現就職支援センターを改組し、新たに「キャリア形成支援センター」を発足させ、そこにキャリア教育全体を担う教員3人（COC+担当教員1人を含む）が配置されることで、地域人材の育成に対しても、より普遍的な視点からの教育が可能となるとともに、就職支援と連動したキャリア支援の一貫した取組が可能となった。

【地域や地元企業との連携】

平成29年度から企業と学生の濃密な出会いの場の提供として、「かごしま課題解決型インターンシップ」の開発・運用を行ってきた(図8)。本インターンシップは、目的意識(課題)を持って地元企業または自治体でのインターンシップを経験することで、学生の地元への就業意欲、職場適応力、課題解決力などを高めることを主たる目的とした。その特徴として、①長期、②課題解決(PBL)型、③地域人材育成授業との連携、が挙げられる。既存のもの(3～5日間が多い)に対し、本インターンシップは2週間(10日)以上を標準とすることで、企業説明にとどまらず、従業員とともに現場経験を行うことで「コミュニケーション力」や「対人調整力」などを磨き「職場適応力」及び「地元就業意欲」の向上を図ることとした。

また、現場経験と通じて受入先の現状を一定程度理解した上で、受入側が提示する課題に対して学生目線で解決策を提案することとした。学生の提案は必ずしも即効性があるとは限らないが、若者らしい感性に溢れたアイデアが提案できると考えられる。加えて、本学の地域人材育成に向けた体系的な取組である「かごしまキャリア教育プログラム」における「地域キャリア・インターンシップ」に対して、現場実習の場としても提供された。企業価値や職場の魅力などを直接学生に伝えられるからこそ、受入側にとっては本インターンシップは「諸刃の剣」とも言えるが、受入側と学生双方の期待が一致すれば人材確保につながる可能性があると考えられる。

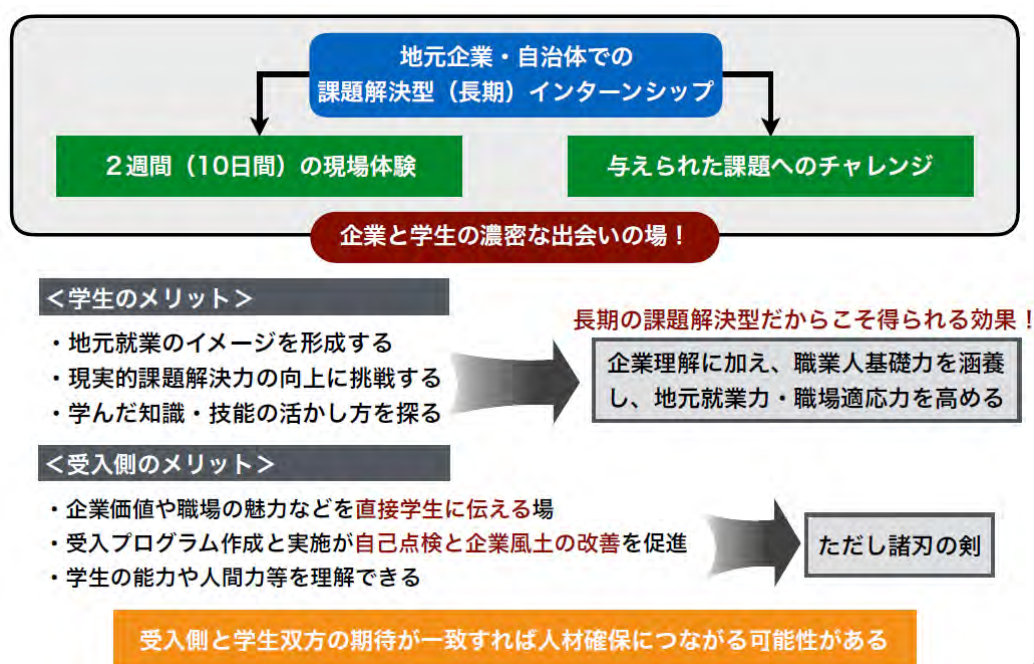


図8 「かごしま課題解決型インターンシップ」

「食と健康」は、本学の重点研究領域とされている。そこで、産学・地域共創センターや農学部、水産学部、共同獣医学部などを中心に、地域での共同研究、実証実験、社会実装に向けた取組を進めている。これにより、各学部の強みを活かした研究と地域とをつなぎ、地域貢献機能を一層強化している(図9)。

●学内外との共同研究・実証実験・社会実装を推進

○農学部、水産学部を中心に、医学部、共同獣医学部、工学部等による学際的プロジェクトを実施

○鹿児島県農業開発総合センター、大隅加工技術研究センター、水産技術開発センターとの連携

○農畜水産業者や食品加工業者と、生産技術、食品の機能性分析、商品開発などの共同研究を実施

○鹿児島県工業倶楽部と連携し関係者や県民を対象に「食と健康に関するシンポジウム」を毎年開催

<取組事例>

- ・ 本場に美味しいかごしまの黒豚の秘密(農学部)
- ・ 加工・調理に強い健康増進機能野菜(農学部)
- ・ スマート畜産研究: ICTと生物化学を用いた生産管理技術(農学部)
- ・ サトイモの湛水栽培法の確立(農水省 革新的技術開発・緊急展開事業)(農学部)
- ・ 「さつま黒味噌」の開発(共同獣医学部)
- ・ 養殖ブリの輸送促進技術開発の実用化(水産学部)
- ・ 甑島マグロ養殖漁場の複合養殖による環境管理と保全に関する研究(水産学部)
- ・ 発酵に関わる発酵微生物の分離、同定および機能解析に関する研究(水産学部)
- ・ クルマエビの成長と抗病性に及ぼす飼料原料の性能評価(水産学部)
- ・ 多機能型人工漁礁による水生生物の増集・養成効果に関する研究(水産学部)
- ・ 黒酢の機能性成分の検討(理工学研究科)
- ・ 「食と健康に関するシンポジウム」(平成23年～30年、8回)(鹿児島県工業倶楽部と共催)

・・・

図9 地元社会との連携例

【成果と継承】

令和2年度からの「かごしま課題解決型インターンシップ」は、学内新組織であるキャリア形成支援センターの業務として位置づけられ、かごしまCOC+事業終了後の地域人材育成教育の継承が円滑に行われた。

鹿児島県や金融機関の産学官連携コーディネーター(鹿児島大学認定コーディネーター)、産学・地域共創センター内の他の部門との連携により、地元企業のニーズを把握するとともに、大学のシーズとのマッチングに向けて地域貢献機能の強化が図られた。

2 鹿屋体育大学

【地域人材育成】

鹿屋体育大学では、新たな産業や新しいフィールドを開拓する「進取の精神」に富む人材を輩出することを目的とした取組を行っている。

○起業セミナーの開催

平成30年度及び令和元年度に計3回ずつ、将来的に起業を検討している学生へ向けての「起業セミナー」を、日本政策金融公庫の方を講師として招き開催した。内容としては、起業の魅力とメリット・デメリット等を創業計画書に沿って説明し、具体的な事例を盛り込んだ興味深い内容であった(参加者:平成30年度延べ38人、令和元年度延べ9人)。

参加した学生は、将来的な起業に一層の関心と理解を深め、県内での起業も将来の選択肢として意識するきっかけ作りとなる意義ある取組であった(写真①)。



写真① 企業セミナー実施風景

【地元就職支援】

鹿屋体育大学では、地元の魅力を学生に伝える教育プログラム及び就職支援行事を実施し、多くの学生が県内企業等との接点を持ち、県内企業等を理解し、県内企業等への就職も将来の選択肢として加えることができるよう支援体制をとっている。

○就業体験(学外実習)

＜スポーツ指導実習＞

平成28年度から本学教育課程において「スポーツ指導実習(※)」が必修化された。それに伴い、県内での実習先の開拓を行い、延べ33企業・公共機関での実習を実施し、県内での実習率(平成28年度～令和元年度)は、約62%を達成した(※写真②、図①)。

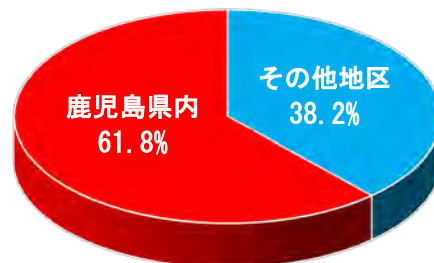
※スポーツ指導実習とは、学内での学習を基礎に、スポーツに特化した指導力等の涵養を目的として行う実習を指し、「スポーツコーチ実習」、「生涯スポーツ指導実習」及び「武道指導実習」の3つから構成される。

＜企業実習＞

高い職業意識の涵養と自主性・創造性豊かな人材育成を目的とし、県内企業での就業体験を通し、県内企業の魅力を知り、県内企業での就職も将来の選択肢の一つとして考慮する機会の提供ともなり得る「企業実習」を、県内延べ6企業・自治体等で実施し、学生10人が参加した。(平成28年度～令和元年度)



写真② スポーツ指導実習風景（剣道）



図① 案内チラシ

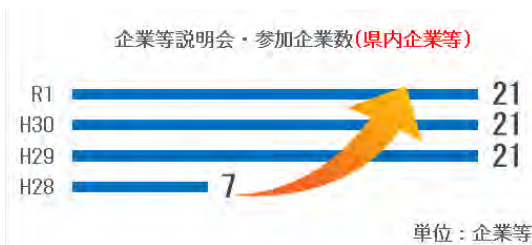
○企業等説明会の開催

平成29年度・平成30年度・令和元年度において、新年度が始まる4月に「企業等説明会」を集中開催し、その後も積極的に開催した。

その結果、実施前の平成28年度は、県内企業の年間の企業説明会参加数は、7企業であったが、平成29年度・平成30年度・令和元年度とも21企業等の県内企業の参加があり、学生と企業との「接点」が増大したことにより、地元企業に対する学生の理解度が深まるとともに、学生が県内企業の魅力を知り、就職先の選択肢として県内企業も候補に入れることのできる貴重な機会を提供できたものとする(写真③、図②)。



写真③ 企業等の説明会の様子(平成30年度)



図② 企業等説明会・参加企業数の推移

○インターンシップ事前勉強会の開催

平成29年度・平成30年度・令和元年度に、1年生を対象とした就職ガイダンスにおいて、県内企業等でインターンシップを体験した卒業生及び4年生による「インターンシップ事前勉強会」を開催した(写真④)。

卒業生及び4年生は、県内企業等でのインターンシップの意義や体験した業務内容、就職活動にいかに関与したか等の自らの体験談を熱く語り、参加した1年生は、インターンシップ体験に興味を持ち、就職も早い段階から準備することの重要性を再認識した(参加者:平成29年度123人、平成30年度129人、令和元年度159人)。

○公安職研究講座の開催

平成29年度に3年生を対象とした就職ガイダンスにおいて、県内の公安職機関(防衛省自衛隊鹿児島地方協力本部、鹿児島県警察本部、海上保安庁第十管区海上保安本部、大隅肝属地区消防組合、鹿児島県刑務所)の人事担当者及び本学OBを一堂に招き、公安職希望の学生へ向けての「公安職研究講座」を開催した(写真⑤)。

実施形式は、それぞれの公安職担当者が業務内容をプレゼンテーションした後、学生がそれぞれ希望する担当者との座談会形式で実施した。参加学生は、現場の生の声を聞くことができ、県内の公安職に対してより興味が沸く非常に有意義な内容であった(参加者:16人)。



写真④ 体験報告をする卒業生(平成29年度)



写真⑤ 公安職研究講座の様子(平成29年度)

【地域や地元企業との連携】

鹿屋体育大学では、本学学生へ向けて「鹿児島で就業することの魅力」を発信するための情報収集と環境作りを目的に業界関係者を招き、「求める人物像」を主要テーマに本学教職員・学生との懇談会を平成28年度から開催している。

○企業・自治体等との懇談会の開催

第1回＜テーマ＞健康・医療

(日時) 平成28年12月22日

(参加機関) 社会医療法人鹿児島愛心会大隅鹿屋病院、医療法人青仁会池田病院、
社会医療法人恒心会恒心会おぐら病院

(企業等参加数) 計9人(教職員参加数)9人

(求める人物像・意見抜粋)

- ・マナーがよく、体力・メンタルが強い学生に魅力を感じる。

第2回＜テーマ＞報道(マスコミ)

(日時) 平成30年1月23日 (写真⑥)

(参加機関) NHK鹿児島放送局、(株)南日本放送、
(株)南日本新聞社、鹿児島テレビ放送(株)

(企業参加数) 計7人 (学生参加数)5人 (教職員参加数)9人

(求める人物像・意見抜粋)

- ・意外な発想、柔軟な考え方ができる学生に好感を持つ。
- ・「自分で考え、積極的に行動する」学生を求める。



写真⑥ 懇談会の様子(第2回)

第3回＜テーマ＞観光・まちづくり

(日時) 平成31年1月22日 (写真⑦)

(参加機関) JR九州鹿児島支社、城山観光(株)、
鹿児島県商工労働水産部雇用労政課、鹿屋市、大崎町

(企業参加数) 計10人(学生参加数)4人(教職員参加数)8人

(求める人物像・意見抜粋)

- ・「地域を元気に」を体現できる誠実な学生を要望する。
- ・学生時代に自信を持って何かをやり遂げて欲しい。



写真⑦ 質問する本学学生(第3回)

第4回＜テーマ＞かごしまの食

(日時) 令和2年1月21日

(参加機関) (株)ジャパンファーム、(株)西原商会、南州農場(株)

(企業参加数) 計6人(学生参加数)7人(教職員参加数)8人

(求める人物像・意見抜粋)

- ・「コミュニケーション能力」があり、楽しく働ける学生を求めている。

【第1回～第4回の総評】

参加学生は、各企業等が日頃からいかに「鹿児島の魅力」を県民に伝えるために創意工夫を凝らし業務を行っているかを実感し、また、積極的に質問を行うなどの前向きな姿勢と新たな発見も見られた。この懇談会を通じ、学生と企業・自治体との距離が近くなり、県内での就職も選択肢として加えることにつながるよい機会となり、また、大学の「見える化」もより一層進展したと思われる取組となった。

3 鹿児島国際大学

【地域人材育成】

○事業実施体制の整備

鹿児島国際大学は、鹿児島の進取開明の伝統を継承しつつ、東西文化の融合を趣旨とする建学の精神に則り、国際社会及び地域社会の発展に寄与しうる人材を養成することを目的としている。この目的に沿って、地域との結びつきを強め、地域社会に貢献する人材を育成するために、平成27年度に産学官地域連携センターを設置するとともに、センター内にCOC推進室を新設し、COC事業を開始した。

○委員会等の設置

学長を中心に、本学と連携協定を結んでいる自治体・産業界など事業協働機関の代表者等をメンバーとして設置した「地域人材育成委員会」において、事業協働地域の課題の検証・分析及び課題解決に関する事項や、地域が求める人材の育成に関する事項等を審議・決定してきた。また、COC事業におけるプログラムの開発に関わる事項を審議するための「教育プログラム開発委員会」を設置し、事業の具体的取組を推進してきた。

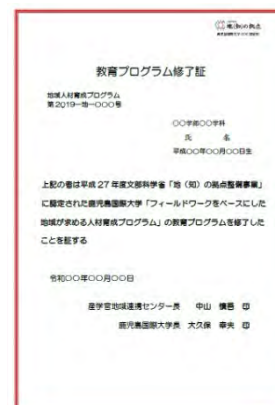
○教育プログラムの推進

「地域人材育成プログラム」、「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を開講し、「地域志向科目群」及び「地域志向演習」を実施している。

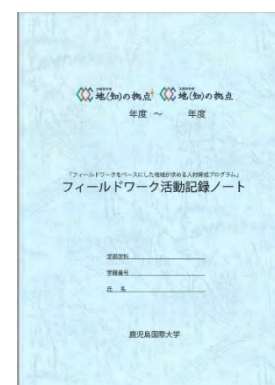
＜地域人材育成プログラムの概要＞

プログラム科目群	概 要
地域志向科目	地域に関係する共通教育科目(1年次～)。地域への理解を深め地元に愛着を持つことを目指す。
地域志向演習	地域でのフィールドワークを取り入れた1年次のゼミナール。地域に関心を持つことを目指す。
キャリアデザイン科目	コミュニケーション力育成や文章力育成など就業力を身につけることを目指す。
地域人材育成科目	地域に関係する専門科目(2年次～)。地域の課題に専門的に取り組み、課題を解決する能力を身につけることを目指す。
地域フィールド演習	地域でのフィールドワークを取り入れた専門演習(2年次～)。ゼミナールで地域課題に取り組み、解決策を提案することを目指す。

※「地域人材育成プログラム」、「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を修了した学生には、卒業時に「修了証」を発行する。



プログラム終了証



フィールドワーク
活動記録ノート

○フィールドワーク活動記録ノート及び自己評価の実施

Webキャリアポートフォリオやフィールドワーク活動記録ノートを活用し、学生が振り返り作業を行うことにより、教育プログラムを受講しての自己評価を行った。さらにフィールドワーク受入先自治体等事業協働機関からの評価アンケートをもとに、教育プログラムの履修がもたらした学修到達度の確認と検証を行っている。

【地元就職支援】

○事業協働機関との意見交換

地元企業等に対し、教育プログラム修了証が地域のプロフェッショナルになるための教育プログラムを受けたことを証明するものであることを認知してもらうため、地域人材育成委員会と教育プログラム開発委員会を開催して、意見交換や協力要請を行った。

○地元就職支援セミナー等の開催

就職キャリアセンターを中心とした「大学主催合同企業説明会」、「地域商工団体等と連携した就業力育成研修」、「就職内定者のパネルディスカッション・座談会」、「各種団体等との連携による研修」等、就職支援のための説明会やイベントなどを実施した。

<令和元年度の主な取組>

合同企業説明会	9月26日 3月5日	参加企業 27社 参加学生 45人 参加企業 110社(予定)
就職ガイダンス	5月15日 6月12日 10月2日 10月24日 11月20日 12月11日 1月15日 2月5日	「スタートアップ」 「自己分析」 「就職直前ガイダンス」 「就職内定者パネルディスカッション」 「業界・企業研究講座」 「履歴書・ES対策(基礎)」 「解禁直前！就活準備講座」 「履歴書・ES対策(実践)」
就活フォローアップ講座	2月4日 2月12日 2月19日	「面接対策講座」 「グループディスカッション対策講座」 「集団面接対策講座」
就業力育成研修	9月12日 ～13日 2月7日 7月11日	「地域商工団体連携就業力育成研修」参加企業6社、 参加学生19人 「JA就業力育成研修」参加学生20人 「外国人留学生就業力育成研修」参加留学生11人
団体等との連携による 研修等	6月17日 12月14日 12月18日	出張講義「信用保証協会の中小企業支援」 受講者 180人 「伝統工芸品産地研修会」参加学生17人 出張講座「信用金庫業界研究セミナー」受講生100人

○国内外インターンシップ事業の推進

事業協働機関と連携したインターンシップをはじめ、地域人材育成プログラムにおけるプレ・インターンシップや国内外インターンシップを実施し、受入先の拡充にも取り組んだ。

<令和元年度のインターンシップ参加者数> (1月10日現在)

- ・国内インターンシップ： 233人
- ・海外(中国・台湾・香港)インターンシップ： 36人

【地域や地元企業との連携】

○自治体・産業界との連携の取組

連携協定に基づく教育活動の一環として、更には地域フィールド演習として鹿児島県内各地でフィールドワークを実施。実際に現場に行き、地域が抱える課題を発掘し、その解決に向けて地域社会と協働しながら具体的な解決策を考え、実践するフィールドワークに多数の学生・教職員が取り組んだ。

○生涯学習センターと連携したシンポジウムやワークショップの開催

「地方創生と大学の役割～地域の担い手づくり」をテーマとしたシンポジウムや、学生・地域住民が多数参加しての「地域の未来を語る」ワークショップなどを開催した。

＜地(知)の拠点シンポジウム＞

- ・平成27年度:「地方創生と地域活性化」～阿久根市における事例を踏まえて～
- ・平成28年度:「地方創生と大学の役割」～長島町における地方創生事業の取組～
- ・平成29年度:「観光と国際化」～観光のスペシャリストに学ぶ～
- ・平成30年度:「地方創生と大学の役割」～垂水市の地域活性化に向けて～
- ・令和元年度:「地域が求める人材育成への取組」～振り返りと新たな飛躍に向けて～



平成27年度



平成28年度



平成29年度



平成30年度

○寄附講座の実施

地方創生の取組に関する協定を締結した垂水市と、同市が進める新しい観光拠点づくりのプロジェクトを通し、地方経済の実態を学ぶとともに、地方経済の知識や理論からフィールドワークの実学へとつなげ、地域で活躍する人材育成を目指した。

- ・平成29年度:「地方創生時代のマーケティング」〈全5回〉
- ・平成30年度:「地方創生時代の中小企業」〈「教養特講Ⅰ」全15回〉
- ・令和元年度:「地方で働くということ」〈「地域から世界へ」全5回〉

【その他】

○地域や高校等との取組など

高校生が自分の身近な地域に目を向けて課題を発見し、解決策を考える時間を通して、地域を担う若者に成長する機会の提供を目的に、県内高校生を対象に地方創生をテーマとした「高校生よかアイデアコンテスト」を開催。出されたアイデアについては、実現化に向け自治体・産業界等へ紹介する取組を実施している。

○年次報告の実施及び外部評価の実施

年次報告書を作成し、外部評価委員による外部評価を実施することにより、評価を受けた。取組のPDCAサイクルを効率的に回し、着実な目標達成を目指している。

4 志學館大学

【地域人材育成】

志學館大学では、平成17年度に県内ではいち早くキャリア形成科目群を開設し、進路支援センターによる課外の進路支援プログラムや指導教員制と併せた進路支援システムが確立している。また、学生の認知度も高く、自由参加の進路支援プログラムに3年生の7割以上が参加するなど定着しており、継続的改善に取り組んできている。そこで、新たな全体プログラムを別途設けるのではなく、「食と観光」「地域就業力を強化し自己形成を促進させる」のテーマのもとに次の方針を設定した。

- ①既存のカリキュラムと進路支援システムの改編・拡充
- ②社会連携の推進
- ③インターンシップ参加促進と「地域インターンシップ」モデルの導入

カリキュラム設計にあたっては、体験・省察と知識・理論の反復、早期からのキャリアデザイン意識の醸成、実践力・人間関係構築力と地元への愛着の育成を重視した。また、情報収集・分析、学内での情報共有、バックアップ体制などの環境整備も進め、進路支援センター、資格センター、社会連携センター（平成29年度までは地域協働センター）が他の部署等とも連携しながら検討した。これらにより、毎年度、話題性のある新規・改編事業を実施することができ、連携・協力先の企業・自治体・NPO・団体等の数も増大した。中でも注目を集めた主な取組は、以下のとおりである。

○「鹿児島産品レシピ開発プロジェクト」「国際交流プロジェクト」「食と観光フェスタ」

平成28年度、共通教育科目「インターンシップ」の事前学習の一環で、JA鹿児島県経済連・鹿児島女子短期大学等との連携により商品開発やイベント企画・運営に関する複数のPBLを実施し、それぞれ約10人～30人が参加した。平成29年度からは、他の演習・実習系の専門教育科目等で同様のPBLを受け継ぎ実施している。

○「食育フェスタ」「山川鯉節商品開発プロジェクト」

平成28年度、社会心理学ゼミが鹿児島市・鹿児島女子短期大学共催「食育フェスタ」に参加し、ハラルフード展示・報告を実施した。また、山川鯉節を用いた商品開発に取り組み、次年度に「鯉節アイス」等商品化が実現し、店舗運営とSNS発信はマスメディアでも取り上げられた。

○「桜島応援プロジェクト」

平成28年度、専門教育科目「産業組織心理学演習」でNPO桜島ミュージアムとの連携による同プロジェクトを実施し、桜島の観光振興を考え、次年度には共通教育科目「ボランティア企画実習」でショッピングモールでの「地域交流フェスタ」を実施し、桜島をPRするブースを運営した。

○「地域インターンシップ」モデルの開発

平成28年度より、一カ所の企業等での就業体験だけではなく、地域課題について考える「地域インターンシップ」モデルを開発している。例えば、平成29年度より現在まで、「南さつま市公認特派員プロジェクト」として、南さつま市観光協会・「砂の祭典」実行委員会・本坊酒造との連携による就業体験に毎年度約10人が参加している。また、平成29年度には熊本県阿蘇市なみの高原やすらぎ交流館において就業体験を実施し、平成30年度にはプロバスケットボールクラブ「熊本ヴォルターズ」訪問等も行い、地域振興・震災復興の学習にそれぞれ10人が参加した。

○「鹿児島陸・海・空を考える」プロジェクト

平成28年度、共通教育科目「キャリア開発演習」において、鹿児島県交通政策課との連携により、「交通政策論」講座および鹿児島陸・海・空について実践的に学ぶ「交通政策フィールドワーク」を実施し、約20人が参加した。また、進路支援センター「キャリア講演会」とも連結し、国土交通省から出向中の交通政策課長による講話を実施し、約150人が参加した。大学祭展示も実施した。

○中大連携キャリア教育プログラム「B&S(Brother & Sister)」

平成29年度、JTB九州鹿児島支店との連携により、専門教育科目「地誌学演習Ⅰ」および共通教育科目「キャリア開発演習」において、修学旅行向け鹿児島散策プログラムを策定した。中間報告、実地踏査、社員の助言等によるコーオプ教育である。平成30年度からは実際に佐賀県の修学旅行生150人～200人を受け入れ、学生が付き添い、大学訪問・模擬講義・授業参観を行う中学校もある。また、全国から教育旅行担当の社員が研修で来学し、学生と意見交換会・研修を実施し、現在も改善しながら継続している。

今年度は、佐賀県・大阪府の中学校の受け入れを実施したところである。

○「キャリア概論(かごしま学)」開設

平成29年度、共通教育科目「キャリア概論」を改編し、サブテーマを“かごしま学”として、鹿児島の産業や地域論を多角的に取り上げた。歴史・文化・地理・自然・農畜産・水産等を教員が、工業・観光業・商業・金融業・教育業・医療福祉業・自治体論・島嶼論等は各界を代表する関係者が担当し、102人が履修した。以来、人気のキャリア形成科目として学内でも確立している。

○「地域産業論演習」新設

平成30年度、専門教育科目として新設し、72人が履修した。鹿児島市との連携によるまちづくり講座と二役意見交換会、かごしまCOC+バスツアー事業の一部と本学独自の霧島コースも入れ込んでおり、アクティブ・ラーニング型科目の中でも多彩な学習法が体験できる。今年度は鹿屋市の協力も得て、同副市長による講演と実地研修が実現し、また鹿児島市長意見交換会も実施した。

○プロサッカークラブ「鹿児島ユナイテッドFC」サービス・ラーニング

平成30年度、キャリア形成科目「キャリア概論(かごしま学)」(履修者92人)において同クラブ代表講話、専門科目「スポーツ産業」(履修者27人)において学外研修の一環としての試合運営ボランティアを実施し、社会連携センター説明会では継続ボランティアについて告知のうえで登録支援を開始した。地域活性化とプロスポーツの社会的役割を学ぶ機会となっている。

○「弁当プレゼンコンテスト」

平成27年度よりキャリア教育ゼミにおいて、当初「弁当男子コンテスト」、平成29年度からは「弁当プレゼンコンテスト」を実施している。地産地消とプレゼンテーションを考えるもので、平成30年度はJA鹿児島県中央会・指宿市と連携し、指宿市の特産品を用いた「外国人に喜ばれる弁当」のテーマで開催した(履修者12人、スタッフ・審査員・出場者18人、観客等80人)。その際、指宿市特産品展示コーナーも運営し、コンテスト後は関係者で、自作で持ち寄った弁当を食べながら交流会を実施し、翌週には学内のカフェ「風」で再現弁当を1週間限定販売し、全日即完売した。令和元年度においては、JA鹿児島県中央会・鹿屋市と連携し、東京五輪・鹿児島国体とスポーツに力を入れる鹿屋市の特徴から、鹿屋市の特産品を用いた「スポーツにちなんだ弁当」のテーマで開催した(履修者20人、スタッフ・審査員・出場者15人、観客等80人)。前年度と同様に特産品展示コーナーを運営するとともに、鹿屋市輝北町写真展、SDGsと食品ロスのポスター展示も行った。

○「鹿児島地域経済演習」「鹿児島企業経営演習」「グローバル化と地域経済ゼミ」新設

令和元年度、地域経済を専門とする教員を新たに雇用し、地域経済・地元企業に接する機会の多い専門教育科目を新設した。「鹿児島地域経済演習」では2件の事務所訪問・ヒアリングを行い、3人が参加した。「鹿児島企業経営演習」では1件の事務所招へい、1件の企業訪問・ヒアリングを実施し、4人が参加した。グローバル化と地域経済ゼミは18人が履修し、南国殖産(株)、(株)下堂園、三菱UFJ銀行鹿児島営業部、鹿児島市アジア推進室、本坊酒造(株)の協力を得て、企業訪問・ヒアリング、工場見学、意見交換、ゲスト招へいなどを実施した。

○「ふるさとCMコンテスト」参加と物品販売

令和元年度、共通教育科目「まちづくり企画実習」において、東串良町地域おこし協力隊と連携し、大学の立地する紫原校区まちづくり協議会ともつながり、東串良町の魅力をPRする活動を展開し、履修者と課外からの学生を合せて8人が参加した。紫原小学校PTAバザーにおいてブースによる情報発信と物品販売を行うことを最終目標とし、東串良町で冷凍生しらすを使ったオリジナルレシピの発表及び調理実習を行い、ふるさとCMコンテストへの出品作品を撮影し、紫原小学校校区文化祭でVRとパネル展示を使った東串良町のPRを実施した。2つの地域が抱える課題に応えようとする中で、学生への教育効果の高い事業となった。



「地域産業論演習」ワークショップ



企業訪問バスツアー・工場見学



鹿児島ユナイテッドFC運営ボランティア

【地元就職支援】

地元の各業界等との意見交換会やキャリア講演会、模擬面接会、合同説明会、各種講座・適性診断・模擬試験、内定者報告会、内定者研修会、就業体験など、課外で50以上の進路支援プログラムを設け、低学年次対象の新規事業を追加できたことが成果であり、早くから段階的に活用するよう学生に促している。また、資格センターの各種講座があり、特に平成27年度に始まった鹿児島商工会議所後援「かごしま検定対策講座」を一般にも公開することで地域マインド育成をめざしており、平成30年度には九州FG証券・鹿児島銀行寄附講座「証券外務員対策講座」を新設した。

【地域や地元企業との連携】

上述の取組では数多くの企業・自治体等のご協力をいただいております、ゲスト講演も増加しています。この間、指宿市、鹿児島市、鹿児島銀行との包括連携協定を締結し、鹿児島県中小企業家同友会とは意見交換会も実現した。鹿児島県商工会議所には「4年制文系大学卒業者に求める能力に関するアンケート」へのご協力もいただいた。関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

5 第一工業大学

【地域人材育成】

第一工業大学では、霧島市、姶良市を中心に自治体、自治会、地域企業と連携し「地域への愛着」をワークショップで醸成する「地域貢献演習」を設置し、地域住民と共同事業を行った。

○「山田橋プロジェクト」（平成28～30年度）

昭和初期に建設され地域のモニュメンタルなアイコンであった山田橋の解体を起点に小学校、自治体などを巻き込んで「地域の記憶を伝承する」イベント、ワークショップ等をPBLで開催した。山田橋撤去後に設置された「やまだばし思い出テラス」は、第13回キッズデザイン協議会会長賞を受賞し、マスコミにも多く報道された。



① 山田橋さよならイベント

○「学生による地域魅力発見 平熊フットパスづくり」（平成27～令和元年度）

霧島市隼人町松永の平熊地区自治会と学生との協働による地域活性化フットパスを設計、施工した。また、灯籠祭りも開催。当事者意識と地元への愛着を醸成した。第6回かごしまひと・まち・デザインコンテスト最終ノミネート作品に選出された。令和元年夏には一連の活動をまとめたショートムービーを作成し、灯籠祭りにて上映した。



② 平熊フットパス造成作業

○「学生による西郷公園リノベーション」（平成27～28年度）

鹿児島空港前に設置された「西郷公園」のリノベーション案を霧島市の依頼により制作した。現地調査、模型製作、イメージスケッチ制作、地域住民へのヒアリング等の実施を通して再整備プランを考案し、霧島市にプレゼンテーションを実施した。



③ 西郷公園リノベーションプレゼン

○「霧島市横川町における地域活性化プロジェクト」（令和元年度）

地域魅力発見の新たな対象地である霧島市横川町では、地域組織との連携のもと、江戸期から昭和初期に栄えた山ヶ野金山の遺構活用プロジェクトを開始した。令和元年度は残存遺構の調査及び地域環境整備を実施した。また、駅前商店街においては、増加する空家活用プロジェクトを学生サークルと地域住民の協力によって開始し、廃病院および古民家を対象にリノベーションプロジェクトが進行中である。

○「地域貢献演習」科目設置」（平成28～令和元年度、選択2単位）

上記の活動は、学生の地域マインド醸成と地域住民との連携を目指して設置されたPBL科目「地域貢献演習」（全学年対象、2単位）を主たるプラットフォームとして行われている。参加学生の満足度も高く、また、連携地域の住民からは常に新しい課題が提案され、非常にアクティブな活動に発展している。

【地元就職支援】

地域企業への就職率向上を目指しインターンシップの充実を図るため、地域企業に特化した科目「地域企業インターンシップ」(1～4年生対象)を設置し、インターンシップ説明会等を開催した。既存科目の「インターンシップ」、「コミュニケーション技術1、2」、「就業力演習」などキャリア系科目の充実を図った。

○「地域企業インターンシップ」科目設置 (平成28～令和元年度、選択2単位)

地域企業インターンシップ事前勉強会「同報告会」とインターンシップ参加を組み合わせ2単位付与の科目を設置した。事前勉強会には、28年度 47人、29年度 139人、30年度 183人、令和元年度 176人の学生が参加。各ブース(例年30社前後)は熱気と希望であふれていた。



地域企業インターンシップ事前勉強会

○「就業力演習」科目にインターンシップマナー講習会開催 (平成29～令和元年度)

マナー講師永江尚子氏を招き、3年生全学生を対象に開催した。

○「第一工業大学企業研究会」(平成29～令和元年度・年6回)

霧島市内に立地する企業への理解を深めるために、霧島市と共同で企業研究会を年6回開催し、12～15社を紹介した。3年間で参加した企業数は、延べ91社。



上野キャンパス学生むけ鹿児島就職説明会

○「かごしまで働かんけー」東京出張説明会 (平成30～令和元年度)

第一工業大学東京上野キャンパスの学生に対し、鹿児島で働くメリットとデメリットを説明した。また、1ターン就職者向けの説明会を行った。

【地域や地元企業との連携】

第一工業大学が持つ技術シーズや知識を地域に還元する目的で、霧島市、霧島ガストロノミー推進協議会、霧島市商工会議所、霧島市商工会、JAあいらなどと連携し、イベント出展、共同開発、スキルアップ講座などを行った。

○「きりしま食サミット」(平成29～令和元年度)

霧島の食を世界に発信する目的で設立された産官学組織「霧島ガストロノミー推進協議会」と共同で、市民向けに開催した。基調講演会やマルシェなど地域の食イベントとして毎回300人を超える市民でにぎわった。地域の食を発信する機会として定着している。令和元年度からは「霧島ガストロノミーコレクション」と名称変更し、2日間にわたり食に関するさまざまな発信を行った。登壇した講師は、江頭宏昌氏(山形大学教授)、平松洋氏(作家)、江口文陽氏(東京農業大学教授)、東川隆太郎氏(かごしま探検の会代表理事)。



① きりしま食サミット2019

○「産学連携プロジェクトによる六次産業化新商品開発」 (平成28～令和元年度)

JAあいら、霧島市、第一工大の包括連携協定に基づき「霧島さん家のグラノーラ」(平成28年度)、「Kirishima Tea Join - 森の三姉妹シリーズ-」(平成30年度)に開発した。どちらも林野庁「森のめぐみコンテスト」で大賞受賞など複数受賞した。

令和元年度は、第一工業大学六次産業化研究会として応募し、「原木しいたけと植物工場野菜のプレッツェル」で大賞受賞した。



霧島さん家のグラノーラ受賞盾

○「大学発ベンチャー製品を核とした地元企業連携活動」 (平成27～29年度)

第一工大発制震デバイスを連携した地元企業と共同でイベント等に出展した。PBLとして学生のプレゼンテーション能力の向上につながった。本商品の発売にあたっては、大学発ベンチャー企業が設立された。



企業と共同ブース出展

○「みんな！おいで祭り」等に第一工大リケジョが参加 (平成29～令和元年度)

共同開発した商品のお披露目と商品説明や接客技法を学ぶPBLとしてJAのイベント「みんな！おいで祭り」などに出展した。ブース設営や接客、販売計画から当日の決算など、具体的なイベント実施におけるワークフローを学んだ。接客においては地域住民との交流を通じてコミュニケーション力の向上に大いに寄与した。高大連携協定を結ぶ国分中央高校ともコラボ企画を行い、「霧島さん家のグラノーラ」を使用した炊き込みご飯を開発し、来場者にふるまった。



工大リケジョと国分中央高生

○「湧水町おむすび選手権2019」町長賞受賞 (令和元年度)

第一工業大学六次産業化研究会に在籍する学生を中心に、湧水町の地産地消を推進するコンテスト「湧水町おむすび選手権2019」に「茶がらの佃煮むすび」でエントリーし、町長賞を受賞した。当日の様子はMBCテレビ「てげてげ」にて紹介された。



湧水町おむすび選手権

○「地産地消優良活動表彰 九州農政局長賞」受賞 (令和元年度)

第一工業大学六次産業化研究会のこれまでの取組に対し、農林水産省「地産地消優良活動表彰」において九州農政局長賞を受賞した。

○「植物工場見学・ワークショップ」 (平成27～令和元年度)

第一工大が所有する植物工場をフィールドとして、見学会、成分分析ワークショップなどを開催した。成分分析WSでは、オンサイト簡易型分光光度計を使用したビタミンCの定量、DPPHラジカル反応を利用した抗酸化活性の定量法などを行った。

6 鹿児島県立短期大学

本県では、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少に加え、就職に際して、若年層の県外流出が高い水準で続いており、折しもの雇用情勢の好転も相まって、人手不足が顕在化していることから、県内の各種産業を担う人材を故郷の財産と捉え、中長期的な観点で、故郷かごしまの人材確保・育成に寄与することを本学の方針として、以下の事業を実施してきたところである。

【地域人材育成】

○キャリアデザインの実施（毎年、7～8回開催）

学内の専任教員のほかに、外部有識者や県内企業の経営者、人事担当者、NPO主催者など多彩な講師を招へいし、就職活動について実践的かつ系統的に学ぶことを目的として「キャリアデザイン」を実施した。1年生を対象としたものであったが、卒業年度の就職活動のイメージ化と就職活動のためのモチベーションを高めることができた。

○キャリア形成、就職支援、教育カリキュラム、インターンシップの再検討及び強化

学生の一般的職業意識の啓発、進路選択意識の高揚、転職など就職後の人生の転機における思考の補助・支援、ミスマッチと早期退職を回避するための情報の入手・判断方法等について、学生委員会や教務委員会において協議・検討を行うとともに、「就職のしおり」を改定した。

【地元就職支援】

本学は、創立から今日までの間に約1万5千人以上の卒業生を社会に送り出してきており、卒業生は民間企業をはじめとして、国や地方公共団体、その他の諸組織の一員として、県内の幅広い分野で活躍している。本学が高い県内就職率を誇っているのは、教職員が一丸となって、学生のキャリア形成をサポートする様々な就職支援プログラムを用意しているところが大い。

《県内就職率》

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
82.0%	84.0%	78.4%	80.9%	83.8%

○学生主体の説明会「就職活動説明会」の実施

学生自治会と共催で、自治会役員や内定した先輩から、就職活動全般のアドバイスや実際の就活体験などを学生目線で説明してもらった。就活の実体験・生の声が聞けるので、参加学生は一つ一つの話に熱心に耳を傾けメモをとることができた。

○何度でも受けられるマンツーマン指導「学生課での就職指導」の実施

挨拶やお辞儀の練習をする「マナー指導」、自分の魅力を最大限に表現するための「履歴書添削」、態度や言葉遣いを指導する「面接指導」を行った。模擬面接ではビデオカメラを使って自分の受け答えの様子もチェックすることもできた。

○現場の声を聞くチャンス「就活パネルディスカッション」の実施

企業の人事担当者や先輩社員がパネラーとなり、ディスカッション形式で開催した。働くことの意義や企業が求める人材像、就活のアドバイスや就職してからの経験などについて活発な意見交換を行った。

○年間を通した教員のサポート「ゼミナール」での就職指導の実施

少人数制のゼミで普段から接している教員も、積極的に学生の就活をサポートした。就活に関する悩み・迷いについて相談に乗ることはもちろん、様々なアドバイスをを行った。ゼミの先輩や卒業生の体験談を聞く機会も設けた。

○県短生のために開催「学内企業ガイダンス」の実施

約20社の採用担当者を本学に招き、仕事内容や採用試験について説明するガイダンスを開催した。実際に働いている本学出身の先輩社員が説明することもある。学外の一般的な企業ガイダンスに比べてじっくりと採用担当者と話せることも魅力の一つとなっている。

○社会人への助走「ビジネスマナー講座」の実施

社会人として必要なビジネスマナーや電話対応の基本について専門の講師から学んだ。就職してから直ぐに役立つよう実際に電話機を使って受け答えの練習も行った。

○身だしなみと心構え「メイクアップ講座」の実施

化粧品会社の専門講師を招き、好感を持たれる就活のための化粧方法について学んだ。学生は、講師の説明に従い、鏡を見ながら「清潔感」「知性」「意欲」が表れるメイクに取り組んだ。

○未来への扉を開く第一歩「キャリアデザイン」の実施(再掲)

自分の将来のキャリアを考えるための授業を実施した。自分の人生(キャリア)を主体的に創造(デザイン)するために、「生き方」「働き方」「学生生活の送り方」「人間関係」について、役立つ知識、考え方、能力を身につけることができた。

その他、ハローワークから本学に派遣されたジョブサポーターによるマンツーマン指導、進路に応じて開催される各種の模試、就活状況を調査・指導する個別面接、企業で働いている先輩と語る会、未内定で卒業した学生へのサポート等を行った。

【就職先の開拓】

○産学コーディネーターの配置

産学コーディネーターを平成28年度から30年度まで配置し、企業訪問による産業界情報と企業が求める学生像、スキル等の情報収集と把握を行うとともに、卒業生の就職状況を把握するなど卒業生の定着支援と県内就職先の新規開拓を行った。

また、訪問した企業等の報告書・レポート及び「就活実践ノウハウ集」を作成し、学生課、進路資料室及び図書館等に設置するとともに、「就活のしおり」を一部改訂した。

《訪問企業数》

389社(平成28年度～30年度)

○企業向けリーフレットの配布(毎年500部作成)

企業向けリーフレットを配布し、本学学生の人物像・スキル等を県内企業に紹介することにより、新規就職先の開拓と学生の県内就職率の向上が図られた。



企業向けリーフレット（表）



企業向けリーフレット（裏）

【その他】

県内の民間企業を中心に、県庁・病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てるために企業研修(インターンシップ)に積極的に取り組んだ。

○「インターンシップ(大学独自)」(平成10年度から実施)

夏期休暇期間を中心に、大学が企業等を選定し、学生の申込みにより実施した。

平成29年度 企業数:6社、学生数:27人

平成30年度 企業数:6社、学生数:22人

令和元年度 企業数:6社、学生数:25人

○「インターンシップ・キャンパスウェブ」(平成24年度から実施)

NPO法人産学連携教育日本フォーラム(略称WIL)が運営するインターンシップを実施する大学・学生と企業等をつなぐインターネット上の支援サイトを利用して実施した。

平成29年度 企業数:7社、学生数:8人

平成30年度 企業数:14社、学生数:15人

令和元年度 企業数:17社、学生数:36人

就職支援スケジュール

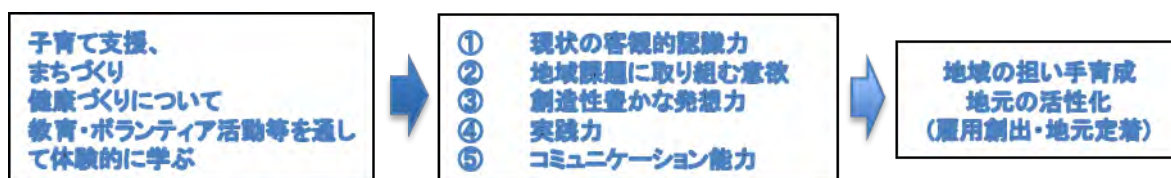
1年次・二部2年次	キャリアデザイン									
					公務員・教員受験説明会 編入学受験説明会		就職ナビ登録セミナー 就職活動説明会	第1回公務員模試	進路状況保護者説明会 第1回SPI対策模試 就活メイクアップ講座 自己分析・履歴書対策セミナー	学内企業ガイダンス 新聞を就活に生かそう講演会 就活ハネルディスカッション 第1回SPI対策模試
	4月	5月	6月	7-8月	9-10月	11月	12月	1月	2-3月	
2年次・二部3年次	グループディスカッション・面接対策セミナー 第2回公務員・教員模試 第1回就職活動個別面談	第2回SPI対策模試	第3回公務員・教員模試	第4回公務員模試	第3回就職活動個別面談 就活サポートセミナー	第2回就職活動個別面談	第4回就職活動個別面談	ビジネスマナー講座	第5回就職活動個別面談	
	ゼミナールでの就職指導 マナー指導 履歴書添削 面接指導									

7 鹿児島女子短期大学

【地域人材育成】

地域に貢献するCOC活動「すこやかLife支援プロジェクトin鹿児島」に取り組み、「WE LOVE 鹿児島！」など地域特性と各学科専攻の特色を生かした科目や研修、地域貢献型ボランティア活動等を「すこやか教育」として充実させてきた。

○『COCとCOC+』プロジェクトの目指すもの



○ COC+教育プログラム認定証の授与



平成30年度卒業時に、第1回の「COC+教育プログラム認定証」を授与した。これは、地域活性化の担い手として、地域に貢献する人材になりうる意欲・知力・経験及び実践力を有していると学長が認める学生に対して授与されたものである。認定基準はCOC+科目の単位取得とボランティア活動及び公開講座等の参加など自己啓発活動をポイントカウントし作成している。平成30年度認定者は144人であった。学生には「本学での認定を機に、卒業後も地域貢献活動を続けることを期待している。

○『私立大学研究ブランディング事業』による「鹿児島の食アンバサダー」認定証授与



南日本新聞 平成31年2月8日掲載

文部科学省による平成29年度『私立大学研究ブランディング事業』の選定(事業名:鹿児島の食文化の継承と発展のための拠点形成～「鹿女短食育ステーション」構築事業～)を受け、食育をコアとした地元事業所・地域社会との連携を推進し、全学を挙げて食育に関わる情報・技術及び鹿児島の食文化の継承と発展のための拠点作りを目指している。

平成30年度は、第1回「鹿児島の食アンバサダー」に116人が認定され、鹿児島の食文化の継承と、健康的な食生活の情報提供や食育教材の開発・普及等により、鹿児島の食文化の発展に寄与することが期待されている。

令和元年には、第1回「鹿児島の食アンバサダー」に認定された学生が、本学で開催した郷土料理に関する公開講座のアシスタントとして協力した。また、卒業生が、保育園での給食等郷土料理を取り入れるなどの実績があった。



学生による料理教室(会場:本学)



学生による料理教室(会場:霧島市)



オリジナル食育紙芝居や絵本の作成

【地元就職支援】

○キャリアセンターによる就職活動支援

- ・キャリア支援ガイダンスの開催(毎月1回程度)
- ・個別事業所説明会の開催(平成27年度からの5年間で計62回)
- ・合同企業説明会の開催(平成29年度から実施、計2回、10～11社/回)
- ・事業所ガイダンスの開催(毎年開催、施設・企業等8～10社/回)
- ・各種就職試験対策講座の実施

○インターンシップの実施

- ・8月～9月：5年間で294人参加(全学科1年生、前期 一般教養科目)
- ・2月～3月：「企業実務演習」5年間で49人参加(教養学科1年生、後期 専門科目)
- ・各々の終了後(10月・6月)には成果発表会を開催

○地元企業よかとこ発見バスツアーへの参加

平成29年度からの3年間で35人が参加。なお、令和元年度は、鹿児島Bコースの担当校として、企業選定等の企画から当日の運営までを行った。

【地域や地元企業との連携活動等】 ()内は連携先

○生活科学科食物栄養学専攻

生活科学科食物栄養学専攻は「鹿女短スマイル食育プロジェクト」で地元企業との連携によるレシピ作成・商品開発等やNPO法人等地域と連携し様々な食育活動を展開した。

・畑作物栽培・加工プロジェクト～かごしま丸ごと食育

(農事組合法人 土里夢たかた、畑の郷水土里館、ティアンドエムフーズ(株)ほか)

・Healthy & Smileプロジェクト～笑顔をみんなに～商品開発

(鹿児島協同食品(株))

・「西郷さんと大豆の豆助」プロジェクト

～オリジナル食育絵本の作成と絵本を活用した食育教室～食育紙しばい・絵本の作成

(NPO法人霧島食育研究会、燦燦舎ほか)

平成30年度に作成したオリジナル絵本「西郷さんと大豆の豆助」を、県内の幼稚園、保育園約100か所に送付し、園児の読み聞かせや給食の献立への活用利用されている。

また、鹿児島市主催の「第5回かごしま食育フェスタ」(12月1日)に参加し、オリジナル味噌玉づくりワークショップ(大豆の豆助と学ぶ「味噌でスマイル」)を行った。

・未来への贈り物☆プロジェクト

～持続可能な社会を目指して「もったいないを見直そう」～地元の未利用資源を用いたレシピ開発等

(鹿児島サンロイヤルホテル、日本食品(株)、ビックファイブ(株)ほか)

平成31年3月10日に「桜島大根フェア」を開催し、食品加工業者、医療、観光関係者ら180人が参加した。観光関係者ら180人が参加した。

これらのプロジェクトは、これまでの継続により地域や地元企業との密接な関わりの中で展開された。毎年、学生の新たな発想が生まれ内容も充実している。学生は、社会に出ても本活動を通して学んだことを生かし、地元等で活躍することが期待されている。更に、本活動を通して地元企業への就職にもつながっており、本学及び連携先ともに有意義な活動となった。

○生活科学科生活福祉専攻

生活科学科生活福祉専攻では、毎年「介護の日」(主催:鹿児島県)のイベントに参加しボランティア活動を積極的に行っている。

○児童教育学科

児童教育学科では、「研修Ⅰ:児教六月灯」や「研修Ⅵ:舞台発表」を地域住民に開放している。令和元年度は約430人の近隣の保育園や幼稚園の園児等や地域の子どもたちが保護者とともに鑑賞に訪れた。

これらの研修は、学生が地域の子どもたちと実際に触れ合う中で子どもへの理解を深め、幼児教育・保育者を目指す者としてのモチベーションを高めるために非常に有意義な学びの機会となった。また、遊びや芸術鑑賞の機会を提供することで、地域の幼児教育の貢献につながった。

○教養学科

教養学科では、2年後期のCOC科目「プロジェクト演習」のグループ活動の成果として、2年間の授業や研修を通して、社会人基礎力、地域貢献力を身につけることを目指し、冊子「おごじょたん」を発行している。この冊子は、鹿児島の「文学・伝統行事・特産品・食・自然・歴史・言葉・芸術」8つのテーマから構成されており、各グループでは、文献調査・アンケート・現地訪問・インタビューなどを行いながら、かごしま再発見と地域情報の発信に努めている。令和元年度から新たにウェブ版を作成し、刷上印刷(株)の「かごぶら!」のサイト上に公開した。



児教六月灯



「おごじょたん」第6号



第5回食育フェスタ

○地域でのボランティア活動

学生が組織する「絆工房シオンちゃん」がボランティア活動の募集・運営に取り組んでいる。

- ・本学サークルの特徴を生かした公演依頼に対し、公的機関等のイベント等において令和元年度は、約200人(24件)が参加した。中でも「ヤング踊り連Team鹿女短」は、郷土伝統の踊りを通して鹿児島の魅力を国内だけではなく過去にはシンガポール等海外でも披露している。
- ・県内幼稚園、保育園、施設等における行事(夏祭り、運動会等)へのボランティアの依頼に対し、令和元年度は、約180人(55件)が参加した。

さらに、令和元年度には、将来の地域防災の担い手育成を目的とした「鹿児島市学生消防団」に5人の学生が入団し、授業と調整しながら研修や防災関係のイベントに参加するとともに、紫苑祭では「学生消防団」への理解等のPR活動もした。



ヤング踊り連Team鹿女短



鹿児島市学生消防団



山川こどもクラブ運営のお手伝い

8 鹿児島工業高等専門学校

鹿児島高専では、本事業を積極的・効率的に実施するため、本校の産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブ(KTC)、本校と連携協力協定を締結している霧島市・日置市、両市商工団体等と協力し、本校独自の「COC+高専」地方創生推進会議を平成27年12月に設置して、地元就職率及び定着率の向上を目的とした、地域企業による特別講義・講演、企業見学・体験学習、企業研究会・セミナー等さまざまな事業の推進を図ってきた。

平成30年度からは、これらの事業の位置づけを対象学年ごとに明確化し、1年生から4年生までの全5学科を対象に計20の企画を実施している。1年生は、学習の始まった専門課程との関連を意識した形での企業技術者による特別講義、2年生は、専門性を生かした地域での活動へ関心を高めてもらうために、霧島市及び日置市職員による地方創生に関する特別講義並びに鹿児島で働く本校OB・OGによる講演、3年生はエンジニアとして働くことへの意識を高めてもらうために、企業訪問によるものづくり現場の見学、4年生は、就職を念頭においた視点での企業講演と地域企業インターンシップを実施している。



「COC+高専」地方創生推進会議

【地域人材育成】

地域企業への理解を深めるための特別講義・講演、企業見学と体験学習を通じ、地元を志向する学生を育成し、地元就職率及び定着率の向上につなげることを目的として、平成27年度から地域企業による特別講義と企業見学を行っている。また、平成28年度からは霧島市・日置市職員(平成29年度からは本校OB・OG含む)による地方創生特別講義を実施している。なお、各事業の実施状況等については表1のとおりである。

表1 地域人材育成の実施状況(平成27～令和元年度)

事業名		年度	H27	H28	H29	H30	R1	備考
地域志向特別講義	クラス数		9	9	10	10	10	1年全学科 4年全学科
	企業数		6	8	10	10	10	
	人数		336	360	397	417	401	
地方創生特別講義	クラス数		—	5	6	5	5	2年全学科
	企業数		—	2	10	2	2	
	人数		—	213	243	212	210	
地域企業見学	クラス数		9	13	5	5	5	3年全学科
	企業数		13	19	5	5	5	
	人数		378	538	212	194	210	
地域企業 インターンシップ	目標数		34	39	44	47	50	4年全学科 1年全専攻
	企業数		19	28	31	20	12	
	実績人数		40	42	52	40	27	

* 人数は対象学生数、備考欄は現在対象としている学年・学科等



地域志向特別講義



地方創生特別講義



地域企業見学



地域企業インターンシップ

【地元就職支援】

学生が就職に対する準備として、地域の産業分野にどのような企業があり、どのような業務を行っているか理解を深めることにより、地元就職率及び定着率の向上につなげることを目的として、地域企業研究会を継続実施している。

また、就職の際の方向性を決める相談者である、教職員や保護者にも地域企業等について理解してもらうことが重要と考え、地域企業・研究施設見学、平成28年度からは保護者向け合同企業セミナーを実施している。なお、これらの実施状況等については表2のとおりである。

表2 地域企業研究会等の実施状況(平成27年～令和元年度)

事業名		年度	H27	H28	H29	H30	R1	備考
高専生のための 地域企業研究会	実施月		1	1	2	1	1	4年全学科 1年全専攻
	企業数		16	36	36	37	58	
	人数		224	218	221	231	215	
保護者向け校内 合同企業セミナー	実施月		—	5	5	5	5	保護者 希望学生
	企業数		—	17	21	22	31	
	参加数		—	223	139	97	142	
教職員・KTC会員を 対象とした地域企業 等見学	実施月		8・9	9	9	3	—	教職員 KTC会員企業
	企業数		3	4	2	1	—	
	参加数		49	26	37	20	—	

* 人数欄は参加対象学生数、参加数欄は実参加者数、備考欄は参加対象者



地域企業研究会



保護者向け企業セミナー



教職員の地域企業見学

【地域や地元企業との連携】

地方創生の取組を広く社会に情報発信する目的で、霧島市・日置市、KTC会員企業等と連携し、平成27年8月に「地方創生シンポジウム2015」(参加者100人)を、平成28年9月に「地方創生と産学官連携フォーラム2016」(参加者220人)をそれぞれ開催しCOC+事業の推進を図った。

また、地元企業等への就職率の更なる向上を目指し、霧島市及び日置市と連携して、高専生及び大学生等を対象とした地域企業研究会やKTC主催の県内企業研究会を継続的に実施している。更に、平成29年度からKTC会員企業との共同研究をもとに卒業研究指導の事例とした研究発表会等を公開実施している。



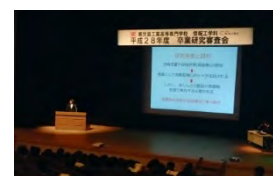
地方創生シンポジウム



産学官連携フォーラム



合同企業説明会



卒業研究の成果発表

【取組の成果と今後の課題】

本校では、「COC+高専」地方創生推進会議を設置し、産官学(企業・商工団体、自治体、高専)が連携し、それぞれの立場から「COC+事業」の取組について協議を行うことで、本事業の本来の目的を達成するための取組を効率的・効果的に実施することができた。

また、各年度末に事業評価会議を開催し事業全体の達成状況等を確認するとともに、取組の効果・課題・改善策等についての評価結果を踏まえ、次年度以降の取組に反映させるシステムの構築がなされた。

特に、地域企業による特別講義・講演、企業見学・体験学習、企業研究会・セミナー等さまざまな事業の位置づけを対象学年ごとに明確化し、1年生から4年生までの全5学科を対象に実施することで、低学年のうちから地域企業についての情報に触れ、学年進行とともに地域で活躍する企業(企業技術者)等や具体的な事業内容等をより理解することにより、地元就職率及び定着率の向上につなげることが一層期待される。

これらの取組の成果指標となる本校の県内就職率の推移は、図1に示すとおり、平成27年度に目標値を達成した後、平成28年度以降は減少傾向が続いている状況であったが、平成30年度は18.4%(目標値5.9%)、令和元年度は就職者109人のうち県内就職者 24人で、22.0%(目標値28.1%)となる見込みで、目標には達しなかったが、「COC+事業」開始前年度の就職率から5.7%の大幅アップとなった。

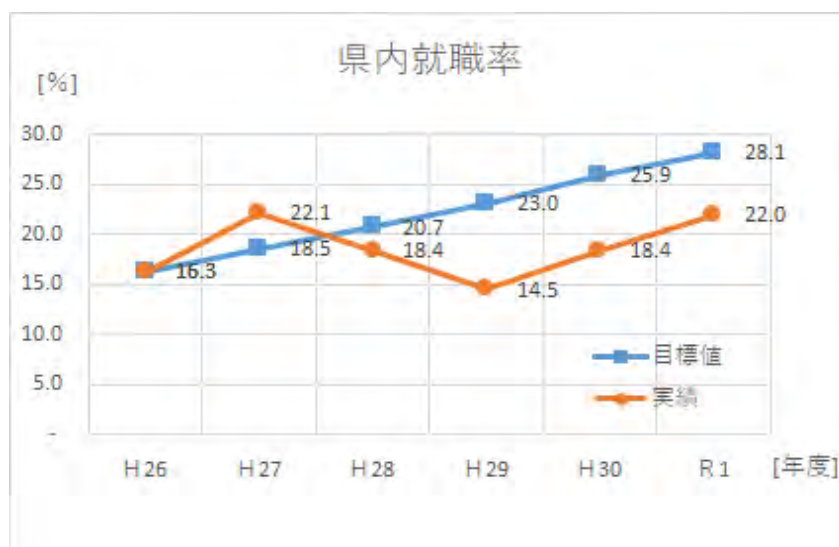


図1 県内就職率の推移

進路状況の変化としては、ここ数年の進学率の増加が大変顕著である。平成27年度以前は30%弱で推移していた進学率が、平成28年、29年度は30%台後半へと上昇し、平成30年度、令和元年度は40%台に達した。本科卒業後の編入学先の選択肢が広がったことに加え、学生や保護者の意識が大きく変化していることがうかがえる。

就職に関しては、昨今の人手不足等により関東、関西、中部地区を中心とした県外大手企業の採用意欲は非常に高く、非常に多くの求人がある中で、就職希望者のうち、約2割の学生が地域企業・団体を選択したことは注目すべきと考える。しかしながら、依然として県外大手の採用意欲や、学生の都市部志向は高い状態であり、学生に対する地域企業を知る機会を提供し続けるとともに、進路指導にあたる本校教員との連携、地域企業に対してのインターンシップ受け入れ体制の構築や採用活動への積極的な行動を、継続的に促していく必要がある。

なお、補助事業としてのかごしまCOC+事業は終了することとなるが、これまで「オール鹿児島」で取組んできた同事業の継承の重要性は言うまでもない。

9 鹿児島県・経済団体等

かごしまCOC+事業の推進に当たっては、これまで行政・企業等の16事業協働機関がコストシェアの考え方のもと、それぞれの役割に基づき大学・短大・高専と協働し、様々な取組を行ってきた。

これらの取組は、かごしまCOC+事業全体の冠でもある「食と観光」に関連したものが多く、「食と観光」が鹿児島の象徴的・重点的分野であることを改めて感じさせるものである。

鹿児島県

○就職支援・マッチングのための説明会等の開催

●UIターンフェア“かごしま”&県内就職合同面接会

鹿児島県へのUIターン希望者及び県内への就職希望学卒者等を対象に、夏の帰省時期に合わせて鹿児島労働局と共催で開催しているもので、会場では県内企業との就職面接会のほか、UIターン相談や職業相談等を実施している(令和元年度実績:参加企業174社、学生・UIターン希望者等336人)。

平成27年度から30年度までの参加者のうち131人の就職先が決定するなど、県内就職の促進に一定の効果をえている。

●合同企業説明会“鹿児島で働かんけー?”

企業の採用に係る広報活動開始後の早い時期に、翌年度卒業予定の学生等と県内企業との出会いの場を提供するため、県内外3会場で合同企業説明会を開催している。

＜平成27年度～30年度の実績＞

- ・鹿児島会場…参加企業延べ669社、参加学生等2,364人
- ・福岡会場……参加企業延べ248社、参加学生等 327人
- ・東京会場……参加企業延べ34社、参加学生等 32人 ※平成30年度から開催

平成27年度～29年度の参加者のうち307人(鹿児島会場285人、福岡会場22人)の就職が決定するなど、学生等の県内就職の促進に一定の効果をえている。

●進学・就職応援フェア「みらいワーク“かごしま”」

県内の企業や大学、短大、専修学校等が一堂に会し、学生、生徒・保護者等に対して県内企業や大学等の魅力や情報等を提供する進学・就職応援フェアを開催している(平成30年度～)。

＜平成30年度～令和元年度の実績＞

- ・県内企業延べ136社、大学・専修学校等延べ78校、参加者1,207人

就職活動前の早い段階から地元での進学・就職情報等を提供することにより、保護者を含め県内定着の意識醸成につながった。



合同企業説明会「鹿児島で働かんけー？」
(令和元年 8月)



進学・就職応援フェア「みらいワーク“かごしま”」
(平成30年 8月)

○就職情報提供サイト「かごJob」の開設

県内外へ進学した大学生等に対して、Webサイトを開設し県内企業の魅力等を発信している(平成29年度～)。登録企業数:669社(令和2年1月末)。

○新たな奨学金制度による地元就業支援

将来を担う有為な人材の育成・確保を図るため、2つの新たな奨学金制度を創設した。

●「大学等入学時奨学金」(平成27年度創設)

国が定める授業料等減免の上限額(ただし、授業料については半期分)の範囲内で、入学時に必要な入学金及び前期又は第1四半期授業料の実費額から国が減免した部分を除いた額を無利子で貸与するもので、このうち「地方創生枠」は、大学等卒業後県内就職し、一定の要件を満たした場合全額を免除する。これまで1,264人を採用候補者として認定した(令和2年3月末現在)。

●「大学等奨学金返還支援制度」(平成28年度創設)

日本学生支援機構の無利子奨学金を借りた学生等が大学等卒業後県内に居住し、県内企業に就職するなど一定の要件を満たした場合、奨学金の返還を支援するもので、この制度は、県、市町村及び産業界の出資による「奨学金返還支援基金」で運用されている。これまで400人を支援候補者として認定した(令和2年3月末現在)。

○知事等による講義(鹿児島大学)

全学必修科目「大学と地域」において、平成29年度は前期、平成30年度～令和元年度は前期・後期の2回、知事が1年生を対象に講義を実施している(毎年約2,000人が受講)。また、平成28年度から毎年、関係する分野について、延べ約20人の県職員が講師を担当している。

COC+「地域キャリアデザイン」においては、企画部次長が、外部講師の一人として、前期・後期合わせて246人を対象に講義した(平成28年度～30年度)。

鹿児島県工業技術センター

○大学との連携

県内の大学や高専と以下のような取組を行ってきた(平成27年度～)。

＜鹿児島大学＞

- ・研究開発推進会議委員への招へい(毎年4人)
- ・ファインバブル利用技術講習会の講師招へい
- ・共同・受託研究(毎年2～3件)
- ・ラボツアーへの講師派遣
- ・「焼酎マイスター養成コース」への講師派遣、など

＜第一工業大学＞

- ・学生指導(平成30年度:23人)

＜鹿児島工業高等専門学校＞

- ・研究開発推進会議委員への招へい(毎年2人)
- ・学生指導(毎年10人程度)
- ・鹿児島高専テクノクラブへの参加

共同・受託研究や学生指導等を行うことにより学生の教育に少なからず貢献するとともに、大学の先生方の招へいや当センターからの講師派遣により、連携を図ることができた。

○「鹿児島のタベ」出展による食のPR

毎年東京で開催される「鹿児島のタベ」に出展し(平成28年度～)、県内で開発されている発酵食品(焼酎、酢、みそ等)を展示し、機能性食品の紹介などを行った。

また、発酵食品づくりを技術支援した事例(サトウキビ酢、甘酒等)を関東地区の薩摩大使らに紹介した。鹿児島の「食」の伝統と新技術をPRすることができた。

鹿児島県大隅加工技術研究センター

○「食」への支援

●食品加工事業者等の人材育成

食品加工事業への新規参入の促進、食品加工事業者等の新商品開発に係る知識や手法を図るため、研修会(座学・実習)等を開催した。

平成27年度からの5年間で各種研修会を99回開催し、延べ1,621人が参加した。また、大学との連携では、出前講座などを7回実施し、延べ366人が参加した。

食品加工等に関する実践的な知識や基本的な加工技術などを学ぶ機会を提供し、食品加工事業者等の担い手育成を図った。

●食品加工事業者等の付加価値向上

総合相談窓口を設置し、各種相談(加工技術、品質評価技術、流通保蔵技術、商品開発、販路拡大等)に対応した。平成27年度からの5年間で1,107件の相談に対応した(令和2年1月現在)。

また、多様化・高度化する研究課題に対応するため、産学官連携によるオープンイノベーションにも積極的に取り組んだ(大学等との連携による共同研究:12課題)。

新商品開発の技術指導、販路拡大支援等を行うとともに、共同研究の成果については、成果発表会等を通じて広く周知することにより、食品加工事業者等の付加価値向上を図った。

(公財)かごしま産業支援センター

○プロフェッショナル人材確保

新製品開発や販路開拓をはじめとした新たなチャレンジの実現を担うプロ人材と企業とのマッチングについて、地域金融機関や自治体等と連携しながら支援した(プロフェッショナル人材戦略拠点)。

平成28年1月の拠点開設以来、900件を超える企業訪問や相談対応を行い、具体的な求人活動に至った483件のうち110件(人)のプロ人材の採用を実現した(令和元年12月末現在)。

○大学との密接な連携

当センターは鹿児島大学南九州・南西諸島域共創機構棟内に「産学官連携課」を設置しており、鹿児島大学と密接に連携している。また、鹿児島大学産学・地域共創センター、(株)鹿児島TLOと連携し、地域企業等への研究開発や技術開発に関する支援を実施している。

○鹿児島県の「食」プロジェクトに関する取組

鹿児島県が取り組んでいる「新かごしま」「食」と「職」の魅力向上・加速化プロジェクト」の一環として次の3事業を実施した(平成29年度～令和元年度)。

●食品関連産業「カイゼン」定着支援事業

食品関連産業の効率化による利益拡大を図るため、生産管理の専門家を企業に派遣して、助言を行うとともに「カイゼン」ゼミを開催した。その他、生産管理に関するセミナーを開催した。

●食のプレミアム商品開発支援事業

国内外の高付加価値商品の購入者をターゲットとした商品開発や販路拡大等、食品関連産業が行う付加価値向上に向けた取組延べ24件を支援した。

●食品加工技術レベルアップ支援事業

食品関連産業が求める加工上の技術的ニーズと機械製造業者が持つ技術的シーズをマッチングした、産学官連携による機械装置を試作する6件の共同研究を支援した。その他、共同研究推進に役立つ研究機関のシーズ等を紹介するラボツアーや関連の公募事業説明会を開催した。



産学官連携課
(鹿児島大学内)

(公社)鹿児島県観光連盟

○観光関連講座への講師派遣

大学で開催される観光関係講座へ講師を派遣し、大学と連携した観光産業関連の人材育成を推進した(平成29年度)。

●鹿児島大学大学院人文科学研究科

講 師 鹿児島県観光プロデューサー 古木 圭介

講義名 観光連盟の役割について

●鹿児島国際大学公開講座

講 師 鹿児島県観光連盟 専務理事 白橋 大信

鹿児島県観光プロデューサー 古木 圭介

講義名 観光と国際化について

○ホームページの拡充と観光情報の発信

鹿児島県と共同で運営している観光ホームページの、「鹿児島の食」に関する特集ページ及び法人向けページについて拡充等を行い、情報発信機能の強化を図った。拡充内容は次のとおり。

●「鹿児島の食」特集ページ

- ・「グルメ・お土産」の特集ページの拡充
- ・2大グルメサイト「ぐるなび」、「ホットペッパー」のAPI導入(店舗検索機能の追加)
- ・スマホ画面に対応したシステム変更 等

●法人向けページ

- ・法人向けページのPC画面のワイド化、CMS化
- ・教育旅行、スポーツ合宿に関するコンテンツの拡充
- ・「温泉王国かごしま」のコンテンツ拡充
- ・体験予約システムの導入(じゃらんAPI等) 等

○NHK大河ドラマ等を生かした「観光かごしま大キャンペーン」の実施

大河ドラマ「西郷どん」の放送や明治維新150年等を生かしたキャンペーンを展開した。その結果、平成30年(1月～12月)に鹿児島県を訪れた観光客は、過去最高の832万人となった。

●観光かごしま大キャンペーン事業

- ・明治維新150年特別キャンペーン
- ・NHK大河ドラマ「西郷どん」キャンペーン
- ・新幹線沿線誘客対策(JRとのタイアップ事業等)
- ・奄美の世界自然遺産登録に向けた観光キャンペーン
- ・拠点地域初の広域観光周遊ルートの整備 等



「西郷どん」キャンペーン
(平成30年9月、東京)

(公社)鹿児島県工業倶楽部

○大学との連携

- ・会員に対し、合同企業説明会などへの参加を呼びかけたほか、かごしまCOC+事業のPRなど会員への広報活動を行った。
- ・鹿児島大学大学院研究科に在学する最終年次の学生で、県地域産業の発展に貢献する優秀な研究業績を挙げた者に、卒業式で学長が工業倶楽部賞を授与している(平成17年度に創設、毎年2人を表彰)。

○「食と健康に関するシンポジウム」の開催

かごしまの「食」を中心に据え、鹿児島大学との共催で平成23年度から毎年、シンポジウムを開催している。第9回となった令和元年度は、「新技術が拓く“食と健康の未来”」をテーマに、講演及びパネルディスカッションを行い、約200人が参加した。

学生をはじめ、企業、関係団体等が、鹿児島の「食」や食産業に関を持つきっかけとなった。



食と健康に関するシンポジウム(平成30年11月)

鹿児島県農業協同組合中央会

○インターンシップの実施

JAグループ鹿児島を理解してもらうとともに、学生に就業体験をしてもらうため、インターンシップを実施している。参加者は当初10人程度であったが、コース内容を工夫したことなどから徐々に増え、令和元年度は30人(予定を含む)となった。

＜令和元年度のインターンシップのコース＞

- ・総合職を学ぶプラン1日間、2日間(2コース)
- ・農業研究プラン3日間
- ・販売体験プラン2日間

○大学の授業等への講師派遣

大学のキャリア授業や業界紹介イベント等へ職員を講師として派遣し、鹿児島の農業やJAグループ鹿児島の理解促進に役立っている。

- ・鹿児島大学COC+授業「地域キャリアデザイン」ゲスト講師
- ・鹿児島大学農学部業界研究フェアへの参加
- ・鹿児島国際大学「就業力育成研修会」の開催
- ・志学館大学「キャリア講演会」講師としての参加



講師派遣による授業風景(鹿児島大学)

○「食」を通じた短大・大学とのコラボ

「食」を通じた以下のイベントを、短大・大学とコラボして開催している。

- ・鹿児島女子短期大学:「よい食・環境県民フォーラム」を活用した助成事業
- ・志学館大学:弁当プレゼントコンテストへの協賛

鹿児島県森林組合連合会

○大学の授業への講師派遣

鹿児島大学における授業(森林事業体論)において、代表理事専務が講師として講義を行った(平成29年度～)。

森林組合の組織や役割等について講義し、参加学生の理解促進につながった。

また、今回の講義に対して、後日参加学生から、「講義レポート」を提出してもらい、レポートの中にあつた各学生からの質問事項について、講義補足分として、それぞれ「回答の書類」を各学生へ送付、更なる理解促進につながった。

○インターンシップの実施

大学生のインターンシップを実施している(平成元年度～)。

令和元年度は8月に2日間実施し、延べ4人の学生が、森林調査(現地におけるドローンを用いた森林調査とそのデータ結果に基づく意向調査への関連業務)や木材市場における丸太木材検収業務(於:木材流通センター)、さらには新規制度として開始された「森林環境税」及び「森林経営管理制度」の概要説明などを行い、職場体験を実施した。

鹿児島県漁業協同組合連合会

○大学、ハローワーク等の就職イベントへの参加

大学や関係機関等が主催する企業紹介・就職イベントに出展し、鹿児島の豊富な魚や水産業の魅力についてPRするとともに、県漁連の組織と役割の理解促進に努めた。

<参加イベント等>

- ・平成28年度 新規学校卒業者採用セミナー
- ・平成29年度 UIターンフェア”かごしま”&県内就職合同面接会
地元企業と学生との意見交換会(参加学生155人)
鹿児島大学水産学部業界セミナー、鹿児島大学水産学部合同会社説明会
- ・平成30年度 鹿児島大学水産学部業界セミナー
- ・令和元年度 鹿児島大学水産学部業界セミナー、鹿児島大学水産学部合同会社説明会

鹿児島県経済同友会

○人材確保(インターンシップ)への取組

会員企業に対し、キャンパスウェブを通じて実施される県内大学・短大等のインターンシップについて企業登録の依頼を行った(毎年度)。

○かごしまCOC+事業の広報

ニューズレター「かごしまCOC+通信」(毎号)を全会員(約350人)に配付し、事業の理解と地元雇用の拡充に努めた。なお、平成30年度からは、同友会で独自にカラー印刷・配布している。

○「かごしま飛翔会」による大学等との連携

同友会50歳以下の会員と、鹿児島県・鹿児島市の若手職員で構成する「かごしま飛翔会」では、鹿児島大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学、鹿児島女子短期大学等のCOC+関係大学をはじめ外部団体等から講師を招き、テーマに基づき講演、意見交換等を行ってきた(毎年度)。

<講演のテーマ(例)>

- ・平成27年度 「若者定着について」
- ・平成28年度 「地元定着をめざすCOC+事業とは」
「もっと若者の地元定着を考えよう～企業・大学・学生のホンネ～」
- ・平成30年度 「就活生の本音～私たちは企業のここを見ている」

鹿児島県商工会議所連合会

○地方創生に向けた大学との連携

●地元企業へのインターンシップ事業の実施

鹿児島商工会議所と包括連携協定を締結している鹿児島大学と連携し、同大学の単位認定の課題解決型インターンシップにおける事業運営に関する協議を進めるとともに、当商工会議所会員企業における学生受入の機会拡大に取り組んだ。

平成30年1月に、会頭や学長など、当商工会議所・鹿児島大学の役員等計40人が出席し、地域人材育成におけるインターンシップのあり方について意見交換を行った。

この意見交換会を皮切りに双方での協議や取り組みを重ね、平成30年度に受入企業20社・参加学生25人、令和元年度に受入企業29社・参加学生30人で、同大学「かごしま課題解決型インターンシップ」事業を実施した。

特に、令和元年度には、当商工会議所においても、同大学学生等7人の参加を得て、「かごしま課題解決型インターンシップ」の受け入れを実施した。

また、平成31年2～3月には、同大学との新たな共同事業として、全学部の学生を対象とする会員企業へのインターンシップ事業を、参加企業29社、参加学生8人で実施した。

●小中高との連携による地域人材育成

当商工会議所では、県内の小・中学生に、本県の歴史や文化等を知ることの楽しさに触れてもらい、より鹿児島への理解や愛着を高め、将来の鹿児島を担う人材育成を図るため、鹿児島県教育庁と連携し、平成21年度から「かごしまジュニア検定」を実施している。平成30年度は約2万2千人が受験している。

また、県内の中高生における地元企業への認識向上や就業意識醸成に向け、鹿児島県未来を拓くキャリア教育推進事業に参画し、地元企業へのインターンシップ事業と各学校への講師派遣事業について、会員企業への機会提供や学校・企業間の連携支援に取り組んだ。令和元年12月には、甲南高校において岩崎会頭が講話を行った。

○留学生の鹿児島での就職支援

●企業と留学生のマッチングの促進

特に地方では人材確保がますます困難となっている中、人手不足対策や企業の海外展開などの観点から、鹿児島県と連携し、県内各大学の協力を得ながら、平成27年度から外国人留学生の採用を検討している会員企業と、本県企業等への就職を希望する留学生とのマッチングを支援するため、企業と留学生の交流会等を実施している。

これまで11回開催し、企業261社、留学生841人が参加した(令和元年12月現在)。



企業と留学生の交流会(令和元年7月)



地元企業で働く外国人社員と留学生との座談会
(平成30年1月)

鹿児島県商工会連合会

○人材確保に向けた取組

毎年、県内の大学・短大等に対して、人材の照会(新卒者の採用依頼)を行っている。

○「食と観光」の取組

●かごしま特産品市場「かご市」の設置・運営(平成26年6月～)

鹿児島市の繁華街天文館でアンテナショップ「かごしま特産品市場(通称:かご市)」を設置・運営し、南北600kmに及ぶ県内各地の食料品、焼酎、工芸品など1,700品目を超える商品を一堂に揃えている。

「地産地販」の拠点として、小規模事業者の新たなビジネスチャンスの創出や、地域の情報発信基地としても重要な役割を担っている。

また、免税店「Tax-Free Shop」として外国人観光客向けの免税対応も行っており、国内外問わず、観光客が訪れるスポットにもなっている。

●首都圏での「かごしま逸品うまいもんフェア～」の開催(平成29年度～)

かご市でテスト販売した新商品や隠れた地元特産品を「チャレンジ商品」として、芋焼酎、農産加工品等と合わせて、首都圏東京で、より多くの流通関係者や消費者に幅広くPRし、販路拡大を目指すとともに、県内各地の観光パンフレット配付や会場での観光ビデオ放映も併せて行い、観光振興を目的に「かごしま逸品うまいもんフェア」を開催している。

このフェアは2日間の日程で開催しており、毎年、県内事業者約18業者が参加し、入場者は12,000人を超える(令和元年度は14,700人)。毎年増加している来場者に、本県特産品と観光地の魅力を大きくPRできた。



かごしま逸品うまいもんフェア(令和2年1月)

鹿児島県中小企業団体中央会

○大学との連携

●審査会委員会等への委員就任

本会の実施事業(ものづくり補助金等)に係る審査委員会等において、鹿児島大学の学識経験者2人に委員等の就任を要請し、適切な助言をいただくことで円滑かつ効果的な事業推進を図った(毎年度)。

●授業への講師派遣

志学館大学において、「地域経済の現状と課題」をテーマに職員が講義を行った(毎年度)。

○セミナー、研修会等の開催(「食と観光」分野)

食品製造業者や観光・旅行業者等の会員を対象に、毎年、セミナー等を開催してきた。

これまでの5年間(令和元年11月末現在)で、「食と観光」分野の下記セミナー・研修会等に約900人の組合員が参加した。

<セミナー・研修会等の概要>

- ・食品産業関係者…デザイン、商品開発、衛生管理、ブランド化、食品安全規格等についての研修会と、食品製造現場の視察研修
- ・食品製造業者 … 食品加工、新商品開発、販路拡大、働き方改革等の研究会(漬物商工業(協)、蒲鉾(協)、味噌醤油工業(協)などの組合員)
- ・観光・旅行業者 … インバウンド、着地型観光、組合間連携等についての研究会、講演等(旅行業(協)などの組合員)

(社福)鹿児島県社会福祉協議会

○福祉人材の確保

●福祉人材無料職業紹介事業

県内の福祉・介護職場に就職を希望する方に、職場の紹介や就職の斡旋を行った。

●福祉人材確保総合推進事業

福祉等関係の仕事に理解を深め、地域福祉活動の担い手となる人材養成に資するため、福祉・介護の職場に就職を希望する方を対象に「就職支援講座」や「福祉人材確保支援セミナー」等を開催した。

●就職面談会の開催

福祉・保健医療職場の人事担当者と就職希望者との就職面談会を年4回開催し、福祉等職場の人材確保及び就職希望者の求職活動の支援を図った。

以上の事業等を通じて、大学生をはじめ一般の方々に、福祉・介護職場に対する理解の浸透を図るとともに、具体的に就職を斡旋するなど一定の成果をあげた。

(株)鹿児島 TLO

○食品関連事業のHACCP等認証取得支援など

令和2年度に施行される改正食品衛生法に基づく「HACCPに沿った衛生管理の制度化」に向けて、県内食品関連事業者を対象にHACCP等認証取得支援を行ってきた(令和元年度までの5年間で、認証取得支援対象企業35社のうち、認証取得企業は22社)。

また、鹿児島大学農学部と連携するとともに、食品の品質管理・認証取得に関するセミナー(5年間で19回)や、出前説明会(令和元年度:9回)を開催するなどして、人材育成や準備を支援した。

○県内産業の動向調査(食品・観光産業を中心に)

かごしまCOC+事業の実施に伴い、以下の項目について受託調査を実施した(平成27年度)。

- ・鹿児島県内自治体の創業支援制度及びインキュベーション施設
- ・観光・食品・再生可能エネルギー・バイオ関連産業の動向
- ・食・健康・環境分野の動向
- ・研究開発志向企業調査
- ・県内企業の採用状況・ニーズ状況調査
- ・大学発ベンチャーを含む県下ベンチャーの動向調査
- ・COC+採択校及び参加校のインターンシップ・就職状況調査

県内企業の動向と県内大学(特にCOC+参加大学)のインターンシップや就職に関する状況が、アンケートを通じて把握できた。

○インターンシップ・県内学生の雇用状況調査

鹿児島県の企業における大学生等のインターンシップ受入れ及び雇用状況調査と学生の就職活動における情報活用に関する調査を受託実施した(平成29年度)。

企業向けの調査では238社から回答。学生向けの調査では3,950枚回収(回収率53.4%)。

その中で、大学の就職支援の方策としてのインターンシップの位置づけについて、学生は就職についての情報源としてより、社会人になる為の現場体験をしたいということから大学からのインターンシップの案内に期待していることが分かった。

○かごしまCOC+事業の周知活動

県内自治体を廻る際には常にかごしまCOC+事業内容を紹介するパンフレットを持参し、周知に努めた。特に、各自治体内にある食品関連事業者や観光事業者向けに案内していただくよう努めた。最近自治体自体が県内学生の採用が難しくなっており、かごしまCOC+事業について関心を示す例が多かった。

(株)鹿児島銀行

○地方創生への取組に関する連携協定

当行及び鹿児島県内の高等教育機関が相互に連携・協力し、互いが有する情報やノウハウ、ネットワーク等を活用することにより、鹿児島県内の産業の発展及び人材の育成を図り、地方創生の実現に寄与することを目的とし、協定を締結した(平成29年度)。

また連携・協力事項を具体的かつ円滑に推進するため、プラットフォーム「鹿児島の次世代を担う『人材・産業』育成プラットフォーム(通称:ネクストかごしま)」を設立した。

○地元企業と学生の意見交換会

地元企業や地元就業の理解を深めるため、グループディスカッション形式による地元企業と学生との意見交換会を開催した(平成28年度・29年度)。

特に、平成28年度は学生目線での意見交換会を目指し、COC+との共催で、県内学生の企画・協働による取組を行った(2か年度の実績(延べ):企業86社、学生440人)。

○かぎん未来創造プランコンテストの開催

ビジネスプラン発掘と事業化支援を行うことによりベンチャーマインドあふれる人材育成を目指して、「かぎん未来創造プランコンテスト」を開催している(平成29年度～)。

○国立公園の活用による地域活性化への取組

- ・環境省と「国立公園オフィシャルパートナーシップ」締結し(平成29年6月)、国立公園の美しい景観と魅力を世界へ発信し、国立公園の所在する地域の活性化につなげることを目的に、国立公園を活用した様々な観光施策に取組中。

- ・国立公園オフィシャルパートナーである(株)Wonder Wanderersと協働し、地域資源に新たな価値を付加した「アウトドア事業」を霧島錦江湾国立公園エリア内指宿市で実施。令和元年10月～11月、グランピング150人、アウトドアディナー81人、計231人が参加。地元事業者による同様の事業継続検討にもつながっている。



コンテスト案内チラシ(平成29年度)

○各種商談会の開催

<南の逸品商談会>

- ・～平成29年度(池袋サンシャインシティ)
- 北海道、北の逸品商談会との合同商談会

<かごしまの逸品商談会>

- ・～平成30年度(鹿児島アリーナ)
- 食品関連企業による農畜産物、加工品等の「食」の紹介

<地方銀行フードセレクション>

- ・平成28年度～(東京ビッグサイト)
- 地元のイチオシ商品の展示・PR、食品バイヤーとの個別商談など
- 令和元年度実績:出展21社⇒商談成約21件、継続交渉265件

<観光商談会>

- ・平成27～30年度:国内(東京)
- 当行主催、地元から参加する自治体等が、首都圏の旅行業者等と観光商談
- ・令和元年度:海外(上海)
- 当行主催、自治体や事業者等と協働し、上海の旅行代理店等へ観光商談

IV COC+大学及びCOC+参加校の事業実績

(令和元年度)

1 鹿児島大学

実施計画①

本補助事業推進のための必要な人員配置(COC+推進コーディネーター等)を行う。

具体的な実施項目	実 績
COC+推進部門スタッフ配置 【全体】【鹿大】	・平成30年度に引き続き、特任教授(教育プログラム担当)1人、特任助教(学生支援コーディネーター)1人、特任専門員(事業担当職員)1人、非常勤職員1人及びCOC+推進コーディネーター1人を配置した。 ・スタッフの役割を明確にし、学外との連携協働は主にCOC+推進コーディネーターが、学内における地域人材育成と就職支援は特任教授と特任助教が、かごしまCOC+事業全体が円滑に進行するための学内外との連絡調整等は主に特任専門職員が担い、非常勤職員がバックアップする体制を維持した。

成 果

平成30年度と同様のスタッフ配置によって、これまでに築き上げられてきた役割分担による業務が円滑に継承されたことで、学内におけるかごしまCOC+事業の推進はもとより「オールかごしま」によるCOC+事業の円滑な推進に繋がった。特に、「オールかごしま」によるCOC+事業の推進を図るために設置された「かごしま学卒者地元定着促進協議会」、「COC+教育プログラム開発委員会」及び「部会」でも、円滑な情報共有と事業の推進に役立った。また、COC+共同事業(かごしまCOC+総括シンポジウム、地元企業よかとこ発見バスツアー2019、かごしまCOC+公開講座2019)の円滑な実施が実現した。学内的には、毎月開催される産学・地域共創センター運営企画会議やセンター会議、就職支援センターや学生部などの関係部署との情報共有と連携が円滑に行われ、かごしまCOC+事業の推進につながった。

実施計画②

かごしま学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの部会を随時開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討を行うとともに、地元就職促進に向けた取組を展開するためにその他の自治体や商工団体との連携を強化する。またCOC+大学及びCOC+参加校においても個別に委員会等を開催する。さらに、補助事業終了後における協力体制の維持及び事業継続のための取組を行う。

具体的な実施項目	実 績
かごしま学卒者地元定着促進協議会【全体】	・第1回 令和2年3月16日 議事 1 かごしまCOC+事業の継承及び協議会の解散について 2 かごしまCOC+事業のこれまでの取組と成果について 3 令和元年度かごしまCOC+事業の目標達成状況について
COC+教育プログラム開発委員会【全体】	・第1回 令和元年7月24日～31日(メール会議) 議事 1 地元就職率向上に向けた取組について ～平成31年3月卒業生の地元就職率を踏まえたアンケートのまとめ～ ・第2回 令和元年10月11日 議事 1 かごしまCOC+事業終了後のあり方について 2 次年度「かごしまCOC+公開講座」のあり方について 3 「かごしまCOC+総括シンポジウム」について 4 「かごしまCOC+公開講座2019」について 5 「地元企業よかとこ発見バスツアー2019」について 6 「かごしまCOC+通信」について

COC+部会【全体】 ・地域志向教育部会 ・地域就業部会 ・広報部会 ・ポストCOC+あり方部会	・第1回 平成31年4月23日＜3部会合同会議＞ 議事 1 かがしまCOC+事業終了後のあり方について 2 平成31年度共同事業(案)について ①「地元企業よかとこ発見バスツアー2019」 ②「かがしまCOC+公開講座2019」 ③「かがしまCOC+総括シンポジウム」 3 平成30年度外部評価について 4 平成30年度実績報告書について ・第2回 令和元年7月18日＜4部会合同会議＞ 議事 1 かがしまCOC+事業終了後のあり方について 2 「かがしまCOC+公開講座2019」について 3 「かがしまCOC+総括シンポジウム」について 4 地元就職率向上に向けた取組について(アンケート結果まとめ) 5 「地元企業よかとこ発見バスツアー2019」について 6 「かがしまCOC+通信」について ・第3回 令和元年9月18日＜4部会合同会議＞ 議事 1 かがしまCOC+事業終了後のあり方について 2 次年度のかがしまCOC+公開講座のあり方について 3 「かがしまCOC+総括シンポジウム」について 4 「かがしまCOC+公開講座2019」について 5 「地元企業よかとこ発見バスツアー2019」について 6 「かがしまCOC+通信」について ・第4回 令和2年2月5日＜4部会合同会議＞ 議事 1 新コンソーシアム「地域連携・就業部会」の実施事業について ・地元就業推進フォーラム2020【仮称】(素案)について ・地元企業よかとこ発見バスツアー2020(案)について 2 令和2年度の公開講座の取扱いについて 3 新コンソーシアム「地域連携・就業部会」の運営について 4 4月以降の担当者について 5 かがしまCOC+通信第22号(最終号)について
COC+連絡会【鹿大】	・平成31年4月11日・令和元年5月17日・6月13日・7月11日・9月12日・10月11日・11月7日・11月21日・12月13日・令和2年1月16日・2月18日・3月12日開催(計12回)
成 果	

COC+教育プログラム開発委員会の下に実動組織として平成30年度に設置した4部会では、COC+推進コーディネーターの主宰のもと、学卒者の地元就職促進に向けた地域課題の掘り起こしと必要な教育プログラム、インターンシップや就職支援のあり方等について、実務者レベルで機動的・実効的に協議や検討を行うことができた。

特に、かがしまCOC+総括シンポジウム、かがしまCOC+公開講座、地元企業見学バスツアー及びかがしまCOC+通信の4つの共同事業については、部会の会議だけでなく日頃から緊密な連携のもと、効果的に取り組むことができた。

また、「ポストCOC+あり方部会」では、COC+補助事業終了後の推進体制のあり方や共同での取組等について、前年度に引き続き認識を共有しながら協議を進めることができた。その結果、かがしまCOC+事業については、「大学地域コンソーシアム鹿児島」への継承という形で関係者の合意が得られた。

COC+教育プログラム開発委員会及びかがしま学卒者地元定着促進協議会においては、部会の検討結果を踏まえ、必要な事業計画等について審議・決定を行い、迅速な事業の推進が図られた。

特に、かがしまCOC+事業の継承については、「ポストCOC+あり方部会」での検討結果・方向性について機関決定され、今後、新たなステージでの取組が期待される。

実施計画③

COC+大学は総合教育機構と協働して学部横断型の「地域人材育成プラットフォーム」上で「かごしまキャリア教育プログラム」、「かごしま地域リサーチ・プログラム」、「かごしまグローバル教育プログラム」を実施する。地域就業力を育成する「かごしまキャリア教育プログラム」では、PDCAによる更なる改善を行いプログラム全体の改善を図るとともに、関係教員によるFD活動を随時行い授業のバージョンアップを図る。COC+参加校においても、地域志向教育やキャリア教育の整備充実及び改善を行う。さらに前年度に引き続きCOC+大学及びCOC+参加校共同の「かごしまCOC+公開講座」を開講する。

具体的な実施項目	実 績
「キャリアデザイン」の実施【鹿大】	・「かごしまキャリア教育プログラム」全体の見直しを行った。 ・「地域キャリアデザイン」に代わり新たに、スタートアップ科目として「キャリアデザイン」を配置し、前期と後期に開講し、年間の受講生は389人となった。 ・従来の「地域キャリアデザイン」は、「地域キャリア・プランニング」と名称変更及び内容の見直しを行い、新たにプログラム科目のコア科目として位置づけた。
「企業活動の基礎」の実施【鹿大】	・「かごしまキャリア教育プログラム」のコア科目として3年生を対象にして、後期に開講した(受講生13人)。 ・県内企業のトップリーダー達をゲスト講師に招へいし、実践的経験知の基づく講義と、講義内容に関する学生からの質問と講師の回答による双方向型の授業として実施した。
かごしまCOC+公開講座2019開講【全体】	・かごしまCOC+公開講座2019「食と観光で鹿児島の魅力アップを考える」を、8月10日に鹿児島大学を会場に開催し、COC+大学及びCOC+参加校に在籍する学生51人が受講した。その他、講師をはじめCOC+大学及びCOC+参加校の関係者も多数参加した。全体プログラムは「食と健康」分科会と「観光とまちづくり」分科会に別れ、午前中に各大学における取組事例の講義、午後に課題解決型のワークショップを行った。 ・なお、各大学の講義については、本年度より、一人の講義時間を増やし各分科会2人の計4人で担当した。
COC+関係教員によるFD【鹿大】	・キャリア教育を担当する教員達によるPDCAを実施し、昨年に引き続き「かごしまキャリア教育プログラム」を構成する「地域キャリア・インターンシップ事前演習」(受講生前期8人、後期8人)及び「地域キャリア修了演習」(受講生8人)について見直しを行い、前者については集中講義とし、本年度は経過措置として前期と後期に2回を開講した。 ・キャリア教育担当の特任助教が国家資格キャリアコンサルタントの取得を行った。 ・現就職支援センターを改組し、新たに「キャリア形成支援センター」を発足させるために準備作業が行われ、そこにキャリア教育全体を担う教員3人が配置されることとなった。

成 果

- ・前年度の「かごしまキャリア教育プログラム」を構成する全教育科目の完成を受け、かごしまCOC+事業補助期間終了後の改善策及び対応策について検討を重ね、令和2年度以降の継承への準備が整った。
- ・現就職支援センターを改組し、新たに「キャリア形成支援センター」を発足させ、そこにキャリア教育全体を担う教員3人(COC+担当教員1人を含む)が配置されることで、地域人材の育成に対しても、より普遍的な視点からの教育が可能となるとともに、就職支援と連動したキャリア支援の一貫した取組が可能となる。
- ・また全学のインターンシップについての一元管理が行われる体制が整い、学内外の連携が円滑に進む体制が整うこととなった。
- ・かごしまCOC+公開講座実施により、大学を超えた多様な視点からの学びの場を学生に提供し、学生の「食と観光」についての理解を深めることにつながった。
- ・改善を図りながら進めてきた公開講座の実施スキームは完成をみることができ、かごしまCOC+事業補助期間終了後の継承の準備が整った。

実施計画④

COC+大学は「かごしまキャリア教育プログラム」の修了証明書の発行を行う。COC+参加校の鹿児島女子短期大学においては、COC+教育プログラム認定証の発行を継続して行う。鹿児島国際大学においては、教育プログラム修了証の発行を行う。関係各校は協働して事業協働機関（県・企業団体等）及び地元企業・自治体と連携し、修了証明書等の地元企業への認知度向上と就職活動におけるインセンティブ付与への配慮依頼を行う。

具体的な実施項目	実 績
修了証明書の発行による地元企業就職へのインセンティブのあり方について事業協働機関と協議し、企業等へ認知度の向上に向けた取組を継続して実施	・鹿児島大学での「修了証明書」発行は、総合教育機構が行うこととなっているため、COC+グループで修了証明書のひな形と発行のための学内規則のたたき台を作成し、教育担当理事を通じ総合教育機構に送付し発行体制を整えるように要請してきた。これを受け、総合教育機構では、修了証明書は学位記とともにプログラム修了生に授与することとした。それまでは、修了証明書（見込み）を自動発行機から発行することとした（令和元年度12月～）。 ・上記の結果を受け、地元企業に対して修了証明書取得者への配慮を依頼した。

成 果

地域人材育成プログラムの修了証明書を発行する体制が整ったことから、「かごしまキャリア教育プログラム」はじめてする「地域人材育成プラットフォーム」上で提供する教育プログラムへの学生の受講意欲を高めるとともに、学生の地元就業への強力な支援策となることが期待される。加えて、この修了証明書を持った優秀な学生を通じて、地域社会に対して本学の地域人材育成教育の周知が図られ、より一層の地域連携の可能性が広がる。

実施計画⑤

COC+大学は、「かごしまキャリア教育プログラム」における構成授業科目の編成などの改善を行い、「キャリアデザイン」「地域キャリア・プランニング」「企業活動の基礎」「地域キャリア・インターンシップ事前演習」「地域キャリア・インターンシップ」「地域キャリア修了演習」の授業を開講するとともに、授業とは別に「かごしま課題解決型インターンシップ」を実施する。またCOC+参加校においては、事業協働機関（県・企業団体等）と連携協働して、既存のインターンシップの拡充整備の継続を図る。

具体的な実施項目	実 績
「地域キャリア・インターンシップ事前演習」「地域キャリア・インターンシップ」「地域キャリア修了演習」の実施 ・「かごしま課題解決型インターンシップ」の実施 ※企業団体等とCOC+参加校との情報共有や調整	・「かごしまキャリア教育プログラム」におけるスタートアップ科目である「キャリアデザイン」を開講した（受講生前期233人、後期156人）。授業内容は、キャリアデザインの基本的知識をはじめ、シティズンシップ、グローバル、ローカル、経済、情報、法律、多様性、環境など幅広いテーマからキャリアデザインを考えるものであった。 ・14地元企業等、5自治体・団体の受入協力を得て、1～4年生の有志の学生延べ30人が参加し、「かごしま課題解決型インターンシップ」を実施した。そのうち、8人が「地域キャリア・インターンシップ」受講者として参加した。 ・実施が決定した学生等に対し、事前研修（「地域キャリア・インターンシップ事前演習」）を実施した。研修内容は、課題発見・課題解決手法の習得、提案書の作成やプレゼンテーションにおける訴求力の高い表現力の向上、職業マナー及び危機対応の基本についてであった。事前研修の内容は、多くの学生に有用と考えたため、本インターンシップ参加者募集と同様の方法で幅広く告知し、誰でも参加可能とした。その結果、本インターンシップ参加予定者以外の学生のほか、課題発見・解決手法の習得を希望する学内他センターの大学教員も参加した。 ・12月14日、3月、「かごしま課題解決型インターンシップ」公開報告会を実施した。受入企業・自治体に加え、本インターンシップに関心を示す企業も参加した（12月は参加者数60人）。なお、12月の報告会には長崎県立大学からの視察もあった。 ・2月21日、「地域キャリア修了演習」における成果報告会を実施した。「地域人材育成プラットフォーム」における全てのプログラムが合同で開催し、（ただし、今年度は「かごしまグローバル教育プログラム」を除く）の修了予定者9人がこれまでの学修の総仕上げとして成果発表を行った。

成 果

・令和元年度実施については、地元企業や自治体の理解と協力のもと、実施ができた。

・令和2年度以降の実施についても、令和元年度受入先に加え、受入先が新たに加わる予定であり、本インターンシップの拡大が図られることとなった。

・令和2年度からの「かごしまキャリア教育プログラム」及び「かごしま課題解決型インターンシップ」は、学内新組織であるキャリア形成支援センターの業務として位置づけられ、かごしまCOC+事業終了後の地域人材育成教育の継承が円滑に行われた。

実施計画⑥

事業協働機関等と連携した共同の地元企業就職セミナーや地元企業見学バスツアー等の実施のほか、COC+大学及びCOC+参加校単位の地元企業就職セミナーを展開するとともに、地元企業等に就職したOB・OGによる特別講話や懇談会を実施する。また、鹿児島県の地域企業情報Webサイト「かごJob」の活用などによる学卒者の地元就職支援の取組を図るほか、地元企業等への就職増に向けて鹿児島労働局との連携を強化する。

具体的な実施項目	実績
商工会議所ほか、鹿児島労働局、関係自治体、ハローワーク等との連携によるセミナー等の開催【全体】	・事業協働機関との連携協働による地元就職イベントを実施した。 1) 鹿児島労働局主催の「鹿児島働き方改革推進協議会」会議(5月13日)にオブザーバーとして出席し、かごしまCOC+事業の取組を説明するとともに、就職に際して学生が求める職場の雰囲気や働きがいにに関して、企業の働き方改革は重要であるとして、その実現についてお願いをした。 また、鹿児島大学の発意により昨年度に鹿児島労働局が作成したリーフレット「鹿児島に住み働くことの魅力」の提供を受けるなどして情報共有・連携を図った。 2) 12月15日 鹿児島県、鹿児島労働局、鹿児島市、鹿児島県若者就職サポートセンター主催、かごしま学卒者地元定着促進協議会等による「鹿児島で暮らそ！ みらいワーク“かごしま”」を開催した。県内企業、大学、短大、専門学校等が多数参加し、県内進学・就職について若年者に身近に感じてもらうことを目的として実施した。参加者アンケート結果により、県内就職及び県内進学希望率はイベント参加前(44.3%)に比べてイベント参加後(52.0%)に7.7ポイント上昇したことが明らかになり、また参加者・出展者ともに、継続的な実施と求める声が多く挙がった。(県内企業36社、学校38校、団体14、参加者計564人：中学生58人、高校生216人、大学・短大生等45人、保護者168人、その他77人)
就職支援センター等との連携事業	・6月5日 学内合同企業説明会 鹿児島県内の企業20社によるブース形式の説明会を実施。学生及び既卒者15人参加 ・6月12日 鹿大生のためのインターンシップ合同企業説明会 42社(うち県内企業29社)によるブース形式の説明会を実施。学生のべ280人参加 ・11月6日 中小企業の魅力発見講座「社長と語ろう」 地元企業6社から話者を迎え、学生26人が参加 ・2月13日～14日 学内業界研究フェア 県内企業68社、学生約800人(延べ人数)参加 ・3月4日～6日 学内個別企業セミナーフェア 企業・官公庁90(県内24)、学生約600人(延べ人数)参加
県内企業訪問等【鹿大】	・県内企業・自治体への訪問や企業等の来訪に合わせて、かごしまCOC+事業の取組の紹介とともに、「かごしまキャリア教育プログラム」での「地域キャリア・インターンシップ」(かごしま課題解決型インターンシップ)の受入について協力を依頼した。併せて、業況や企業の採用状況等を聞き取りした。
地元企業見学バスツアー【全体】	・9月3日から9月6日までの4日間、県内3地区(4コース)で日帰りの地元企業見学バスツアーを実施した。 全コースで学生、教職員など114人が参加し、11企業を訪問・見学した。 ・企画・運営は、担当校(鹿児島国際大学・志学館大学・鹿児島女子短期大学・鹿児島工業高等専門学校)が担い、本年度も全体として「食と観光」を意識した企業選定を行った。 ・使用するバスは、鹿児島大学・志学館大学・第一工業大学及び鹿児島県が提供した。

成果

- ・地元企業見学バスツアーの実施により、参加学生が地元企業の魅力を知るとともに、地元企業に対する関心や興味が高まり、地元就業に向けた意識の醸成が図られた。また、鹿児島県、鹿児島労働局、鹿児島市、鹿児島県若者就職サポートセンターと連携協働した地元就職イベントの実施により、参加学生の地元就職促進や意識の醸成につながった。
- ・鹿児島労働局との連携協働により、雇用・労働環境改善に向けての情報共有が図られた。また、COC+主催のイベント等におけるリーフレットの配布により、鹿児島で働くことの魅力を広く発信できた。
- ・企業訪問等を通じて、令和元年度の「かごしま課題解決型インターンシップ」の新たな受入先として協力が得られた。また、厳しい採用状況の中で学卒者への強い期待を改めて感じる事ができた。
- ・就職支援センター等との連携事業によって、学生及び教職員に対して幅広く情報発信をしながら全学的な取組として推進することができた。
- ・地域就業志向の学生の活動支援・指導により、きめ細やかな就職支援につながった。

実施計画⑦

COC+大学及びCOC+参加校においては、かごしまCOC+総括シンポジウム、各種セミナー等の開催を行うとともに、共同して「かごしまCOC+通信」及びホームページによる情報発信等を随時行う。その他事業協働機関においても構成企業・団体等へのかごしまCOC+事業に係る情報を積極的に発信する。

具体的な実施項目	実 績
『かごしまCOC+総括シンポジウム』の開催	・11月29日 鹿児島大学稲盛会館において、かごしまCOC+総括シンポジウム「学卒者の地元定着への取組～これまで そして これから～」を開催し、事業協働機関関係者をはじめ、地域企業・自治体・教職員・学生など約160人の参加があった。同時に、会場ロビーにおいて、各大学の取組を紹介したポスター展示及びこれまで発行された「かごしまCOC+通信」の拡大展示を行った。
ホームページ	・ホームページにおいて、かごしまCOC+事業の取組の紹介や就職イベントのお知らせ等を随時、情報発信した。 ・高知大学が運営しているポータルサイト「COC+PORTAL」への情報提供を行った。
『かごしまCOC+通信』の発行	・かごしまCOC+事業についての取組や関連情報を広く、タイムリーに発信するため、昨年度に引き続きニュースレター「かごしまCOC+通信」を第14号から22号まで9回発行した。

成 果

過去5年間の取組を総括し、今後に向けた取組について、産・学・官、学生によって多角的に討議することで、人口減少社会に対するかごしまCOC+事業の意義と今後の取組の方向性を明らかにすることができた。このことにより、次年度以降における事業継承と協働の意志を共有できた。
・ホームページ等の活用による取組状況等の随時発信や、大学広報誌等での掲載などにより、学内外に広く広報活動を展開することができた。特に、「かごしまCOC+通信」は平成28年の創刊号から22号までタイムリーに情報発信したことで、地元企業等多くの関係者にCOC+事業を理解してもらうことができ、事業の推進に役立った。また、メディアに対しても積極的な取材依頼と記事の掲載を依頼したことで、県民に広く情報を提供できた。

実施計画⑧

事業報告書等を作成し、外部評価等を実施する。

具体的な実施項目	実 績
事業報告書【鹿大】【全体】	・前年度に引き続き、事業の伸展を検証できる資料となる報告書を作成した。なお、令和元年度の事業実績以外の部分は、全体に5年間の集大成としての記述を行った。
外部評価委員会【鹿大】	・3月19日 4人の外部有識者によるCOC+外部評価委員会を鹿児島大学においてを開催した。委員会はCOC+担当者からの説明と委員からの質疑・応答の後、委員による審議が行われ、最後に5年間全体の課題の指摘と講評及び今後への期待が述べられた。

成 果

事業報告書の作成と、これに基づく第三者による外部評価を受けることで、COC+事業の実施状況の客観的評価と課題の発見が行われた。本年度は、COC+事業の5年間の取組全体を総括することで、令和2年度以降のCOC+後継事業実施への示唆を得ることができた。

実施計画⑨

COC+推進コーディネーターを中心に、事業協働機関及びそれ以外の自治体・商工団体等と連携協働して、共同研究等の推進を図るほか、新規事業創出による雇用創出及び既存産業の雇用拡大に向けた取組を検討する。また鹿児島国際大学は、事業協働機関等と連携して寄附講座の開設を図る。

具体的な実施項目	実 績
・誘致企業における新規学卒者採用の把握【鹿大】 ・大学発ベンチャーにおける新規学卒者採用の把握【鹿大】【全体】 ・寄附講座の把握	・新規雇用創出及び既存雇用拡大に向け、鹿児島県産業立地課から誘致企業や既存事業拡大に係る情報提供を受け、学卒者の雇用の可能性を調査した。 ・産業支援コーディネーター会議(6月、11月)等で新規事業創出に係る情報提供の依頼を行うとともに意見交換を行った。

成 果

・鹿児島県や金融機関の産学官連携コーディネーター(鹿児島大学認定コーディネーター)、産学・地域共創センター内の他の部門との連携により、地元企業のニーズを把握するとともに、大学のシーズとのマッチングに向けて支援体制の強化が図られた。

2 鹿屋体育大学

実施計画①

本補助事業推進のための必要な人員配置(COC+推進コーディネーター等)を行う。

具体的な実施項目	実 績
本補助事業の取り組みを円滑に遂行するため、事務補佐員を1人配置する。	・キャリア支係に本事業の業務を行う事務補佐員1人を、平成30年度に引き続き雇用した。

成 果

・事務補佐員を雇用することで、本事業の業務を効率的に遂行することができた。

実施計画②

かごしま学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの部会を随時開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討を行うとともに、地元就職促進に向けた取組を展開するためにその他の自治体や商工団体との連携を強化する。またCOC+大学及びCOC+参加校においても個別に委員会等を開催する。さらに、補助事業終了後における協力体制の維持及び事業継続のための取組を行う。

具体的な実施項目	実 績
鹿児島大学で実施される事業協働機関間の実務者レベルの連絡会や共同事業のための各ワーキンググループに参加する。	・4月23日 第1回合同部会参加 ・7月18日 第2回合同部会参加 ・9月18日 第3回合同部会参加 ・10月11日 第2回教育プログラム開発委員会参加 ・2月 5日 第4回合同部会参加

成 果

・各種ワーキンググループやCOC+合同部会へ参加することにより、COC+大学及びCOC+参加校並びに事業協働機関相互のより緊密な連携や情報の共有を図ることができた。

実施計画③

COC+大学は総合教育機構と協働して学部横断型の「地域人材育成プラットフォーム」上で「かごしまキャリア教育プログラム」、「かごしま地域リサーチ・プログラム」、「かごしまグローバル教育プログラム」を実施する。地域就業力を育成する「かごしまキャリア教育プログラム」では、PDCAによる更なる改善を行いプログラム全体の改善を図るとともに、関係教員によるFD活動を随時行い授業のバージョンアップを図る。COC+参加校においても、地域志向教育やキャリア教育の整備充実及び改善を行う。さらに前年度に引き続きCOC+大学及びCOC+参加校共同の「かごしまCOC+公開講座」を開講する。

具体的な実施項目	実 績
COC+参加校共同の「かごしまCOC+公開講座」を実施する。	・8月10日「かごしまCOC+公開講座2019」をCOC+大学及びCOC+参加校と共同で開催(参加者51人)。本学教員が「食と健康」分科会において、「専門的知見をビジネスに～食×スポーツ産業の可能性～」と題して講義した。

成 果

・「かごしまCOC+公開講座2019」において、本学の長島講師による「食と健康」分科会が実施されることもあり、1・3年次生の授業でリーフレットを配付、アナウンス告知を強化した。

結果、例年以上にかごしまCOC+公開講座への興味を示す学生が増え、「観光とまちづくり」分科会へ本学学生が1人参加申込した。

実施計画⑤

COC+大学は、「かごしまキャリア教育プログラム」における構成授業科目の編成などの改善を行い、「キャリアデザイン」「地域キャリア・プランニング」「企業活動の基礎」「地域キャリア・インターンシップ事前演習」「地域キャリア・インターンシップ」「地域キャリア修了演習」の授業を開講するとともに、授業とは別に「かごしま課題解決型インターンシップ」を実施する。またCOC+参加校においては、事業協働機関(県・企業団体等)と連携協働して、既存のインターンシップの拡充整備の継続を図る。

具体的な実施項目	実 績
「職と観光」をテーマにした県内の企業や自治体等と大学との懇談会を開催する。	・1月21日 県内3企業の「かごしまの食」に関する企業関係者を招き、各企業の業務内容や企業が求める人材像等のテーマの懇談会を開催した(参加者:教職員8人、学生7人)。

成 果

・「かごしまの食」をテーマにした懇談会は、県内企業の日頃の業務内容がより一層イメージすることができ、各企業がいかに「鹿児島県の魅力」を県民にPRするための努力をしているか等を知る機会となり、参加学生の職業意識の醸成及び将来の選択肢として県内での就職も視野に入れることになるきっかけづくりとなる意義のある取組となった。

実施計画⑥

事業協働機関等と連携した共同の地元企業就職セミナーや地元企業見学バスツアー等の実施のほか、COC+大学及びCOC+参加校単位の地元企業就職セミナーを展開するとともに、地元企業等に就職したOB・OGによる特別講話や懇談会を実施する。また、鹿児島県の地域企業情報Webサイト「かごJob」の活用などによる学卒者の地元就職支援の取組を図るほか、地元企業等への就職増に向けて鹿児島労働局との連携を強化する。

具体的な実施項目	実 績
COC+参加校共同の「地元企業見学バスツアー」を実施する。また、県内就職率向上の就職支援行事として、学内において県内企業や地方自治体等の人事担当者による企業説明会を開催する。	・4月8日～4月25日 大学内において「企業等説明会」を集中開催した。その後も随時開催し、県内計21企業等が参加した。(学生14人参加) ・COC+大学及びCOC+参加校と共同で実施した「地元企業よかとこ発見バスツアー」で、大隅コースを担当校の志學館大学に協力して実施した(9月2日)。

成 果

・「企業等説明会」を学内で開催することにより、学生と県内企業との関係が近くなり、学生の職業意識の醸成及び県内企業等への就職も選択肢の一つとして考慮するきっかけ作りとなる機会の提供となった。

・また、バスツアーによる地元企業訪問は、地域志向学生の企業理解とともに働き方に対するイメージ形成に寄与した。

3 鹿児島国際大学

実施計画①

本補助事業推進のための必要な人員配置(COC+推進コーディネーター等)を行う。

具体的な実施項目	実 績
COC+推進副コーディネーター兼事務補助員を1人継続雇用し、COC+及びCOC関連事務を実施。	・平成30年度に引き続き、COC+推進副コーディネーター(兼事務補助員)1人を配置し、産学官地域連携センターとの連絡・調整を行いながら、事業の推進並びにCOC+及びCOC関連事務を実施した。

成 果

・産学官地域連携センター内に設置のCOC推進室において、継続雇用したCOC+推進副コーディネーターがCOC+及びCOC関連事務を遂行することにより、本事業を円滑に推進することができた。また、COC+推進副コーディネーターがCOC+大学及びCOC+参加校や事業協働機関との連携を密にすることにより、COC+及びCOC事業を迅速かつ効果的に実施できるとともに、地域や企業等のニーズを的確に把握し事業に反映させることができた。

実施計画②

かごしま学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの部会を随時開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討を行うとともに、地元就職促進に向けた取組を展開するためにその他の自治体や商工団体との連携を強化する。またCOC+大学及びCOC+参加校においても個別に委員会等を開催する。さらに、補助事業終了後における協力体制の維持及び事業継続のための取組を行う。

具体的な実施項目	実 績
「地域人材育成委員会」及び「教育プログラム開発委員会」の開催	・地域人材育成委員会を開催(教育プログラム委員会と合同開催)し、令和元年度の取組の報告及び令和2年度以降のCOC事業終了後の事業継続に向けた体制整備等について協議するとともに、連携の取組等について事業協働機関と意見交換を行い、事業協働地域の抱える課題等について情報の共有化を図った。 ・COC+との共同事業を推進するための合同部会及びプログラム開発委員会に参加した。 4月23日 第1回合同部会参加 7月18日 第2回合同部会参加 9月18日 第3回合同部会参加 10月11日 第2回教育プログラム開発委員会参加 2月5日 第4回合同部会参加

成 果

・「地域人材育成委員会」及び「教育プログラム開発委員会」を通じて、地域が求める人材像の把握や事業協働機関の役割分担等について検討し、事業協働地域の抱える課題やニーズ、地元就職率向上に向けた取組の方向性についての協議などが可能となり、COC事業終了後の次年度以降の取組につなげることができた。また、教育プログラムの修了証及び修了見込証明書、周知広報のための訪問活動について、計画の具体化に向けた協議を重ねることができるとともに、認知度の向上に向けた取組に関する情報を共有することができた。

・COC+の事業協働機関による合同部会やプログラム開発委員会及び「かごしま地元定着促進協議会」に参加したことで、COC+事業と一体化したCOC事業の効果的な取組が行えた。

実施計画③

COC+大学は総合教育機構と協働して学部横断型の「地域人材育成プラットフォーム」上で「かごしまキャリア教育プログラム」、「かごしま地域リサーチ・プログラム」、「かごしまグローバル教育プログラム」を実施する。地域就業力を育成する「かごしまキャリア教育プログラム」では、PDCAによる更なる改善を行いプログラム全体の改善を図るとともに、関係教員によるFD活動を随時行い授業のバージョンアップを図る。COC+参加校においても、地域志向教育やキャリア教育の整備充実及び改善を行う。さらに前年度に引き続きCOC+大学及びCOC+参加校共同の「かごしまCOC+公開講座」を開講する。

具体的な実施項目	実 績
「地域人材育成プログラム」、「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」の教育プログラム(フィールドワーク)の実施	・地域課題の解決に必要な能力や英語を使って地域に貢献したい学生の地域志向力の醸成を図るため、「地域人材育成プログラム」「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」の両教育プログラムを開講し、地域志向科目、地域志向演習、キャリアデザイン科目、地域人材育成科目、地域フィールド演習を実施した。 ・教育プログラムの履修については、一年生へは新入生オリエンテーション、2年生へは在学生オリエンテーションにおいて、COC教育プログラムについての説明会を開催し、学生及び教職員への周知を図った。 ・8月10日「かごしまCOC+公開講座2019」をCOC+大学及びCOC+参加校と共同で開催(参加者51人)。本学の教員が「観光とまちづくり」分科会において「外国人から見た鹿児島の観光」と題して講義した。

成 果

- ・自治体等と連携したフィールドワーク等の取組みにより、プログラム履修の学生は、講義で学んだ地域に関する知識や理論を、実際に現場に行って地域が抱える課題として捉え、地域社会と協働しながら解決策を考え、実践することで、地域課題解決に求められる能力の向上や学生の地域志向性の醸成等が図られた。
- ・「かごしまCOC+公開講座2019」を共同開催したことで、地域志向の学生に対して、多様な学習の場を提供できた。

実施計画④

COC+大学は「かごしまキャリア教育プログラム」の修了証明書の発行を行う。COC+参加校の鹿児島女子短期大学においては、COC+教育プログラム認定証の発行を継続して行う。鹿児島国際大学においては、教育プログラム修了証の発行を行う。関係各校は協働して事業協働機関(県・企業団体等)及び地元企業・自治体と連携し、修了証明書等の地元企業への認知度向上と就職活動におけるインセンティブ付与への配慮依頼を行う。

具体的な実施項目	実 績
地元企業等に教育プログラムにおける修了証または修了見込証明書を認知してもらうための普及活動及び修了見込証明書・修了証の発行	・「教育プログラム修了証」の認知度向上に向けて、自治体・団体・企業等を訪問し周知広報活動を実施した。 ・修了見込証明書の要件を満たした学生に対し、発行申請に基づき証明書を発行した(61人)。 ・3月卒業のプログラム修了者に対し「教育プログラム修了証」を授与した(157人予定)。

成 果

- ・事業協働機関等を通じて、自治体・団体・企業等への周知広報への協力が得られ、COC教育プログラム修了証及び修了見込証明書の認知度が更に向上し、地域での就職に役立つことが更に期待されるようになったことで学生の地元就職率向上にもつながった。

実施計画⑤

COC+大学は、「かごしまキャリア教育プログラム」における構成授業科目の編成などの改善を行い、「キャリアデザイン」「地域キャリア・プランニング」「企業活動の基礎」「地域キャリア・インターンシップ事前演習」「地域キャリア・インターンシップ」「地域キャリア修了演習」の授業を開講するとともに、授業とは別に「かごしま課題解決型インターンシップ」を実施する。またCOC+参加校においては、事業協働機関(県・企業団体等)と連携協働して、既存のインターンシップの拡充整備の継続を図る。

具体的な実施項目	実 績
国内インターンシップや事業協働機関と連携したフィールドワークの開拓及び実施	・事業協働機関(自治体・企業団体等)と連携協働した国内インターンシップや教育プログラムにおける「地域フィールド演習」科目、「地域志向演習」科目等でのフィールドワークの実施及び開拓を図った。 ・国内外インターンシップに269人(国内233人・海外36人)の学生が参加した。(1月10日現在) ・地域フィールド演習では、自治体等と連携したフィールドワーク等が行われ、担当教員21人、受講学生261人が参加した。

成 果

- ・事業協働機関や事業協働地域等と連携したインターンシップやフィールドワークを実施することにより、学生の地域志向性の涵養が図られ、学生の地元での雇用を増やすことにつながった。

実施計画⑥

事業協働機関等と連携した共同の地元企業就職セミナーや地元企業見学バスツアー等の実施のほか、COC+大学及びCOC+参加校単位の地元企業就職セミナーを展開するとともに、地元企業等に就職したOB・OGによる特別講話や懇談会を実施する。また、鹿児島県の地域企業情報Webサイト「かごJob」の活用などによる学卒者の地元就職支援の取組を図るほか、地元企業等への就職増に向けて鹿児島労働局との連携を強化する。

具体的な実施項目	実 績
事業協働機関と連携した地元企業就職支援セミナー等の開催	・事業協働機関等と連携した合同企業説明会や地元企業就職支援セミナー等を開催した。 5月～2月 就職ガイダンス(8回) 6月17日「信用保証協会の中小企業支援について」(出張講義) 7月11日 外国人留学生就業力育成研修 9月12日 地域商工団体連携就業力育成研修(～13日) 9月26日 合同企業説明会 12月14日「伝統工芸品産地研修会」(連携事業) 2月 就活フォローアップ講座等(3回) 2月 7日 JA就業力育成研修 3月14日 合同企業説明会 ・COC+大学及びCOC+参加校と共同で「地元企業よかとこ発見バスツアー」を実施した(9/3～9/6、参加者114人)。

成 果

- ・事業協働機関や学内各部局と連携し、地元企業就職支援に向けたセミナー等の開催など事業の推進を図ることで、地元企業など受入機関との連携強化及び今後の事業全体の改善や学生の地元就職志向の意識醸成に役立てることができた。
- ・また、バスツアーによる地元企業訪問は、学生の企業理解とともに働き方に対するイメージ形成に寄与した。

実施計画⑦

COC+大学及びCOC+参加校においては、かごしまCOC+総括シンポジウム、各種セミナー等の開催を行うとともに、共同して「かごしまCOC+通信」及びホームページによる情報発信等を随時行う。その他事業協働機関においても構成企業・団体等へのかごしまCOC+事業に係る情報を積極的に発信する。

具体的な実施項目	実 績
ホームページによる取組と成果の公表、事業報告会の開催及び報告書の作成	・フィールドワーク活動や事業協働機関等との連携活動の状況について、取組と成果を随時ホームページ等で報告し、学内外に向けて情報発信した。 ・「かごしまCOC+総括シンポジウム」を共同開催し、COC及びCOC+のこれまでの取組を総括し報告した(10/29、参加者120人)。

成 果

- ・ホームページにて取組と成果を逐次報告・公表することで、事業協働機関とは常に情報の共有化を図ることができた。また、学生のフィールドワーク等による教育活動への意識の醸成が図られた。
- ・「かごしまCOC+総括シンポジウム」ではポスター発表とスライドによる成果報告を行うことで、国際大学のCOC及びCOC+の取組全体を分かりやすく情報発信することができた。

実施計画⑧

事業報告書等を作成し、外部評価等を実施する。

具体的な実施項目	実 績
学内評価委員、学外評価委員による評価等の実施	令和元年度の年次報告書を作成し、外部評価委員による外部評価を実施した(3月11日)。さらに、学内委員会等による評価を実施した(3月18日)。なお、COC+関連事業についてはCOC+大学が実施する外部評価委員会による評価を受けた(3月19日)。

成 果

- ・評価委員による事業全体の達成状況や効果、PDCAサイクルの運用などについての評価を踏まえ、COC事業終了後の事業の継続実施に向けて改善点を検討することで、更なる事業の推進が可能となった。

実施計画⑨

COC+推進コーディネーターを中心に、事業協働機関及びそれ以外の自治体・商工団体等と連携協働して、共同研究等の推進を図るほか、新規事業創出による雇用創出及び既存産業の雇用拡大に向けた取組を検討する。また鹿児島国際大学は、事業協働機関等と連携して寄附講座の開設を図る。

具体的な実施項目	実 績
事業協働機関からの寄附講座開設に向けた取組みや鹿児島県地域産業高度化産学官連携協議会等における地域企業ニーズの事業化に向けた関係機関等との連携協力	・垂水市との「地方創生の取組みに関する協定」に基づく寄附講座「地方で働くということ」を開講し、391人の学生が受講した。ゲスト講師を招いての講義に加え、「道の駅たるみずはまびら(垂水市)をバズらせよう!」をテーマにグループワークやプレゼンテーション、フィールドワークを行うなど計5回開講した。

成 果

・事業協働機関等と連携した寄附講座を開設することにより、自治体や企業等の最先端の現場で活躍するプロフェッショナルな方々から知識と経験を直接学ぶ機会を得られ、専門性を備えた人材育成が可能となった。また、フィールドワークなどの教育活動を通じて社会貢献と人材育成の両面が効果的に実現できた。

4 志學館大学

実施計画①

本補助事業推進のための必要な人員配置(COC+推進コーディネーター等)を行う。

具体的な実施項目	実 績
キャリア・サポーター兼コーディネーターを活用する。	・キャリア・サポーター兼コーディネーターを前年度より継続して配置し、進路支援課員・教員以外で同サポーターによる学生支援は33件だった。 ・同コーディネーターの調整により、キャリア形成科目「キャリアデザイン」での指宿市との連携による講義と実地研修を実施した。

成 果

・鹿児島県の企業等の事情・特性を理解し、キャリアコンサルタント資格を有するキャリア・サポーター兼コーディネーターにより、就職相談や面接練習等の機会を増やすことで、より一層きめ細やかな支援を行うことができた。

・指宿市「シビックカフェ事業」との連携による学習機会が充実し、本学の産学官連携に係るプログラム開発・改善が進んだ。

実施計画②

かごしま学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの部会を随時開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討を行うとともに、地元就職促進に向けた取組を展開するためにその他の自治体や商工団体との連携を強化する。またCOC+大学及びCOC+参加校においても個別に委員会等を開催する。さらに、補助事業終了後における協力体制の維持及び事業継続のための取組を行う。

具体的な実施項目	実 績
全体で開催する各種会議等に参加する。	・COC+全体共通の会議にはすべて参加した。 ・社会連携センター会議を4回、社会連携センター大学間連携部門会議を1回実施し、かごしまCOC+事業の進捗状況を報告するとともに、共同事業の実施前月には教授会にて告知を行った。 ・事業の内容に応じて、学務課、総務課、進路支援センター及び資格センターにも情報共有を行い、協力して学生への告知等を進めた。

成 果

・事業協働機関等との情報交換を行い、事業の改善・開発について検討することで、地域における「オール鹿児島」の意識が醸成された。また、学内の各部署とも関連しながら共有・検討することができ、より一層地域に貢献するための横断的・総合的な取り組みや運営の柔軟性に向けた学内基盤の強化が図られた。

実施計画③

COC+大学は総合教育機構と協働して学部横断型の「地域人材育成プラットフォーム」上で「かごしまキャリア教育プログラム」、「かごしま地域リサーチ・プログラム」、「かごしまグローバル教育プログラム」を実施する。地域就業力を育成する「かごしまキャリア教育プログラム」では、PDCAによる更なる改善を行いプログラム全体の改善を図るとともに、関係教員によるFD活動を随時行い授業のバージョンアップを図る。COC+参加校においても、地域志向教育やキャリア教育の整備充実及び改善を行う。さらに前年度に引き続きCOC+大学及びCOC+参加校共同の「かごしまCOC+公開講座」を開講する。

具体的な実施項目	実 績
産学官連携や地域協働、学卒者地元定着に係るプログラム等を実施し、キャリア教育を強化するとともに、全体事業の公開講座に参加する。	・全体共同「かごしまCOC+公開講座2019」に教員1人、学生3人が参加した。 ・専門科目「鹿児島地域経済演習」を新設し、2件の事務所訪問・ヒアリングを行い、3人が参加した。 ・専門科目「鹿児島企業経営演習」を新設し、1件の事務所招へい、1件の企業訪問・ヒアリングを実施し、4人が参加した。 ・鹿児島市まちづくり講座とバスツアー事業による専門科目「地域産業論演習」を鹿屋市の協力も得て実施し、31人が履修した。 ・鹿児島ユナイテッドFCとの連携により、代表講話を実施し、専門科目「スポーツ産業」において試合運営ボランティア活動を実施し、27人が履修した。 ・産業界・自治体関係者等を招へいするオムニバス型の専門科目「総合地域論」を38人が履修した。 ・専門科目「産業組織心理学演習」において「食と観光フェスタ」を運営し、29人が履修した。 ・専門科目「社会産業実習」において、鹿児島市「かごしま食育フェスタ」に参加し、15人が履修した。 ・専門科目「専門演習（キャリア教育）」において、JA鹿児島県中央会・鹿屋市・鹿屋中央高校との連携により「弁当プレゼンコンテスト」を実施し、ゼミ学生20人、関係者15人、観客等80人が参加した。鹿屋市特産品コーナー、輝北町写真展、SDGsポスター展示、交流会、再現弁当の限定販売を実施した。 ・専門科目「専門演習（グローバル化と地域経済）」において、3件の事業所訪問・ヒアリング、2件の招へい、1件の工場見学・経営本部交流を実施し、18人が参加した。 ・産業界・自治体関係者等を招へいするオムニバス型のキャリア形成科目「キャリア概論（かごしま学）」を77人が履修した。 ・キャリア形成科目「キャリア開発演習」において、JTBと連携し、事業改善やコース策定のプロジェクトを実施しフィードバックを受け、17人が履修した。 ・キャリア形成科目「キャリアデザイン」において、チェスト連合、指宿市、folkloreforest等の協力を受け、地域活性・発信・企画力の授業と実地研修を行い、43人が履修した。 ・教養科目「ボランティア企画実習」において、NPO等と連携し、「地域交流フェスタ」を運営し、9人が履修した。 ・教養科目「まちづくり企画実習」において、東串良町・紫原地区まちづくり協議会との連携により、特産品オリジナルレシピの開発及びふるさとCMコンテストへの出品作品製作を行い、8人が参加した。 ・日之出町「鹿児島市町内会加入促進モデル事業」に学生が参画し、町内活性化プロジェクトを始動させ、4人が参加した。 ・鹿児島商工会議所後援の資格センター「かごしま検定対策講座」を実施し、24人が参加した。 ・資格センターで九州FG証券・鹿児島銀行寄附講座「一種外務員講座」を実施し、11人が参加した。

成 果

・地元企業や自治体等と接しながら地域マインドを育成する趣旨の授業の新設や改編が行われ、前年度までに新設した取組も継続して順調に遂行でき、鹿児島の「食と観光」や地元地域・企業等について考える機会を多様に提供することができた。

実施計画④

COC+大学は「かごしまキャリア教育プログラム」の修了証明書の発行を行う。COC+参加校の鹿児島女子短期大学においては、COC+教育プログラム認定証の発行を継続して行う。鹿児島国際大学においては、教育プログラム修了証の発行を行う。関係各校は協働して事業協働機関（県・企業団体等）及び地元企業・自治体と連携し、修了証明書等の地元企業への認知度向上と就職活動におけるインセンティブ付与への配慮依頼を行う。

具体的な実施項目	実 績
地域志向型プログラムの履修を学生に推奨し、企業等に周知しつつ、その他の修了証等の制度を整備する。	・長期履修プログラム「地域学習アニメーター」について、社会連携センター説明会で学生に告知するとともに、同センター生涯学習部門の霧島市との連携講座の際や教育長訪問の際に周知依頼を行った。 ・地域志向型プログラムや地域活動等への修了証又はポイント認定制度の実施のための検討を進めたが、システム設計や事務手続き等の整備に時間がかかるため、次年度以降に実施することになった。

成 果

- ・「地域学習アニメーター」の学生履修者はいなかったが、霧島市を中心に徐々に社会人への周知が進み、社会連携センターのシンポジウムに地域学習アニメーター修了者が登壇した際に学生も参加したので、次年度以降の可能性につながった。
- ・他大学の取り組み状況等情報収集等をもとに検討し、制度設計や事務手続き等の整備に着手することができた。

実施計画⑤

COC+大学は、「かごしまキャリア教育プログラム」における構成授業科目の編成などの改善を行い、「キャリアデザイン」「地域キャリア・プランニング」「企業活動の基礎」「地域キャリア・インターンシップ事前演習」「地域キャリア・インターンシップ」「地域キャリア修了演習」の授業を開講するとともに、授業とは別に「かごしま課題解決型インターンシップ」を実施する。またCOC+参加校においては、事業協働機関（県・企業団体等）と連携協働して、既存のインターンシップの拡充整備の継続を図る。

具体的な実施項目	実 績
各種インターンシップの学生への普及と充実、改善を図る。	・キャリア形成科目「インターンシップ」では55人、法ビジネス学科専門科目「法ビジネス基礎演習」では46人がインターンシップに参加した。 ・「産業組織心理学演習」・「ボランティア企画実習」・「社会産業実習」・「専門演習（キャリア教育）」での「地域インターンシップ」には61人が参加した。 ・これまで把握が難しかった個人での参加について、進路支援センターが進路支援プログラム等の活用を工夫することで把握できた分のインターンシップとしては、176人が参加した。 ・1・2年次向けキャリア支援ガイダンスにおいてインターンシップについて説明し、キャリア形成科目「キャリア開発入門」においてインターンシップ経験者の報告会を実施した。

成 果

- ・多様なインターンシップが実施され、その把握も進んだ。
- ・1つの企業等だけでなく、地域理解を踏まえた複数の企業・自治体との課題解決型インターンシップ「地域インターンシップ」が順調に実施された。
- ・授業関連以外のインターンシップ情報も積極的に告知するようにしたため、個人での参加者が増えた。

実施計画⑥

事業協働機関等と連携した共同の地元企業就職セミナーや地元企業見学バスツアー等の実施のほか、COC+大学及びCOC+参加校単位の地元企業就職セミナーを展開するとともに、地元企業等に就職したOB・OGによる特別講話や懇談会を実施する。また、鹿児島県の地域企業情報Webサイト「かごJob」の活用などによる卒卒者の地元就職支援の取組を図るほか、地元企業等への就職増に向けて鹿児島労働局との連携を強化する。

具体的な実施項目	実績
全体の就職支援セミナー、企業訪問バスツアー等の事業に参加するとともに、本学独自でも事業協働機関等との連携事業を実施する。	・4月24日 「大学主催合同企業説明会」を開催し、地元企業を中心に69社が参加し、学生129人が参加した。 ・9月3日 地元企業見学バスツアー(大隅コース)を担当し、地元企業2社、1自治体を訪問し、学生42人、教員1人が参加した。 ・10月16日 東南ロータリークラブによる模擬面接会を実施し、面接官18人、学生28人が参加した。 ・10月30日 鹿児島県中小企業家同友会との連携により「経営者と語る会」を実施し、経営者6人、学生22人が参加した。 ・11月27日 地元企業等内定者によるパネルディスカッションを実施し、30人が参加した。 ・11月29日 かごしまCOC+総括シンポジウムに参画し、教職員8人、本学学生15人が参加した。 ・12月11日 鹿児島県中小企業家同友会による模擬面接会を開催し、面接官9人、学生27人が参加した。

成果

・進路支援プログラムについて拡充を検討しながら事業を実施することにより、次年度以降のプログラム改善・開発に役立った。
 ・バスツアー及びフォーラムへの参加・担当並びに本学独自の中小企業家同友会と教職員との意見交換会により、地元企業との接触が増え、一層の連携が促進されたとともに、地元企業への就業意識の醸成を図る姿勢が強化された。

実施計画⑦

COC+大学及びCOC+参加校においては、かごしまCOC+総括シンポジウム、各種セミナー等の開催を行うとともに、共同して「かごしまCOC+通信」及びホームページによる情報発信等を随時行う。その他事業協働機関においても構成企業・団体等へのかごしまCOC+事業に係る情報を積極的に発信する。

具体的な実施項目	実績
本補助事業の情報を学内外に広報する。	・「かごしまCOC+通信」の原稿作成及び学内共有を行った。 ・学内広報システム、ウェブページ、大学案内及び学園広報等を活用し、情報配信を随時行った。 ・1月14日、「弁当プレゼンコンテスト」を開催し、地元テレビ局MBC、KKBで報道された。

成果

学内外に情報発信をすることにより、認知度が上がり各事業に対する学生の参加意欲が高まった。

実施計画⑨

COC+推進コーディネーターを中心に、事業協働機関及びそれ以外の自治体・商工団体等と連携協働して、共同研究等の推進を図るほか、新規事業創出による雇用創出及び既存産業の雇用拡大に向けた取組を検討する。また鹿児島国際大学は、事業協働機関等と連携して寄附講座の開設を図る。

具体的な実施項目	実績
産学官連携に関する会議等を活用し、本学の資源を活かした既存産業の拡大及び新規事業の創出を検討するとともに、起業家マインド育成につながるプログラムを実施し、学外プログラムを学内に周知する。	・全体の会議等で共有された情報や評価結果等で指摘を受けた「食と観光」というテーマ性について、五輪・国体を意識した弁当プレゼンコンテスト実施など自学の事業でも強化した。 ・鹿児島県や鹿児島市の産学官連携に関する会議、鹿児島県中小企業家同友会との意見交換会において、COC+について言及しつつニーズを聞き取り、文系大学としての本学の資源の活用についても積極的に提案した。 ・若手起業家をキャリア形成科目「キャリア開発演習」「キャリアデザイン」に招へいし、起業家マインドを強化した。

成果

外部評価や協定先からの反応等を事業改善に生かすことで、本事業の意義を再確認するとともに、相互理解と協力意識が深まった。

5 第一工業大学

実施計画②

かごしま学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの部会を随時開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討を行うとともに、地元就職促進に向けた取組を展開するためにその他の自治体や商工団体との連携を強化する。またCOC+大学及びCOC+参加校においても個別に委員会等を開催する。さらに、補助事業終了後における協力体制の維持及び事業継続のための取組を行う。

具体的な実施項目	実 績
COC+会議参加	4月23日 平成31年度第1回地域志向教育部会・地元就業部会・ポストCOC+あり方部会3部合同部会参加。 7月18日 令和元年度第2回地域志向教育部会・地元就業部会・広報部会・ポストCOC+あり方部会4部合同部会参加 9月18日 令和元年度第3回地域志向教育部会・地元就業部会・広報部会・ポストCOC+あり方部会4部合同部会参加 2月5日 令和元年度第4回地域志向教育部会・地元就業部会・広報部会・ポストCOC+あり方部会4部合同部会参加

成 果

かごしまCOC+事業最終年度を迎え、大学地域コンソーシアムへの引継ぎ等、今後に継続するための会議をおこなった。

実施計画③

COC+大学は総合教育機構と協働して学部横断型の「地域人材育成プラットフォーム」上で「かごしまキャリア教育プログラム」、「かごしま地域リサーチ・プログラム」、「かごしまグローバル教育プログラム」を実施する。地域就業力を育成する「かごしまキャリア教育プログラム」では、PDCAによる更なる改善を行いプログラム全体の改善を図るとともに、関係教員によるFD活動を随時行い授業のバージョンアップを図る。COC+参加校においても、地域志向教育やキャリア教育の整備充実及び改善を行う。さらに前年度に引き続きCOC+大学及びCOC+参加校共同の「かごしまCOC+公開講座」を開講する。

具体的な実施項目	実 績
地域の魅力発見・共有プロセスの改善と実施。連携先・対象地域の開拓	・8月4日 地域活性化演習の一環として、霧島市隼人町松永の平熊自治会が開催する平熊灯ろう祭りにおいて、自治会と本学がこれまでに取り組んできた内容をまとめたショートムービーを作成し上映した。 ・5月9日、5月29日、6月5日、6月12日 霧島市横川町山ヶ野地区にある金山遺構利活用のため、山ヶ野金山保護活用実行委員会と本学による金山遺構の調査および環境整備を実施した。 ・霧島市横川町の駅前商店街を対象地に、学生が中心となった空家活用プロジェクトが進行しており、廃病院や古民家の利活用に向けた計画立案、毎月開催されるワークショップへの学生の参加、定期的な清掃活動等を実施した。 ・11月10日 グループホームみどりの風で開催された横川レトロ祭りにおいて、横川の町並み再現プロジェクトを実施した。 ・11月10日 地域の小学生を対象に、防災や社会基盤整備を通じて地域に貢献する仕事の紹介を目的としたイベントを開催した。

成 果

・地域住民とのコミュニケーションを通じて、学生は地域に存在する具体的な課題の把握、解決策に向けた計画の立案を行い、主体的に地域に関わる機会を得ることができた。これらの活動は本事業において設置された「地域貢献演習」という科目の活用による部分が大きい。また一連の活動に参加した学生の中には、県内企業や行政機関への就職を志しており、一定の成果が得られたものと考えられる。さらに、学内は地域貢献活動を目的とする学生サークルが創設されたことも重要な成果であると考えられる。

実施計画⑤

COC+大学は、「かごしまキャリア教育プログラム」における構成授業科目の編成などの改善を行い、「キャリアデザイン」「地域キャリア・プランニング」「企業活動の基礎」「地域キャリア・インターンシップ事前演習」「地域キャリア・インターンシップ」「地域キャリア修了演習」の授業を開講するとともに、授業とは別に「かごしま課題解決型インターンシップ」を実施する。またCOC+参加校においては、事業協働機関(県・企業団体等)と連携協働して、既存のインターンシップの拡充整備の継続を図る。

具体的な実施項目	実 績
インターンシップマナー勉強会の開催	・7月11日 インターンシップマナー勉強会を開催。
インターンシップ参加者増加を目的とした県内企業勉強会の開催	・5月16日 地域企業インターンシップ(2単位)科目の一環として、「インターンシップ事前企業合同勉強会」を開催。県内26社が参加し、本学1～4年生176人が参加。
インターンシップ報告会および勉強会の開催	インターンシップ報告会を開催した。 航空工学部:1月23日 工学部 情報電子システム工学科:1月23日 機械システム工学科:1月30日 自然環境工学科:12月19日 建築デザイン学科:1月16日
農業体験インターンシップのトライアル	・5月18日、霧島市牧園町のナガミネ農園において、自然環境工学科1年生が唐辛子の苗植え作業に参加。霧島市内の種苗会社や地域住民と協同して5種類の唐辛子苗を植え付けた。 ・12月1日、JAあいら「みんなおいで祭り」に参加、六次産業化研究会が開発した商品(俺どんのラスク、原木しいたけと植物工場野菜のプレッツェル)を学生がPBLで販売体験をした。

成 果

- ・マナー勉強会では、会社訪問時の基礎的なマナーを勉強し、これからはじまるインターンシップに対するレディネスの向上に寄与した。
- ・県内企業への就職者数の増加を目的として開催した。多数の学生と企業が参加し、学生への地元企業やインターンシップ参加へのモチベーション向上に効果があったと考えられる。本年度の県内企業へのインターンシップ参加者は70人となり、昨年度の46人と比較して飛躍的に増加した。
- ・インターンシップの重要性について多くの報告者が言及しており、これからインターンシップを迎える1、2年生に対して強い動機付けをおこなうことができた。
- ・イベントに会場した多くの農業者と交流することにより、地域農業の実状および地元農業への親近感の醸成に寄与した。唐辛子の苗植え作業には、20～30代の地元事業者が参加し、より学生に近い目線での意見交換をおこなうことができた。

実施計画⑥

事業協働機関等と連携した共同の地元企業就職セミナーや地元企業見学バスツアー等の実施のほか、COC+大学及びCOC+参加校単位の地元企業就職セミナーを展開するとともに、地元企業等に就職したOB・OGによる特別講話や懇談会を実施する。また、鹿児島県の地域企業情報Webサイト「かごJob」の活用などによる学卒者の地元就職支援の取組を図るほか、地元企業等への就職増に向けて鹿児島労働局との連携を強化する。

具体的な実施項目	実 績
地元企業合同説明会の充実・発展	・12月16日、1月20日 霧島市との連携して「霧島で働く魅力発見！第一工大企業研究会」を開催、両日とも企業は各4社、学生3年生対象(173人)として12月16日は142人の参加があり、地元企業の魅力発見につながった。

成 果

- ・開催前は、学生の霧島市立地企業に対する認知度はほぼ皆無であった。しかしながら、研究会を通して、地元企業の仕事内容、待遇などを知ることとなり、地元就職を志向する学生にとって「知名度のない」企業が、就職に値しない企業というわけではない、という実感を強く植え付けることができた。

実施計画⑧

事業報告書等を作成し、外部評価等を実施する。

具体的な実施項目	実 績
県内企業向けパンフレット・大学シーズ集・セミナー等開催チラシ作成及びホームページの継続更新	・「第一工業大学の就職状況」パンフレット作成 ・「第一工業大学研究・地域連携シーズ/出前授業カタログ」作成 ・社会・地域連携センターHPの改変、充実化
六次産業化推進フォーラムの実施】	・2月23日、24日「霧島ガストロノミーコレクション」を日当山せごどん村で開催した。COC+関連プログラムとしての講演会で東川竜太郎氏(かごしま探検の会代表、NHK大河ドラマせごどんコーディネーター)を招いた。

成 果

- ・「第一工業大学の就職状況」パンフレットにおいては、同時に企業アンケートも実施し、取組そのものに対する高い評価を得た。
- ・「第一工業大学研究・地域連携シーズ/出前授業カタログ」においては、デザインと構成をリニューアルしたことによって、好評を得た。
- ・HP専従担当者を配置した結果、HPアップデートのサイクルが向上し、常に最新のトピックスを発信する体制が整った。
- ・霧島市の市民、学生に対して、地元霧島市の食を通じたコミュニティ・プライドの醸成に寄与した。また、これまで気づくことのなかった、地元の食に関するポテンシャルの高さを認知することとなり、霧島の豊かさを実感した。

6 鹿児島県立短期大学

実施計画①

本補助事業推進のための必要な人員配置(COC+推進コーディネーター等)を行う。

具体的な実施項目	実 績
学生部長の指揮監督の下に「資料整理補助員」を配置し、「産学コーディネーター」が訪問・調査したデータの取りまとめを行う	・資料整理補助員を配置し、産学コーディネーターが収集したデータ等(389件)の整理を行い、「企業・団体等訪問報告書」及び「産学コーディネーターによる県内企業の概要・訪問記録」として取りまとめた報告書や就職活動に取り組む学生のための「就活実践ノウハウ集」を作成し、学生課、進路資料室及び図書館等に配置した。

成 果

・産学コーディネーターが企業訪問により収集した企業概要や企業が求める学生像・スキルなどの生情報を報告書としてまとめ、学生課、進路資料室及び図書館等に配置し供覧したことにより、教職員及び学生など学内での情報共有が図られ、さらに、具体的なキャリアサポート及びキャリア形成など就職支援にうまくつながった。

実施計画②

かごしま学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの部会を随時開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討を行うとともに、地元就職促進に向けた取組を展開するためにその他の自治体や商工団体との連携を強化する。またCOC+大学及びCOC+参加校においても個別に委員会等を開催する。さらに、補助事業終了後における協力体制の維持及び事業継続のための取組を行う。

具体的な実施項目	実 績
産学コーディネーターが企業訪問等で収集した企業ニーズ等について分析を行い、学生委員会でキャリア教育の見直しや就職のしおりの改定など就職支援の検討を行う。	・学生委員会において、産学コーディネーターが収集した企業ニーズ等の分析と就職支援の検討を行い、来年度実施予定のキャリア教育の内容変更を検討するとともに、「就職のしおり」を改定した。 この「就職のしおり」については、会社説明会等の前に、1月29日に開催したキャリアデザイン「就職活動を始めよう」において学生に配布(二部学生は1月31日)するとともに内容を説明した。

成 果

・従来のキャリアデザインは、主として1年生に卒業年度の就職活動をイメージ化し、就職活動のためのモチベーションを高めることを目的として実施されていたが、産学コーディネーターが収集した情報等をもとに、今後、特に女子学生に多いと思われるキャリアパス(婚姻・出産・配偶者の異動による早期退職、その後の再就職)に対して、学生が将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネジメントするための支援等が追加され、内容の充実が図られた。

実施計画③

COC+大学は総合教育機構と協働して学部横断型の「地域人材育成プラットフォーム」上で「かごしまキャリア教育プログラム」、「かごしま地域リサーチ・プログラム」、「かごしまグローバル教育プログラム」を実施する。地域就業力を育成する「かごしまキャリア教育プログラム」では、PDCAによる更なる改善を行いプログラム全体の改善を図るとともに、関係教員によるFD活動を随時行い授業のバージョンアップを図る。COC+参加校においても、地域志向教育やキャリア教育の整備充実及び改善を行う。さらに前年度に引き続きCOC+大学及びCOC+参加校共同の「かごしまCOC+公開講座」を開講する。

具体的な実施項目	実 績
教務委員会で教育カリキュラムの見直し検討を行う。昨年度に引き続き、かごしまCOC+公開講座での講師派遣の依頼があれば全面的に協力する。	・産学コーディネーターが収集した企業情報等を教員に提供し、企業が求める人材育成を図るため、特に学生のインターシップへの参加を促し、就職率の向上と離職率の低減を図るための教育カリキュラムの検討を行った。また、かごしまCOC+公開講座では、3年連続して「食と健康」分科会に講師を派遣し、午後からのワークショップにも教員及び学生(ファシリテーター)が積極的に参加した。

成 果

・鹿児島銀行など17社が行うインターンシップと鹿児島県庁など本学独自で実施するインターンシップ6社の計23社で実施し、学生からは地元企業を知る機会となったことや、地元企業への興味や関心が変わったことなどの意見が多く、さらなる雇用創出と県内就職率の向上など学生の進路決定等に大きく貢献した。
・かごしまCOC+公開講座では、参加学生の「食と健康」に対する評価が「満足」と「やや満足」を合わせ8割を越え、概ね好評であったことがうかがわれ、開催趣旨に沿った成果が得られた。

実施計画⑤

COC+大学は、「かごしまキャリア教育プログラム」における構成授業科目の編成などの改善を行い、「キャリアデザイン」「地域キャリア・プランニング」「企業活動の基礎」「地域キャリア・インターンシップ事前演習」「地域キャリア・インターンシップ」「地域キャリア修了演習」の授業を開講するとともに、授業とは別に「かごしま課題解決型インターンシップ」を実施する。またCOC+参加校においては、事業協働機関（県・企業団体等）と連携協働して、既存のインターンシップの拡充整備の継続を図る。

具体的な実施項目	実 績
教務委員会でインターンシップ強化への検討を行う。	・産学コーディネーターが収集した企業情報等を教員に提供し、企業が求める人材育成を図るため、特に学生のインターンシップへの参加を促し、就職率の向上と離職率の低減を図るための教育カリキュラムの検討を行った。

成 果

・鹿児島銀行など17社が行うインターンシップと鹿児島県庁など本学独自で実施するインターンシップ6社の計23社で実施し、学生が地元企業の魅力に直接触れることができ、地元企業就職への意欲の醸成につながった。

また、学生の就職先選択の際のミスマッチや離職率の低減、地元就職率と定着率の向上が期待される。

実施計画⑥

事業協働機関等と連携した共同の地元企業就職セミナーや地元企業見学バスツアー等の実施のほか、COC+大学及びCOC+参加校単位の地元企業就職セミナーを展開するとともに、地元企業等に就職したOB・OGによる特別講話や懇談会を実施する。また、鹿児島県の地域企業情報Webサイト「かごJob」の活用などによる学卒者の地元就職支援の取組を図るほか、地元企業等への就職増に向けて鹿児島労働局との連携を強化する。

具体的な実施項目	実 績
本学と県内関係機関で地域の産業特性と将来的な展望、労働力確保、県内就職等について意見交換等を行うとともに、地元企業見学バスツアーでは企画立案・実施はもちろんのこと学生への周知についても協力校としての役割を果たす。	・9月24日に地元企業6社（うち1社は支店）の採用担当者と本学教員及び学生課職員間で企業懇話会を開催し、①採用の決め手となる要素、②就職活動中の学生へのアドバイス、③本学就職指導についての意見・提案等について意見交換を行った。 また、3月9日には県内の24企業の人事担当者を本学に招き、学内企業ガイダンスを実施し、約200人の学生が参加した。 一方、COC+地元企業見学バスツアーについては、鹿児島Bコースの協力校として担当校（鹿児島女子短期大学）と連携・実施したほか、バスツアー全体については学内での積極的な周知に努め、多くの学生が複数のコースに参加した。

成 果

・県内企業と地域の産業特性や将来的な展望のほか、各企業の福利厚生等について意見交換を行い、企業種によってそれぞれ特徴があることなど地元就職支援に関する情報交換と情報の共有化を図ることができ、新たな雇用創出の可能性を探ることができた。

また、企業の求める人材等を把握することにより、学生の就職活動支援・指導に役立てることができた。

実施計画⑦

COC+大学及びCOC+参加校においては、かごしまCOC+総括シンポジウム、各種セミナー等の開催を行うとともに、共同して「かごしまCOC+通信」及びホームページによる情報発信等を随時行う。その他事業協働機関においても構成企業・団体等へのかごしまCOC+事業に係る情報を積極的に発信する。

具体的な実施項目	実 績
企業向けリーフレットの作成・配布を行う。また、「食と観光」に関連するシンポジウムやセミナー等を開催する	・地元企業向けリーフレットを作成（500部）し、配布した。 また、1月7日に「持続可能な観光と災害から観光客を守る」と題した特別講演を本学の視聴覚室で開催し、約70人の教員及び学生が参加した。

成 果

・地元企業向けリーフレットを作成・配布し、本学学生の人物像・スキル等を地元企業に紹介・周知することにより、学生の県内就職率の向上と定着を図ることができた。

・特別講演を実施することによりかごしまCOC+事業の主たる目的であると同時に、本県の主要な産業である「食と観光」の一部である「観光」を学生に意識づけることができた。

実施計画⑨

COC+推進コーディネーターを中心に、事業協働機関及びそれ以外の自治体・商工団体等と連携協働して、共同研究等の推進を図るほか、新規事業創出による雇用創出及び既存産業の雇用拡大に向けた取組を検討する。また鹿児島国際大学は、事業協働機関等と連携して寄附講座の開設を図る。

具体的な実施項目	実 績
産学コーディネーターが企業訪問等で収集した、産業界が求める人物像、キャリア・スキル、就職先の新規開拓などをもとに、学生の就職支援と卒業生の定着支援などを行う。	・産学コーディネーターが収集したデータ等(389件)の整理を行い、「企業・団体等訪問報告書」及び「産学コーディネーターによる県内企業の概要・訪問記録」として取りまとめた報告書や、就職活動に取り組む学生のための「就活実践ノウハウ集」を作成し、学生課、進路資料室及び図書館等に配置した。 また、学生委員会において、産学コーディネーターが収集した企業ニーズ等の分析と就職支援の検討を行い、来年度実施予定のキャリア教育の内容変更を検討するとともに、「就職のしおり」を改定した。

成 果

・産学コーディネーターが企業訪問により就職した卒業生の就職状況を具体的に把握することにより、教育カリキュラム編成の検討に活用するとともに、企業と学生のミスマッチの解消、新規就職企業の開拓など今後の具体的な就職支援につなげることができた。

7 鹿児島女子短期大学

実施計画①

本補助事業推進のための必要な人員配置(COC+推進コーディネーター等)を行う。

具体的な実施項目	実 績
COC+事業を推進する地域連携センターにCOC+コーディネーター及び事務補佐員を継続雇用する。	・COC+コーディネーター1人を委嘱した。 ・事務補佐員1人を雇用した。

成 果

COC+事業を推進する「地域連携センター」を充実・活性化しCOC+参加校及び協働機関との連携強化を図るとともに、都度発生する事務処理の迅速化・効率化を図った。

実施計画②

かごしま学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの部会を随時開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討を行うとともに、地元就職促進に向けた取組を展開するためにその他の自治体や商工団体との連携を強化する。またCOC+大学及びCOC+参加校においても個別に委員会等を開催する。さらに、補助事業終了後における協力体制の維持及び事業継続のための取組を行う。

具体的な実施項目	実 績
すこやかLife支援プロジェクト委員会及び地域連携協議会を開催し、事業を令和元年度総括し令和2年度事業計画を策定する。	3月16日「すこやかLife支援プロジェクト委員会」(地域連携協議会を含む)を開催した。委員は、鹿児島県(農政部農政課)、鹿児島市(政策企画課)、奄美市(企画調整課)、指宿市(総務部市長公室)、鹿児島県農業協同中央会(くらしの活動推進課)、南日本新聞社(編集局)、公益法人鹿児島観光コンベンション協会、鹿児島女子短期大学(同窓会)の8団体等に依頼した。 本学からは、学長以下各学科長・学長補佐・COC委員会の委員・COC+コーディネーター・担当事務職員・学生のボランティアグループである絆工房「シオンちゃん」の代表が出席した。

成 果

- ・すこやかLife支援プロジェクト委員会(含む地域連携協議会)を開催することにより、地域ニーズを反映した事業計画の策定の強化が図られた。
- ・補助期間終了後の実施体制については、地域連携センター(COC委員会)と研究ブランディング部会を再編により新設された「地域連携班」が「大学地域コンソーシアム鹿児島」の対応部署となった。

実施計画③

COC+大学は総合教育機構と協働して学部横断型の「地域人材育成プラットフォーム」上で「かごしまキャリア教育プログラム」、「かごしま地域リサーチ・プログラム」、「かごしまグローバル教育プログラム」を実施する。地域就業力を育成する「かごしまキャリア教育プログラム」では、PDCAによる更なる改善を行いプログラム全体の改善を図るとともに、関係教員によるFD活動を随時行い授業のバージョンアップを図る。COC+参加校においても、地域志向教育やキャリア教育の整備充実及び改善を行う。さらに前年度に引き続きCOC+大学及びCOC+参加校共同の「かごしまCOC+公開講座」を開講する。

具体的な実施項目	実 績
COC科目の中核である「WE LOVE鹿児島！」科目を中心に、地元への関心を高め地域定着につながる地域貢献型ボランティア活動も含めた地域志向教育を推進する。	地域活性化の担い手育成を目的とした「WE LOVE 鹿児島」の理念を生かしたCOC科目や地域連携型教育の更なる充実に努めた。中でも、教養学科の1年生後期科目「観光フィールドワーク」は、鹿児島市内を実際に観光することを通して、経験的に地域について考察することを目的としている。本年度は鹿児島市産業支援課の協力のもと「中心市街地の観光」についてグループワークを中心に考察したのち、実際に天文館周辺と名山町周辺のまち歩きを行った。また、11月16日には、1日を通して鹿児島市の観光スポットを巡り、周遊性などの課題について経験的に学んだ。
各学科・専攻による「すこやか教育」を踏まえた「COC+教育プログラム認定証」を実施する。	各学科・専攻による「すこやか教育」を踏まえた「COC+教育プログラム認定証」として平成29年度以降の学生から発行している。 各学科別の認定証の認定基準 ①学科専攻ごとに定めた一般教養科目(「WE LOVE 鹿児島!」「キャリアガイダンス」等)の単位修得:学科ごとに1～3ポイント ②学科専攻で定めたCOC科目の単位修得及び研修会等の参加:学科専攻ごとに3～5ポイント ③自己啓発や地域貢献につながるボランティア活動:4ポイント以上 第2回「COC+教育プログラム認定証」は約140人の卒業生に授与される見込み。

「かごしまCOC+公開講座
2019」への参加

8月10日 かごしまCOC+公開講座「食と観光で鹿児島の魅力アップを考える」
「観光まちづくり」分科会 参加学生(本学)5人・「食と健康」分科会 参加
学生(本学)8人・本学COC委員等6人参加

成 果

・鹿児島市産業支援課の協力のもと、「中心市街地の観光」について「SNS映えのする観光資源の発掘」という視点から鹿児島市の観光を捉えなおすことができた。また実際のフィールドワークでは、学生たちは上記の視点から鹿児島市を観光することで、地域の観光資源を見直し、SNSでどのように発信するかについて考察することができた。

以上のような授業を通し、学生の地域志向を高めることにより、地元企業への就職意欲向上につながる。

・地域活性化の担い手として、地域に貢献する人材になりうる意欲、知力、経験及び実践力を有していると学長が認証する制度である。これは、在学中の地域貢献活動実績など社会性につながる取組の成果の客観的資料となり、就職活動など進路決定等に役立つ。学生にとっても地域貢献を行った成果として記録に残り、今後の地域貢献活動の糧となる。

・「かごしまCOC+公開講座」へは、学生自身が積極的に参加する意思をみせた。特に、「観光まちづくり」分科会には、観光研究サークルの学生が多く参加し、食物栄養学専攻の学生でスポーツ栄養に関心のある学生が「食と観光」分科会に多数参加したことは評価できる。また、ワークショップでは、学校を超え、協働して課題解決を図るという貴重な体験ができた。

実施計画④

COC+大学は「かごしまキャリア教育プログラム」の修了証明書の発行を行う。COC+参加校の鹿児島女子短期大学においては、COC+教育プログラム認定証の発行を継続して行う。鹿児島国際大学においては、教育プログラム修了証の発行を行う。関係各校は協働して事業協働機関(県・企業団体等)及び地元企業・自治体と連携し、修了証明書等の地元企業への認知度向上と就職活動におけるインセンティブ付与への配慮依頼を行う。

具体的な実施項目	実 績
「COC+教育プログラム認定証」の制度を周知し、付与者の増加を図る。	「COC+教育プログラム認定証」については、入学時のオリエンテーションで周知を図った。また、機会を捉え、ボランティアの募集時には、募集のチラシの掲示だけでなく、担任等から学生に応募を働きかけボランティア活動の推進を図った。さらに、多くの学生が申請するように、学科ごとに全学生に対し説明の場を設け、申請を促した。
「COC+教育プログラム認定証」の制度を企業側に周知するために「かごしまCOC+通信」6月号に掲載する。	鹿児島県経済同友会が「かごしまCOC+通信」を毎月、独自にカラー印刷をし、全会員(約350人)に会員便で届けているという情報を得て、本学の担当月の第17号令和元年6月号に「第1回「COC+教育プログラム認定証」144人の卒業生に授与」との見出しで広報した。

成 果

・学生に「COC+教育プログラム認定証」を付与することにより、就職活動の際のインセンティブにつながった。

・本学のCOC事業の内容や学生を含めての取組に対して、地元企業等での理解促進と周知が図ることができた。

実施計画⑤

COC+大学は、「かごしまキャリア教育プログラム」における構成授業科目の編成などの改善を行い、「キャリアデザイン」「地域キャリア・プランニング」「企業活動の基礎」「地域キャリア・インターンシップ事前演習」「地域キャリア・インターンシップ」「地域キャリア修了演習」の授業を開講するとともに、授業とは別に「かごしま課題解決型インターンシップ」を実施する。またCOC+参加校においては、事業協働機関(県・企業団体等)と連携協働して、既存のインターンシップの拡充整備の継続を図る。

具体的な実施項目	実 績
インターンシップ受入企業開拓と同時に、「インターンシップ」科目履修を促進し、受講学生の増加につなげる。	・一般教養科目(1年前期)「インターンシップ」では、夏期休暇期間中に県内事業所20社に51人(教養学科)参加し、インターンシップ体験発表会を10月23、25、30日に実施した。 ・教養学科専門科目「企業実務演習」におけるインターンシップの実施は令和2年の2月～3月の春期休暇期間中に5人(県内事業所希望)、4人(県外事業所希望)の9人が参加予定である。 ・鹿児島市政策企画課主催の「まちづくり“未来の担い手”育成事業インターンシップ」に1年生1人が参加した。

成 果

・学生が自らの目指す職業に関する興味、関心、適正を見極める機会となった。目指す職業が分からない学生にとっても社会人と学生の違いを実感し、自らの将来に対して真剣に考えるきっかけとなった。

・まちづくりインターンシップに関しては、他大学の学生や有識者との会議を通して多くの気づきを得ることができた。

実施計画⑥

事業協働機関等と連携した共同の地元企業就職セミナーや地元企業見学バスツアー等の実施のほか、COC+大学及びCOC+参加校単位の地元企業就職セミナーを展開するとともに、地元企業等に就職したOB・OGによる特別講話や懇談会を実施する。また、鹿児島県の地域企業情報Webサイト「かごJob」の活用などによる卒卒者の地元就職支援の取組を図るほか、地元企業等への就職増に向けて鹿児島労働局との連携を強化する。

具体的な実施項目	実 績
学生に「進路支援ガイド」を印刷・配布する。また学内事業所ガイダンスを実施する。	・かごしまCOC+事業の「地元企業よかとこ発見バスツアー」について、鹿児島Bコースの担当校として企業選定等の企画や当日の運営を行った。また、他のコースも含めて本学からは学生11人が参加した。 ・鹿児島市産業局主催のコールセンター見学は1月30日、2月5日に実施され本学からも参加した。 ・就職対策講座を今年度から通年開催とし、開催時期によって内容を変えるなど中身を充実して、模擬試験受験も推奨した。 ・「進路支援ガイド」については、更に学生が活用しやすい内容になるよう中身の検討に時間をかけ作成し、1月のキャリア支援ガイダンスで配布して活用方法について説明を行った。 ・「学内事業所ガイダンス」は2月3日・4日に各学科専攻ごとに実施し、学生等約320人が参加した。

成 果

- ・「進路支援ガイド」は就職活動や進学のための手続きマニュアルとして学生が各手続を正確・迅速に行えるように分かりやすく示したガイドで、学生の活用状況を考慮して内容を見直し、1月のキャリア支援ガイダンスから使用し、好評だった。
- ・事業所ガイダンスは、多様な人材に対するニーズや各業界で求める人材について確認することができ、学生には、就業力の育成とともに、地域企業への就職活動の動機づけとなった。
- ・就職活動情報公開を3月に控えた両取組は、学生には就職活動に対する心構えができ、各学科とも学生への支援体制を整えることができた。

実施計画⑦

COC+大学及びCOC+参加校においては、かごしまCOC+総括シンポジウム、各種セミナー等の開催を行うとともに、共同して「かごしまCOC+通信」及びホームページによる情報発信等を随時行う。その他事業協働機関においても構成企業・団体等へのかごしまCOC+事業に係る情報を積極的に発信する。

具体的な実施項目	実 績
学生や市民に対し、COC+活動への継続的な情報発信を行う。	・学内掲示板(学生ホール・事務局・地域連携センター前)に「かごしまCOC+通信」を毎号を拡大等して掲示し、学生及び教職員へのCOC+への理解を深めさせた。 - また、オープンキャンパスではCOC活動のブースに「かごしまCOC+通信」の拡大版を展示し、高校生やその保護者に説明を加え情報発信をした。 ・鹿児島市内のある職能団体の管理者研修会において、COC+で平成30年にまとめた「学生の就職先選定の条件」を示し、現在の学生が就職活動時に重視するポイントを話した。
すこやかLife支援プロジェクトに関する広報活動(ホームページ、デジタルサイネージ等による情報発信)	本学は、「すこやかLife支援プロジェクトin鹿児島」という活動に平成26年度から取り組んでおり、このプロジェクトは地域連携センター(COC委員会)が担当し、COC+事業や、研究ブランディング事業をも包含している。 ホームページ内には、「地域連携センター」、「社会貢献活動」、「食育ステーション」のバナーが掲げられており、特に食育ステーションにおいて、更新が頻繁に行われている。 また、本学には、デジタルサイネージが、9箇所(学生ホール・エントランス・100周年記念ホール入り口等)に設置され、食育ステーションの「ニュース」(おしらせ、イベント案内、活動報告)、「食アンバサダー活動報告」等が放映されている。デジタルサイネージでの放映には、担当者(COC委員)がおり、漏れることなく放映されている。また、イベント開催の折には新聞社、テレビ局などにも広報し、取材のあった新聞・テレビでも同時に放映等されている。

成 果

- 同通信は、学外関係者へ本学の地域連携の状況を説明する際、COCの活動を紹介するには分かりやすく、有用な資料であり、各イベントで利活用している。
- ・かごしまCOC+通信のアンケートの記事(第9号)の資料を用いることによって、学生が就職活動時に重視するポイントを知っていただき学生理解を深めてもらうことにつながった。
- ・本学のCOC活動をホームページやデジタルサイネージ等で学生や市民に広く周知することにより、地域への密着度を高め、学生の就業機会の拡大を図る。

実施計画⑧

事業報告書等を作成し、外部評価等を実施する。

具体的な実施項目	実 績
令和元年度COC活動 (COC+活動を含む)について外部評価を受審する。	・2月21日「COC活動外部評価委員会」を開催した。委員は「税理士法人」、「南日本新聞社」、「栄養士会」、「鹿児島市社会事業協会」、「鹿児島市社会福祉協議会」、「鹿児島商工会議所」の6団体等に依頼した。 ・本学からは、学長以下各学科長・学長補佐・COC委員会の委員・COC+コーディネーター・担当事務職員が出席し、第三者の立場から本学の地域連携(COC活動)の評価を頂いた。 ・「COC活動外部評価委員会」の結果報告書は、本学ホームページで公開している。

成 果

- ・外部評価では、自治体や企業などと連携を図りながら食文化の継承と発展に取り組んでいる本学の活動が高く評価された。
- ・外部評価を受審することにより、本事業のPDCAを確立し、より効果的な事業運営につながる。

実施計画⑨

COC+推進コーディネーターを中心に、事業協働機関及びそれ以外の自治体・商工団体等と連携協働して、共同研究等の推進を図るほか、新規事業創出による雇用創出及び既存産業の雇用拡大に向けた取組を検討する。また鹿児島国際大学は、事業協働機関等と連携して寄附講座の開設を図る。

具体的な実施項目	実 績
食物栄養学専攻「鹿女短スマイル食育プロジェクト」における企業との連携による食品開発・販売等を実施する。	・未来への贈り物☆プロジェクト ～持続可能な社会を目指して「もったいない」を見直そう～ (伝統作物の植え付けから収穫、未利用資源(桜島大根等)を用いた料理のレシピ開発) 連携先: 日本食品(株): 鹿児島サンロイヤルホテル: ビッグファイブ(株)、有村屋(株)、鹿児島機能性食品研究会 10月6日: ウェルネス鹿児島博覧会(鹿児島県主催)へ出展…機能性食品(桜島大根の葉を使ったクッキー)の試食提供及び桜島大根レシピ冊子の配付 ・畑作物栽培・加工プロジェクト～かごしま丸ごと食育～ (川辺地域での畑作物栽培・加工・商品開発) 連携先: 農事組合法人、土里夢たかた、畑の郷水土利館等) 5月25日: アヤコマチ(さつまいも)苗植え 10月5日: 芋堀及び交流会(学生による料理のプレゼンテーション) 1月8日: アヤコマチペーストの試作(土里夢たかた加工室) ・Healthy & Smile プロジェクト～笑顔をみんなに～ (地域食品による商品開発とレシピ 提案、生活習慣病予防や食育の提案と実践) 連携先: 鹿児島協同食品(株) 12月～1月: 商品開発発表会に向けた検討会と試作 1月18日: 商品開発発表会(本学) 2月～3月: 開発商品の販売、店舗での商品紹介活動、鹿児島協同食品(株)の工場見学 ・「西郷さんと大豆の豆助」プロジェクト ～平成30年度に作成した食育絵本を活用した食育教室～ 連携先: NPO法人霧島食育研究会、燦燦舎絵本作家さめしまことえ氏 11月24日: 「霧島・食の文化祭」で大型食育紙芝居の発表 12月1日: 鹿児島市主催「第5回かごしま食育フェスタ」に参加(「大豆の豆助と学ぶ「味噌でスマイル」(オリジナル味噌玉づくりワークショップ)」を実施、幼児から高齢者まで約150人来場)

成 果

これらのプロジェクトは、10月20日の「紫苑祭」で今まで取り組んできた食材を用い料理を作り、市民に提供した。
また、これらのプロジェクトは、4～6年間の継続により地域や地元企業との密接な関わりの中で活動が展開された。
毎年、学生の新たな発想が生まれ内容も充実している。学生は、社会に出て本活動を通して学んだことを生かし、地元等で活躍することが期待されている。更に、本活動を通して地元企業への就職にもつながっており、本学及び連携先ともに有意義な活動となった。

8 鹿児島工業高等専門学校

実施計画①

本補助事業推進のための必要な人員配置(COC+推進コーディネーター等)を行う。

具体的な実施項目	実 績
本事業に係る事務処理を担当する事務補佐員を引き続き配置する。	・本事業を専任で担当する事務補佐員1人を4月から9月までの半年間配置し、当該事業に係る日程調整・資料作成・事業実施・実施報告・情報発信等全般の業務を担当した。

成 果

・本事業専任の事務補佐員を引き続き配置することで、事業実施に係る関係各所との連絡調整、資料等作成、事業の実施・報告、情報発信等をより円滑に進めることができた。

実施計画②

かごしま学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの部会を随時開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討を行うとともに、地元就職促進に向けた取組を展開するためにその他の自治体や商工団体との連携を強化する。またCOC+大学及びCOC+参加校においても個別に委員会等を開催する。さらに、補助事業終了後における協力体制の維持及び事業継続のための取組を行う。

具体的な実施項目	実 績
「COC+高専」地方創生推進会議を開催し、自治体・商工団体等との連携を図る。	・「COC+高専」地方創生推進会議を次のとおり開催した。 第1回:5月23日 1. 「COC+高専」令和元年度事業計画(案)について 2. 次年度以降の事業継承に向けた取組方針について 第2回:12月11日 1. 令和2年度「COC+高専」事業の進め方について 2. 進路決定に関するアンケート項目(案)について 第3回:3月下旬開催 1. 令和元年度「COC+高専」事業自己評価について 2. 「COC+高専」事業(H27～R1)自己評価について 3. 令和2年度「COC+高専」事業計画(案)について ・6月20日 「日置市異業種交流会総会及び企業訪問」に本校教員1人が参加し、日置市の企業と情報交換した。 ・6月26日 日置市主催の「企業の魅力説明会」(日置市内企業が高校等の就職指導担当教員等に地元企業をPRする取組)に本校教員2人が参加し、企業人事担当者と面談のうえ、本校への求人等を要請した。 ・1月22日に開催した「KTC・霧島市合同企業研究会」について、8月1日、9月12日、11月15日、1月8日に霧島市及び本校教職員が打合せを行った。

成 果

「COC+高専」地方創生推進会議を開催し、産官学(企業・商工団体、自治体、高専)が連携し、それぞれの立場から本事業について協議を行うことで、本事業の目的を達成するための取組を効率的・効果的に実施することができた。

実施計画③

COC+大学は総合教育機構と協働して学部横断型の「地域人材育成プラットフォーム」上で「かごしまキャリア教育プログラム」、「かごしま地域リサーチ・プログラム」、「かごしまグローバル教育プログラム」を実施する。地域就業力を育成する「かごしまキャリア教育プログラム」では、PDCAによる更なる改善を行いプログラム全体の改善を図るとともに、関係教員によるFD活動を随時行い授業のバージョンアップを図る。COC+参加校においても、地域志向教育やキャリア教育の整備充実及び改善を行う。さらに前年度に引き続きCOC+大学及びCOC+参加校共同の「かごしまCOC+公開講座」を開講する。

具体的な実施項目	実 績
地域企業への理解を深めるための特別講義・講演を実施する。	・地域企業への理解を深めるための特別講義等を次のとおり実施した。 ○地域企業特別講義(前期) 6月19日 (株)ソフト流通センター(情報工学科4年生) 7月 8日 (株)ユピテル鹿児島(電子制御工学科4年生) 7月 9日 鎌田建設(株)(都市環境デザイン工学科4年生) 7月17日 トヨタ車体研究所(株)(機械工学科4年生) 8月 5日 飛鳥電気(株)(電気電子工学科4年・電子制御工学科4年生) ○地域企業特別講義(後期) 11月12日 ソフトマックス(株)(情報工学科1年) 12月 4日 国分電機(株)(機械工学科1年) 12月 4日 (株)明興テクノス(電気電子工学科1年) 12月11日 大福コンサルタント(株)(都市環境デザイン工学科1年) 12月20日 (株)A・R・P鹿児島事業所(電子制御工学科1年) ○地方創生特別講義 11月20日 日置市(電子制御工学科2年、情報工学科2年) 12月 4日 霧島市(機械工学科2年、電気電子工学科2年、都市環境デザイン工学科2年)

成 果

・地域や地域企業への理解を深めるための特別講義・講演を行うことで、地域を志向する学生を育成し、地元就職率及び地元定着率の向上に繋げることが期待される。

実施計画⑤

COC+大学は、「かごしまキャリア教育プログラム」における構成授業科目の編成などの改善を行い、「キャリアデザイン」「地域キャリア・プランニング」「企業活動の基礎」「地域キャリア・インターンシップ事前演習」「地域キャリア・インターンシップ」「地域キャリア修了演習」の授業を開講するとともに、授業とは別に「かごしま課題解決型インターンシップ」を実施する。またCOC+参加校においては、事業協働機関(県・企業団体等)と連携協働して、既存のインターンシップの拡充整備の継続を図る。

具体的な実施項目	実 績
事業協働機関等と連携協働したインターンシップの拡充整備を図る。	・県内のインターンシップ受入企業開拓の為、5月27日に県内企業138社へ依頼文書を発送し、このうち75社(内KTC会員企業37社)から受入可能な回答を得た。6月以降4年生を対象にインターンシップ受講指導及び希望企業とのマッチングを実施し、27人の学生が県内企業でのインターンシップを体験した。

成 果

・地域企業でのインターンシップを通じて、地域企業や地域企業で働くことを学生に体験させることで、地域企業に対する理解を深めるとともに、地元就職率及び定着率の向上に繋げることが期待される。

実施計画⑥

事業協働機関等と連携した共同の地元企業就職セミナーや地元企業見学バスツアー等の実施のほか、COC+大学及びCOC+参加校単位の地元企業就職セミナーを展開するとともに、地元企業等に就職したOB・OGによる特別講話や懇談会を実施する。また、鹿児島県の地域企業情報Webサイト「かごJob」の活用などによる学卒者の地元就職支援の取組を図るほか、地元企業等への就職増に向けて鹿児島労働局との連携を強化する。

具体的な実施項目	実 績
本校学生及び保護者が地域企業への理解を深めるための地域企業研究会や企業(工場)見学を実施する。	・5月25日 鹿児島高専テクノクラブ(KTC)会員企業31社が参加して、保護者向け校内合同企業セミナーを実施し、保護者126人及び学生16人の参加があった。 ・1月22日 「KTC・霧島市合同企業研究会」を開催した。KTC会員企業48社及び霧島市誘致企業等10社の参加があり、本校学生187人と学外から33人(学生26人、保護者等7人)が参加した。 ・9月4日 「地元企業よかとこ発見バスツアー」の始良・伊佐コースを担当し、3つの企業見学を企画し24人(内引率4人)の参加があった。 ・地域企業見学を次のとおり実施した。 11月 6日 東フロコーポレーション(株)(機械工学科3年) 11月 6日 昭光エレクトロニクス(株)(電気電子工学科3年) 11月 6日 (株)ユビテル鹿児島(情報工学科3年) 11月15日 ヤマグチ(株)(都市環境デザイン工学科3年) 12月 5日 (株)九州タブチ(電子制御工学科3年)

成 果

・地域企業研究会や企業(工場)見学へ参加し、地域で活躍する企業(企業技術者)等や具体的な事業内容等を理解することにより、地元就職率及び定着率の向上に繋げることが期待される。

実施計画⑦

COC+大学及びCOC+参加校においては、かごしまCOC+総括シンポジウム、各種セミナー等の開催を行うとともに、共同して「かごしまCOC+通信」及びホームページによる情報発信等を随時行う。その他事業協働機関においても構成企業・団体等へのかごしまCOC+事業に係る情報を積極的に発信する。

具体的な実施項目	実 績
本事業の成果報告書の作成及びホームページを随時更新する。	・本事業に係る全体的な取組や、事業ごとの開催案内・実施報告等を本校ホームページ上に掲載し、かごしまCOC+事業の本校の取組状況を広く学校内外に情報発信している。

成 果

・ホームページで本事業の取組を広く発信することで、本事業のPRや地域社会からの理解を得ることができた。

実施計画⑧

事業報告書等を作成し、外部評価等を実施する。

具体的な実施項目	実 績
事業評価会議を開催し、事業の取組に対する検証を行う。	・当該年度及び補助事業期間全体に係る事業報告書を作成する。また、それぞれの事業報告書に基づき自己評価を実施のうえ3月下旬に事業評価会議を開催した。

成 果

・事業評価会議において事業全体の達成状況等を確認し、効果・課題・改善策等についての評価結果を事業終了後の取組に反映させることができた。

実施計画⑨

COC+推進コーディネーターを中心に、事業協働機関及びそれ以外の自治体・商工団体等と連携協働して、共同研究等の推進を図るほか、新規事業創出による雇用創出及び既存産業の雇用拡大に向けた取組を検討する。また鹿児島国際大学は、事業協働機関等と連携して寄附講座の開設を図る。

具体的な実施項目	実 績
本校の産学官連携組織である「鹿児島高専テクノクラブ」会員企業等と連携し、技術交流や共同研究の推進等を通じて地域の活性化や新卒者の地元定着を図る。	・5月25日 保護者向け校内合同企業セミナーを開催し、会員企業31社、保護者126人・学生16人が参加した。 ・6月 7日 鹿児島高専テクノクラブ総会、第1回役員会・技術研修会を開催した。企業技術者等67人の参加があった。 ・9月 6日 鹿児島高専テクノクラブ第2回役員会・技術研修会を開催した。企業技術者等65人の参加があった。 ・3月13日 鹿児島高専テクノクラブ第3回役員会・技術研修会を開催した。 ・現在、鹿児島高専テクノクラブ会員企業と2件の共同研究を行っており、新たに2件の共同研究を計画中である。 ・令和2年1月末の会員企業数等は一般会員94社、特別会員16団体であり、本校が鹿児島高専テクノクラブの事務局を担当している。

成 果

・本校の産学官連携組織である「鹿児島高専テクノクラブ」会員企業等と連携し、学生を交えた技術交流や共同研究を推進することで、地域志向を持つ学生の人材育成や実践的教育・研究を実施し、新卒者の地元就職率及び地元定着率の向上を図り、地域の活性化に繋げる取組に対する意識が向上した。

V 就業支援：地元企業と学生のマッチング

(令和元年度)

1 合同企業説明会・研究会等

実施主体	日 付	項 目	実 績
鹿屋体育大学	4 月 8 日 ~ 25 日	合同企業等説明会	企業等72社(県内企業等16社) 学生参加数(全体50人、県内企業等11人)
志學館大学	4 月 24 日	合同企業説明会	企業69社、学生129人参加
第一工業大学	5 月 16 日	インターンシップ事前企業合同勉強会	県内企業26社、 学生等210人参加
鹿児島工業 高等専門学校	5 月 25 日	保護者向け合同企業セミナー	鹿児島高専テクノクラブ会員企業22社、 保護者126人、学生16人参加
鹿児島大学	6 月 5 日	学内合同企業説明会	県内企業20社、学生等15人参加
鹿児島工業 高等専門学校	6 月 7 日	第1回鹿児島高専テクノクラブ役員 会・総会	第1回鹿児島高専テクノクラブ役員会・ 総会 特別講演講師:鹿児島工業高等専門学 校 校長 氷室 昭三 参加者:67人
鹿児島大学	6 月 12 日	インターンシップ合同企業説明会	企業42社(うち県内企業29社)、学生の べ280人参加
鹿児島国際大学	6 月 17 日	「信用保証協会の中小企業支援につ いて」(出張講義)	鹿児島県信用保証協会と連携 学生180人参加
鹿児島工業 高等専門学校	6 月 19 日	地域企業特別講義	(株)ソフト流通センター 情報工学科4年生 36人
鹿児島工業 高等専門学校	7 月 8 日	地域企業特別講義	(株)ユピテル鹿児島 電子制御工学科4年生 41人
鹿児島工業 高等専門学校	7 月 9 日	地域企業特別講義	鎌田建設(株) 都市環境デザイン工学科4年生 34人
鹿児島国際大学	7 月 11 日	外国人留学生就業力育成研修	外国人留学生を対象に実施 留学生11人参加
第一工業大学	7 月 11 日	マナー講座	全学科3年生(150人)
鹿児島国際大学	8 月 20 日 ~ 22 日	エアラインセミナー	(株)ANA総合研究所と連携 学生14人参加
鹿児島工業 高等専門学校	9 月 6 日	第2回鹿児島高専テクノクラブ役員 会・技術研修会	特別講演講師:アールズ社会保険労務 士事務所 所長 鹿児島県社会保険労 務士会理事 原田 雄一朗 氏 参加者:65人
鹿児島国際大学	9 月 12 日 ~ 13 日	地域商工団体連携就業力育成研修	鹿児島総合卸商業団地協同組合(オロ シティー)加盟6社にて研修を実施 学生19人参加
志學館大学	9 月 17 日	鹿児島県中小企業家同友会と志學館 大学の意見交換会	鹿児島県中小企業家同友会と共同実 施。経営者9人、教職員7人参加
鹿児島県立 短期大学	9 月 24 日	企業懇談会(意見交換会)	県内企業5社参加、教職員13人
鹿児島国際大学	9 月 26 日	大学主催合同企業説明会	企業27社、学生45人参加
志學館大学	9 月 26 日	鹿児島市と志學館大学の教育課程編 成に関する意見交換会	鹿児島市政策企画課と共同実施 自治体3人、教職員3人参加
志學館大学	10 月 30 日	経営者と語る会	経営者6人、学生22人参加

実施主体	日 付	項 目	実 績
鹿児島工業 高等専門学校	11 月 6 日	地域企業見学	東フロコーポレーション(株) 機械工学科3年生 44人
鹿児島工業 高等専門学校	11 月 6 日	地域企業見学	昭光エレクトロニクス(株) 電気電子工学科3年生 40人
鹿児島工業 高等専門学校	11 月 6 日	地域企業見学	(株)ユピテル鹿児島 情報工学科3年生 36人
鹿児島大学	11 月 6 日	県内企業人との意見交換会	県内企業6社、学生26人参加
鹿児島工業 高等専門学校	11 月 12 日	地域企業特別講義	ソフトマックス(株) 情報工学科1年生 42人
鹿屋体育大学	11 月 13 日	インターンシップ事前勉強会	本学4年生3人、学生(1年生)159人参加
鹿児島工業 高等専門学校	11 月 15 日	地域企業見学	ヤマグチ(株) 都市環境デザイン工学科3年生 44人
鹿児島工業 高等専門学校	11 月 20 日	地方創生特別講義	日置市役所 電子制御工学科2年生 40人 情報工学科2年生 40人
鹿児島工業 高等専門学校	12 月 4 日	地域企業特別講義	国分電機(株) 機械工学科1年生 42人
鹿児島工業 高等専門学校	12 月 4 日	地域企業特別講義	(株)明興テクノス 電気電子工学科1年生 42人
鹿児島工業 高等専門学校	12 月 4 日	地方創生特別講義	霧島市役所 機械工学科2年生 44人 電気電子工学科2年生 43人 都市環境デザイン工学科2年生 39人
鹿児島工業 高等専門学校	12 月 5 日	地域企業見学	(株)九州タブチ 電子制御工学科3年生 43人
鹿児島工業 高等専門学校	12 月 11 日	地域企業特別講義	大福コンサルタント(株) 都市環境デザイン工学科1年生 42人
鹿児島国際大学	12 月 14 日	伝統工芸品産地研修会	鹿児島県特産品協会主催 対象企業2社、学生17人参加
鹿児島県	12 月 15 日	県内進学・就職応援フェア	COC+と共催 県内企業36社、学校38校、団体14 学生等564人参加
第一工業大学	12 月 16 日	事例から学ぶ技術者倫理 (外部講師による倫理勉強会)	霧島市商工観光部商工振興課企業振 興室と共催 県内企業4社、学生等146人
鹿児島女子 短期大学	12 月 17 日	キャリアデザイン (面接練習)	鹿児島商工会議所 8人 学生67人参加
鹿児島国際大学	12 月 18 日	信用金庫業界研究セミナー	南九州信用金庫協会との連携による出 張講義。学生100人受講
鹿児島工業 高等専門学校	12 月 20 日	地域企業特別講義	(株)A・R・P鹿児島事業所 電子制御工学科1年生 36人
鹿児島県 商工会議所連合会	12 月 21 日	外国人材の鹿児島就職をめざす企業 と留学生の交流会inかごしま	県内企業30社、 留学生等10人
鹿児島女子 短期大学	12 月 24 日	キャリアデザイン	鹿児島商工会議所青年部課長による 講話 学生67人参加

実施主体	日 付	項 目	実 績
鹿児島国際大学	1 月 15 日	就活スーツ着こなし・メイクアップ講座	外部の専門講師による講座 学生67人参加
第一工業大学	1 月 20 日	事例から学ぶ技術者倫理 (外部講師による倫理勉強会)	霧島市商工観光部商工振興課企業振興室と共催。県内企業4社
鹿屋体育大学	1 月 21 日	企業・自治体等との懇談会	県内企業3社参加 学生7人、教職員8人参加
鹿児島工業 高等専門学校	1 月 22 日	KTC・霧島市合同企業研究会	鹿児島高専、霧島市、KTC主催 県内企業58社、学生213人、教員・保護者等7人参加
志學館大学	1 月 23 日	鹿児島県中小企業家同友会と志學館大学の意見交換会	鹿児島県中小企業家同友会と共同実施。経営者15人、教職員15人参加
鹿児島女子 短期大学	2 月 3 日 ~ 4 日	キャリア支援ガイダンス(業界研究)	県内8事業所 学生等320人参加
鹿児島国際大学	2 月 7 日	JA就業力育成研修	JA県経済連にて実施 学生20人参加予定
鹿児島女子 短期大学	2 月 7 日	地元事業所との情報交換会	ハローワークかごしま、鹿児島県経営者協会、ほか県内4事業所
鹿児島国際大学	2 月 12 日	グループディスカッション対策講座	ヤングハローワークと連携 学生46人参加
鹿児島大学	2 月 13 日 ~ 14 日	学内業界研究フェア	県内企業68社、学生800人参加
鹿児島国際大学	2 月 19 日	集団面接対策講座	「本学卒業企業経営者の会」と連携 学生30人参加
鹿児島女子 短期大学	3 月 4 日	学内合同企業説明会	県内12事業所 学生参加
鹿児島大学	3 月 4 日 ~ 6 日	学内個別企業セミナー	企業・官公庁90(うち県内企業24社)、 学生600人参加
鹿児島国際大学	3 月 5 日	大学主催合同企業説明会	企業110社
鹿児島県立 短期大学	3 月 9 日	学内企業ガイダンス(会社説明会)	県内企業24社参加、学生200人
鹿児島工業 高等専門学校	3 月 13 日	第3回鹿児島高専テクノクラブ役員会・技術研修会	

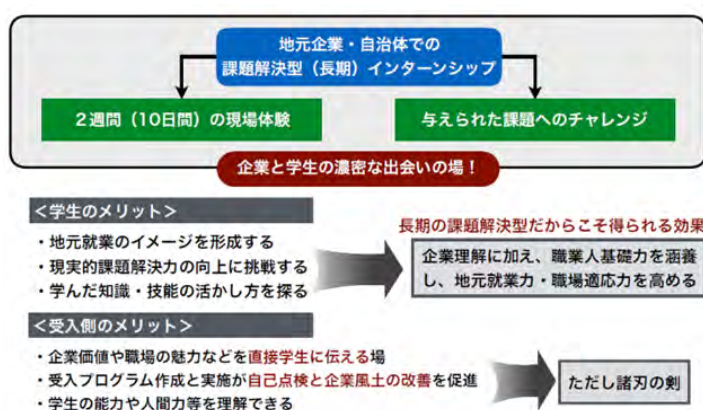
2 インターンシップの実施状況

鹿児島大学

分類	実施主体	概要	実績数
民間企業サイトによるインターンシップ	個別企業・団体	・企業・団体が個別に募集 ・希望者は各自に申請	
大学、学部・研究科独自のインターンシップ	各学部・研究科	・受入先は鹿児島県内外の企業・団体 ・参加者は各学部・研究科、研究室等における所属学生	令和元年度 234人
キャンパスWEBを通じたインターンシップ	教務課	・受入先は鹿児島県内の企業・団体 ・参加者は主に学部3年生 ・インターンシップ・キャンパスWEBを利用	令和元年度 19人
COC+で開発されたインターンシップ	COC+グループ	・かごしまCOC+事業により平成30年度から「かごしま課題解決型インターンシップ」として運用開始(平成29年度は試行運用) ・受入先は県内企業・団体 ・参加者は大学院生を含む全学年・全学部の学生 ・課題解決型、中長期型 ・インターンシップとあわせて事前演習及び事後学習(公開報告会)を実施	令和元年度 22人
その他(地域人材育成プラットフォームにおける実地体験)	・COC+グループ ・総合教育機構 ・グローバルセンター	・高度共通教育科目として開講 ・職業体験や多様な人々と交流することにより、思考力やコミュニケーション力を涵養 ・「かごしまキャリア教育プログラム」はCOC+グループ、「かごしまリサーチプログラム」は総合教育機構、「かごしまグローバル教育プログラム」はグローバルセンターが担当	令和元年度 9人

●特筆すべきインターンシップ

本学では、既存のインターンシップに加え、平成30年度から地元企業の協力を得て「かごしま課題解決型インターンシップ」を本格実施した。これは地元で活躍できる中核人材を育成するために開発したもので、平成29年度のトライアルでは受入先5箇所・参加学生11人、平成30年度からの本格実施では受入先20箇所・参加学生25人となり、令和元年度は6月時点で受入先29箇所・参加学生30人と、着実に増加している。なお、このインターンシップは、「かごしまキャリア教育プログラム」における「地域キャリア・インターンシップ」としてプログラムが提供されている。平成30年度の「かごしま課題解決型インターンシップ」に参加した



受入側と学生双方の期待が一致すれば人材確保につながる可能性がある

かごしま課題解決型インターンシップ

学生の中からは、その後、錦江町で地域おこし隊やNPOと連携して、子供達の地域キャリア形成支援をする学生や、友人を誘って三島村で国際観光推進に向けたプロジェクトを立ち上げた学生も現れた。インターンシップ後の評価では受入側も学生も高く評価しており、地元でのインターンシップの量的拡大とともに、地域の中核人材を育てるために質的なインターンシップの継続的実施が重要であると考えている。

鹿屋体育大学

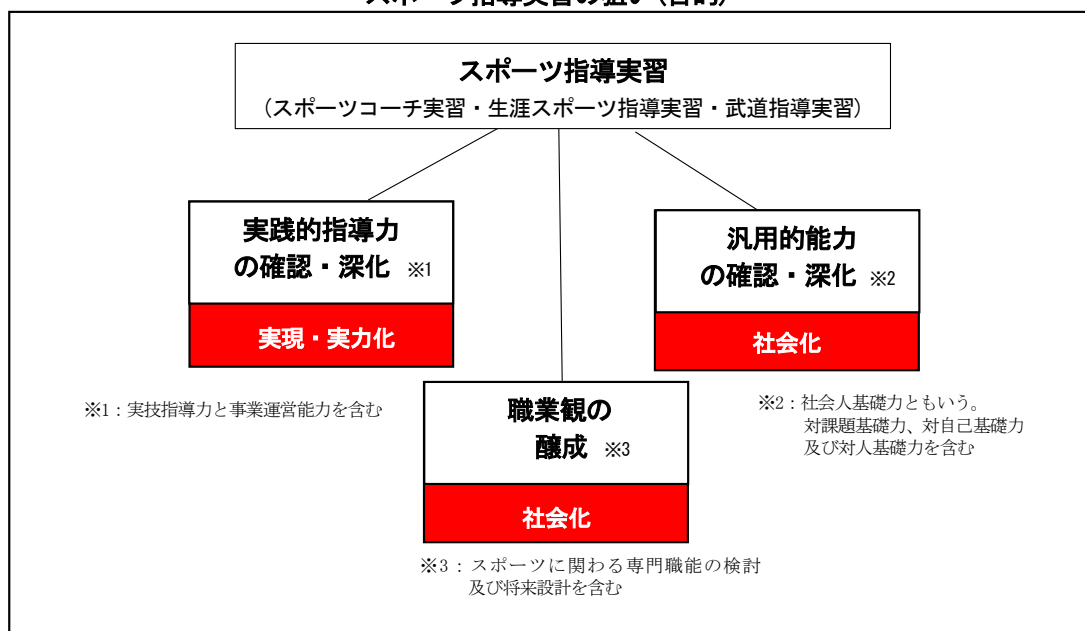
分 類	実施主体	概 要	実績数
民間企業サイトによるインターンシップ	民間企業 団体等	・企業・団体が個別に募集 ・参加希望者は各自で申請 ・受入先は鹿児島県内企業・団体等	令和元年度 1人
自治体等が実施するインターンシップ	地方自治体等	・受入先は鹿児島県内の自治体等 ・参加者は学部生、大学院生	令和元年度 2人
大学独自の インターンシップ (企業実習)	鹿屋体育大学	・キャリア形成科目として実施(選択) ・参加者は学部2年生以上 ・受入先は鹿児島県内の企業等 ・インターンシップとあわせて事前講義及び事後学習報告会を実施	令和元年度 1人
大学独自の インターンシップ (スポーツ指導実習)	鹿屋体育大学	・専攻科目として実施(必修) ・参加者は学部3年生以上 ・受入先は鹿児島県内の公共施設・民間企業等	令和元年度 115人

●特筆すべきインターンシップ（スポーツ指導実習）

平成28年度から本学教育課程において、「スポーツ指導実習」が必修化された。それに伴い、県内での実習先の開拓を行い、令和元年度は県内16企業・公共機関での実習を実施し、県内で実習した学生は115人、県内での実習率は約63%を達成した(スポーツ指導実習履修者数:183人)。

(※スポーツ指導実習とは、専門科目や専修科目等で身につけた学修を基礎に、学外者を対象とした指導現場における実地的・実践的な実習を通じて、体系的な実技指導力や事業運営力を深めることを狙いとして実施され、スポーツリーダーとしての将来像と職業観・就業観を醸成できる内容となっており、「スポーツコーチ実習」「生涯スポーツ指導実習」「武道指導実習」の3つから構成される。)

スポーツ指導実習の狙い(目的)



鹿児島国際大学

分 類	実施主体	概 要	実績数
「3日間社長のカバン持ち体験」	就職キャリアセンター	・社長や重役と3日間行動を共にすることで、経営者の仕事内容や仕事に対する意識、考え方などを学ぶプログラム ・主対象は1～3年生	令和元年度 24人
「本学独自開拓インターンシップ」	就職キャリアセンター	・本学が独自に開拓している企業や福祉施設、公的機関へのインターンシップに参加可能 ・期間は1週間程度～1カ月程度 ・主対象は1～3年生	令和元年度 34人
「キャンパスウェブ利用型インターンシップ」	就職キャリアセンター	・「インターンシップキャンパスウェブ」から、希望する鹿児島県内の受入先企業・団体を選んで応募 ・期間は1週間程度 ・主対象は2、3年生	令和元年度 53人
「プレ・インターンシップ」	就職キャリアセンター	・2年次から受講できる「国内インターンシップ」「海外インターンシップ」の準備段階として、働くことについての講義、企業研究、企業訪問により就労意識の形成・向上を目指す ・経営学科生のみ参加可	令和元年度 6人
「外国人留学生インターンシップ」	就職キャリアセンター	・外国人留学生の就業力育成と国内での就職支援を図る ・期間は1日～1週間程度 ・1～4年生参加可	令和元年度 7人 ※予定含む
「長期実践型インターンシップ」	就職キャリアセンター	・長期間を通して実践的な職業能力までの育成を図る ・期間は1カ月～6カ月程度 ・1～4年生参加可	令和元年度 1人
「エアラインインターンシップ」	就職キャリアセンター	・(株)ANA総合研究所と連携し、エアライン業界やホスピタリティへの理解を深める ・期間は4日間 ・主対象は3年生(1、2年生も可)	令和元年度 14人
「自由参加型インターンシップ」	就職キャリアセンター	・就職情報サイトや企業ホームページ等から情報を得て、学生自身が直接申し込んで参加。就職キャリアセンターに参加届を提出 ・期間は1日～1週間程度 ・1～4年生参加可	令和元年度 68人 ※年度末にかけて今後大幅増の見込

本学では、学生が主体的に何かに取り組んだという経験と将来のキャリア形成や就職活動につなげるために、インターンシップに力を入れており、多様なメニューを用意している。企業等が採用活動においてインターンシップを重視している傾向とも相まって、国内インターンシップに参加する学生数は増加傾向にある。

その中でも、「3日間社長のカバン持ち体験」は、平成23年度から本学と鹿児島相互信用金庫との産学連携事業として実施。ユニークな内容が全国的に注目され、メディアでも取り上げられた。学生が地元中小企業経営者のカバンを持って3日間行動を共にすることで、経営者の行動や発言に直接触れ、「企業経営の難しさ」や「企業の最前線」、「地域貢献にかける情熱」などを肌で感じ、その体験を自らのキャリア形成に役立てることを目的にしている。体験した学生からは、「地元こんな魅力的な会社があったんだ」「自分も地域のために貢献したい」などといった感想が寄せられている。

本学ではこれらのインターンシップにおいて、受入先企業及び学生(事前・事後)の評価書を作成し、その結果を学生にフィードバックするという教育的効果を高める機会も設けている。

志學館大学

分 類	実施主体	概 要	実績数
民間企業サイトによるインターンシップ	個別企業・団体	・企業・団体が個別に募集 ・希望者は各自に申請	令和元年度 168人
共通教育科目によるインターンシップ(うちキャンパスWEBを除く独自分)	学部	・受入先は鹿児島県内外の企業・団体 ・参加者は2～3年生	令和元年度 17人
学科科目によるインターンシップ	学科	・法ビジネス学科「法ビジネス基礎演習」 ・受入先は鹿児島県中小企業家同友会 ・参加者は2年生	令和元年度 46人
キャンパスWEBを通じたインターンシップ	学部	・受入先は鹿児島県内の企業・団体 ・参加者は2～3年生 ・インターンシップ・キャンパスWEBを利用	令和元年度 46人
COC+で開発されたインターンシップ	学内COC+実行委員会	・「地域インターンシップ」モデル ・南さつま市観光協会・本坊酒造 ・食と観光フェスタ、かごしま食育フェスタ、地域交流フェスタ	令和元年度 61人

●COC+で開発された独自のインターンシップ

1社への単発の就業体験だけでなく、地域理解と複数企業等への就業体験等を組み合わせ、地域課題解決をめざす「地域インターンシップ」モデルとして、①南さつま市観光協会・本坊酒造との連携により、調査・イベント参加・企業就業体験等を行う「南さつま市公認特派員」プロジェクト(専門科目「専門演習(キャリア教育)」)、②湯砂菜企画・NPO法人トカラインターフェイス・Mebuki・大和リース(株)との連携により、調査・就業体験・特産品販売実習等を行う「食と観光フェスタ」プロジェクト(専門科目「産業組織心理学演習」)、③(株)EN WATER FARMS・鹿児島市保健所との連携により、調査・広告作成・特産品販売実習等を行う「かごしま食育フェスタ」プロジェクト(専門科目「社会産業実習」)、④NPO法人薩摩ROCKCLUB・大和リース(株)との連携により調査・就業体験・市民交流イベント実施を行う「地域交流フェスタ」プロジェクト(教養科目「ボランティア企画実習」)を実施した。

第一工業大学

分 類	実施主体	概 要	実績数
学部・研究科独自のインターンシップ	各学部・研究科	・受入先は鹿児島県内外の企業・団体 ・参加者は各学部、研究室等における所属学生	令和元年度 43人
COC+で開発されたインターンシップ	COC+グループ	・COC+事業により平成28年度から「地域企業インターンシップ」として運用開始 ・受入先は県内企業・団体 ・参加者は全学年・全学部の学生 ・正規科目として設置(2単位) ・インターンシップとあわせて事前演習及び事後学習(公開報告会)を実施	令和元年度 63人

●特筆すべきインターンシップ

本学では、既存のインターンシップに加え、平成28年度から県内企業の協力の下「地域企業インターンシップ」を2単位の正規科目として設置した。本科目は、本学教員がインターンシップへの心構えなどを講義する「インターンシップ事前講習会」、本学体育館に設置したブースに県内企業が一堂に集まり、自社の技術や働き方などを興味のある学生に説明する「インターンシップ事前勉強会」、学生の希望と企業のマッチングをおこなった上で主として夏休み期間中に行う「地域企業インターンシップ」、インターンシップに行った成果を後輩の学年に伝え、来年度へのインターンシップへの動機付けにつなげる「インターンシップ報告会」で構成されている。

インターンシップ事前勉強会は、例年30社を超える企業が参加し、インターンシップ対象の3年生の90%以上が参加するまでに定着した。設置当初、参加企業を集めることに苦労したが、最近では、県内企業の学生募集状況が困難になっている背景もあり、参加募集の呼びかけ前から企業からの問い合わせがあるなど、本学会場のキャパシティを超えつつある盛況ぶりである。事前勉強会の参加者は、平成28年度47人、29年度139人、30年度183人、令和元年度176人の学生が参加した。

これらの活動により、学生のインターンシップに対する意欲は年々向上しており、参加率の点からも一定の成果が得られた。今後はインターンシップの質の向上が課題となる。

鹿児島県立短期大学

分 類	実施主体	概 要	実績数
本学独自のインターンシップ	・学生課	・受入先は鹿児島県内外の企業・団体(6社) ・参加者は各学科における所属学生	令和元年度 25人
キャンパスWEBを通じたインターンシップ	・学生課	・受入先は鹿児島県内の企業・団体(17社) ・参加者は学部1年生 ・インターンシップ・キャンパスWEBを利用	令和元年度 36人

鹿児島女子短期大学

分 類	実施主体	概 要	実績数
一般教養科目におけるインターンシップ(1年前期 夏休みに1～2週間)	本学の科目担当者	・インターンシップ・キャンパスWEBを利用受け入れ先は鹿児島県内の企業・団体 ・希望者は各自エントリーシートにて登録し、マッチングするまで参加登録を繰り返す。 ・事前研修として、研修先企業研究、地域貢献、職業意識、ビジネスマナー研修棟の指導、事後研修として報告書の作成の基づき体験発表会を行い、職業体験の共有を図る。	令和元年度 51人
学科独自のインターンシップ (1年後期2～3月にかけて1週間)	教養学科	・受入先は鹿児島県内外の企業・団体 ・参加者は「企業実務演習」履修者 ・企業実習先の選択・交渉は就職活動と同じく、学生自身が自らのキャリアの方向性に沿って行う。	令和元年度 10人
まちづくり“未来の担い手”育成事業インターンシップ	鹿児島市政策企画課	・今年度は、次期総合計画研究ワーキンググループ及び同研究会の委員に就任することが応募条件。 ・受け入れ人数は、市内5大学各1人(本学では、希望者1人) ・長期課題解決型 ・7月から2月まで9回の会議出席及び8・9月には学生の視点による政策・施策・推進プロジェクトの課題設定、現地調査等の協議、検討を4回(自主学習を除く)行い、ワーキンググループに報告する。	令和元年度 1人
その他 (ホテル・旅館における人材確保育成事業:おしごと体験ツアー1泊2日)	指宿市観光課	・指宿市の基幹産業であるホテル・旅館での慢性的な人材不足という課題解決のために、指宿市の観光の取り組みや旅館業の魅力を講義で理解し、旅館業等の仕事の体験をする。	平成30年度 3人



企業でのインターンシップ



インターンシップ報告会



お仕事体験ツアー(指宿)

鹿児島工業高等専門学校

分 類	実施主体	概 要	実績数
県外インターンシップ	・個別企業・団体 ・各学科4年担任 ・学生課	・鹿児島県外の企業・団体が個別に募集 ・学生課が窓口となり周知・申請 ・主に本科4年、専攻科1年生 ・単位認定あり ・事前研修あり	令和元年度 154人
県内インターンシップ	・各学科4年担任 ・学生課 ・地域共同テクノ センター	・受入先は鹿児島県内の企業・団体 ・学生課で140社に受入依頼 ・主に本科4年、専攻科1年生 ・単位認定あり ・事前研修あり	令和元年度 27人

●特筆すべきインターンシップ

本校における県内インターンシップについては、本校の産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブ（KTC：一般企業94社、公的機関等16団体）と深く連携し実施しているところである。

例年、年度初めに学生課から県内約140社に受け入れ依頼し、受け入れ可能企業と希望学生のマッチングを図り、夏季休業期間中にインターンシップを実施している。

令和元年度の県内インターンシップ参加者は27人であったが、このうち23人（85.2%）がKTC会員企業で実施しており、このことは本校の特徴となっている。

また、KTC会員企業との学生を交えた共同研究等も例年実施しており、これらの中から学生の卒業研究（本科生）や特別研究（専攻科生）のテーマとして取りあげて実施するケースもあり、これらの研究についてはKTC三役立会いの下、研究発表会（卒業研究部門・特別研究部門）を実施しそれぞれ優秀発表者にはKTC会長賞が授与されている。

以上のことから、多数の学生がKTC会員企業でのインターンシップを体験することで、会員企業の抱える技術的な課題等について理解し、共同研究等を通じて卒業研究や特別研究のテーマとして取り組み、会員企業の課題解決を図るとともに、最終的にはそれらの会員企業に就職し活躍することで、地域の活性化を図り地方創生に繋げるサイクルを構築していくことが今後の課題である。



実習風景



実習風景



審査会での発表



修了式での会長賞授与

VI 広報活動

1 かごしまCOC+通信

かごしまCOC+事業の取組や情報を広く、タイムリーに発信するための広報誌を広報部会員を中心に編集・発行した(全22号)。各号はA4版1枚で簡潔にまとめ、平易な言葉で記すなど親しみやすい情報発信に努めるだけでなく、発行を重ねる中でその都度改善を重ね、読者の意見も積極的に取り入れてきた。たとえば、事業協働機関の「学生の就職に関する意識を知りたい」という要望に対し、かごしまCOC+事業で実施した様々なアンケート調査の結果を分かりやすく提示し、そのニーズに応じてきた(第2号、第9号)。また、「COC+8大学等の取組をもっと知りたい」という声に寄り添い、各校の担当者による分担執筆で、特色ある取組を紹介してきた(第5～8号、第15～18号)。加えて、「スマホからかごしまCOC+通信を読みたい」という学生の意見を取り入れ、二次元コードを添付して電子端末から閲覧できるようにした(第19号～)。発行されたかごしまCOC+通信は、ホームページへの掲載、学内への周知の徹底を行ったほか、事業協働機関の協力のもとで印刷物が地元企業に配布された。このように、双方向のコミュニケーションツールとして読者と繋がることで、かごしまCOC+通信もまた、「オールかごしま」を支える重要な役割を果たしたと言える。

これまでのかごしまCOC+通信のタイトルを以下に示す。

	号	発行月	タイトル
平成29年度	創刊号	7	COC+推進フォーラム2017「大都市圏に対する地元就業の魅力」を開催 企業人と学生、「鹿児島で働くことの魅力」を熱く語る！
	2	8	「学生の就職活動における情報活用に関する調査」から(抜粋) 本当に「都会の方が豊かな生活が実現できる」のか！
	3	9	「オールかごしま」による地域人材育成の取り組み COC+公開講座2017「食と観光で鹿児島の魅力を探る」を開催
	4	10	COC+8校協働による地元企業見学バスツアーを初めて実施 意外と気づいてなかった地元企業の「魅力」に触れる！
	5	2	鹿児島高専の地方創生への取組（鹿児島工業高等専門学校） 課題解決型インターンシップの本格実施に向けて プレ「地域キャリア・インターンシップ」公開報告会を開催（鹿児島大学）
	6	2	多彩な産学官連携カリキュラムで地域に共鳴する（志学館大学） COC&COC+活動～地域活性化の担い手を目指して～ （鹿児島女子短期大学）
	7	3	「第2回企業・自治体等との懇談会」の開催 ～企業と本学教職員・学生との意見交換会～（鹿屋体育大学） 「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」 （鹿児島国際大学）
	8	3	平成31年3月卒業生の就職活動がスタート（鹿児島県立短期大学） 地域に開かれたものづくり大学として 第一工業大学の社会連携活動 （第一工業大学）

	号	発行月	タイトル
平成30年度	9	7	県内学生の就職活動実態調査から見たこと 就職先の選定は賃金・年収だけではない！
	10	9	平成30年3月卒業生の地元就職と関係者アンケートを読み解く 今こそ、「オールかごしま」で地元就職率の向上を！
	11	10	COC+8校共同による「地元企業よかとこ発見バスツアー2018」を実施 「食」と「観光」で世界に発信する地元企業の魅力を発見！
	12	12	COC+公開講座2018「食と観光で鹿児島島の魅力アップを考える」開催
	13	1	企画から運営まで学生が手掛けた「COC+推進フォーラム2018」を開催 学生の「本音」を地元企業にぶつける！
平成31年度 令和元年度	14	4	かごしまCOC+8大学等における 世界を魅了する「食と観光」の主要な取組紹介
	15	5	地元就業に向けた 令和2年3月卒業生の就職活動がスタート (鹿児島県立短期大学) PBL型授業の地域活性化への活用 平熊ウォーキングコースづくり～里道再生プロジェクト～ (第一工業大学)
	16	6	「第3回企業・自治体等との懇談会」の開催 ～企業・自治体と本学教職員・学生との意見交換会～(鹿屋体育大学) 社会とつながる正課科目と進路支援プログラム (志学館大学)
	17	6	文部科学省 私立大学研究ブランディング事業による 鹿女短「食育ステーション」の取組 (鹿児島女子短期大学) 地域企業・自治体による特別講義や企業見学 鹿児島高専の地方創生への取組 (鹿児島工業高等専門学校)
	18	7	地元就業に向けた支援事業が加速中！ 平成30年度 地元就業支援の取組 (鹿児島大学) 地域課題解決に向けた フィールドワークの事例紹介 (鹿児島国際大学)
	19	8	かごしまCOC+公開講座2019 「食と観光で鹿児島島の魅力アップを考える」開催
	20	9	COC+8校共同による「地元企業よかとこ発見バスツアー2019」を実施 今年も 地元企業の魅力を発見し、魅力に触れた4日間！
	21	12	かごしまCOC+総括シンポジウム 学卒者の地元定着への取組～これまで そしてこれから～ 令和元年11月29日(金) 鹿児島大学稲盛会館において開催
	22	3	地域人材の育成と地元就業を支援する かごしまCOC+を振り返って

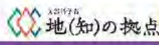
●以下、令和元年度発行分



地域人材の育成と地元就業を支援する

かごしまCOC+通信

KAGOSHIMA COC+ NEWSLETTER



第 14 号
平成 31 年 4 月
かごしま学卒者
地元定着促進協議会

かごしま COC+8大学等における 世界を魅了する「食と観光」の主要な取組紹介

「食と観光」は鹿児島県発展の象徴的・重点的な分野であり、鹿児島大学及びCOC+参加校が鹿児島県、経済団体、企業等と協働して実施しているCOC+事業でも「食と観光」を冠している。今回は鹿児島大学及びCOC+参加校の「食と観光」に関する主要な取組を一部紹介する。なお、第15～18号では各校分担執筆による主要な取組特集を発行する予定である。そちらも参照されたい。

○桜島大根で地域振興

鹿児島大学

昨今、桜島大根生産者の所得向上や産地拡大を図るため、揃いがよく品質の良い県育成品種「桜島おごじょ」の販売力強化が課題となっている。そこで、平成29年度から新たな加工品開発や青果を含めた販路拡大等に向け、農学部を中心に桜島大根の血管機能改善効果に関する研究成果の利活用を行っている。この研究成果は、英文誌 Journal of Agricultural and Food Chemistry に掲載され、当該誌の表紙を飾り特別解説された。また、アメリカ化学会(ACS)から画期的研究トピックスとして紹介された。



「世界一桜島大根コンテスト」に参画する桜島大根

○食と観光、そしてスポーツとの関わりを考えるー

鹿屋体育大学

平成28年度は2年生対象のキャリア形成科目授業「キャリアデザインⅢ」において、志布志市にある農業法人(株)さかうえの代表取締役・坂上隆氏を招

いた特別講話を実施した。「多様な働き方、社会でのスポーツとの関わりを考える」というテーマで、農業の役割と可能性、農業を仕事にする喜び及び鹿児島島の魅力について農業従事者の視点から語られ、147人の学生が熱心に聴講した。

また、3年生対象の「キャリア対策セミナー」において、岩崎産業(株)取締役副社長の岩崎貴光氏を招いた特別講話を実施した。「企業で求めている人材と採用試験」というテーマで、観光・交通を主体としたいわさきグループの事業内容、企業側が求める学生像、鹿児島で就業することの魅力について自身の体験談を交えて語られ、38人の学生が理解を深めた。

○学生の力で阿久根市に元気を！

鹿児島国際大学

阿久根市及び鹿児島相互信用金庫と連携して阿久根市地域活性化共同事業を平成26年度から実施している。平成27年度は、肥薩おれんじ鉄道沿線地域の活性化及び肥薩おれんじ鉄道の利用促進を図ることを目的に、沿線の食品関係事業者の協力も得て、ゼミ学生厳選の地元産品の「うんまかもん」を販売した。平成28年度は、ゼミ学生による地元の菓子工房とのコラボによるスイーツの商品化や阿久根市物産品フェアも実施。平成29年度は、阿久根駅前で空き店舗を利用したチャレンジショップ事業をゼミ学生が企画運営実施した。



チャレンジショップ事業を手掛けるゼミ学生

【問合せ先】鹿児島大学産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

〇弁当プレゼンコンテスト

志学館大学

法学部キャリア教育ゼミナールでは J A 鹿児島県中央会との連携事業「弁当プレゼンコンテスト」を平成 26 年度から毎年 12 月に実施している。鹿児島の食材を必ず使い、料理の腕ではなく、ストーリー性やエピソードなどによるプレゼンテーション力を競うこのコンテストは、連携団体・自治体が増加するなど、年々その規模が拡大している。コンテスト当日は運営スタッフ・関係者も地産地消の自作弁当を持参し、交流しながら昼食を取るのが恒例となっている。



指宿市特産品を用いた外国人向け弁当の紹介

〇六次産業化推進フォーラム

第一工業大学

このフォーラムは県内の市民、生産者、消費者を対象に、地域農業を元気にするプレイヤーを育てる目的で平成 28 年度から毎年開催している。平成 28 年度は、「地方の元気は女性がつくる」をテーマに開催し、農林水産業や食の分野で活躍する女性が登壇して食で地域をどのように元気にできるかを討議した。平成 29 年度は霧島ガストロノミー推進協議会との共催で「きりしま食サミット」を開催した。



平成 28 年度 六次産業化推進フォーラム

〇カツオ節の PR

鹿児島県立短期大学

鹿児島県はカツオ節生産量日本一である。「鹿児島県立短期大学チームカツオづくし」は、枕崎水産加工業協同組合などと連携して研究を行ってきた。平成 27 年度には、「カツオ今昔物語 地域おこしから文学まで」(筑波書房)を発行した。メンバーの一人は、枕崎のカツオ漁とカツオ節生産に貢献した人物の研

究を行い、「南日本新聞」への記事連載を経て書籍化された。同メンバーの研究成果は、糖尿病レシピコンテスト全国大会での受賞に寄与するなど、学内外で大きな評価を受けている。



糖尿病レシピコンテスト全国大会受賞作品

〇鹿女短スマイル食育プロジェクト

鹿児島女子短期大学

私立大学研究ブランディング事業の一環として取り組んでいる。地域と連携した食育活動及び地元企業との連携による商品開発等で活動中のプロジェクトである。養殖魚の頭部、急速冷凍された桜島大根のレシピ開発やアヤコマチ芋の栽培から加工、さらに学生が主体となって運営する郷土料理教室、食育給本の開発等を実施。成果は「かごしま食育フェスタ」や「紫苑祭(学園祭)」等で幅広く発表している。



鹿児島協同食品と連携してヘルシーな商品開発から販売までを体験

〇下水道資源を活用した農産物の高付加価値化

鹿児島工業高等専門学校

下水処理場は、人間活動、生産活動によって発生した汚水を衛生的に処理する施設であり、その施設からは質・量ともに安定したバイオマスが多量に排出されている。平成 26 年度から下水処理場から発生する下水汚泥を用いてお茶などの高付加価値農産物の栽培や副産物利用に関する研究を行っており、その成果に大きな注目が集まっている。



お茶の採摘調査風景



地域人材の育成と地元就業を支援する

かごしまCOC+通信

KAGOSHIMA COC+ NEWSLETTER



地(知)の拠点

第 15 号
令和元年 6 月

かごしま学卒者
地元定着促進協議会

地元就業に向けた

令和 2 年 3 月卒業生の就職活動がスタート

【鹿児島県立短期大学】

いよいよ COC+事業の最終年度。本学の目標値である地元就職率（85.0%）の達成に向けて、平成 30 年 12 月 5 日の「就職活動説明会」を皮切りに、令和 2 年 3 月卒業予定学生の就職活動がスタートした。

○「就職活動説明会」の開催

本格的な就職活動を前に、学生自治会と学生課が合同で開催するもので、自治会役員や内定した先輩から就職活動全般のアドバイスや実際の就活体験などを学生目線で聞くことができた。

参加した学生は、就職活動の実体験や生の一つの話に耳を傾け、熱心にメモを取っていた。

○「キャリアデザイン（第 7 期）」の開催

1 月 23 日、「現場の声を聞くチャンス！」として、多くの学生が参加し、企業【(株)鹿児島銀行、京セラ(株)川内工場、(株)プライムアシスタンス】の人事担当者や先輩社員がパネラーとなり、働くことの意義や企業が求める人材像、就活のアドバイスや就職してからの経験などについて、ディスカッション形式で活発な議論が展開された。

○「メイクアップ講座」の開催

2 月 13 日、就職活動を控える女子学生を対象に、「働く女性のメイク方法～就活メイク講座～」を開催した。日本有数の化粧品企業として知られる(株)ポーラと日本メナード(株)の社員を専門講師に招き、好感を持たれる就職活動のための化粧方法について学んだ。学生は講師の説明に従い、鏡を見ながら「清潔感」「知性」「意欲」が表れるメイクに取り組んだ。参加した学生は終了後も講師に質問するなど、就職活動ならではのメイク術を学ぶ有益な機会となった。



慣れないメイクアップに挑戦中

○「進路状況保護者説明会」の開催

2 月 17 日、本学に第一部 1 年生、第二部 2 年生の保護者を招いて、進路選択に関する説明会を開催した。出席した保護者は最近の就職環境、本学での就職指導の現状や就職活動のスケジュールなどの説明に熱心に耳を傾けていた。アンケートでは、「昔と違って、短大側が就職活動の支援にこれほど力を入れているとは知らなかった」などの声が多く寄せられた。



就職支援担当者による進路状況保護者説明会

○「学内企業ガイダンス」の開催

3 月 6 日、本学に地元企業 17 社の採用担当者や実際に働いている本学出身の先輩社員を招き、仕事内容や採用試験についての説明会を開催した。学外の一般的な企業ガイダンスに比べ、じっくりと採用担当者等と話せることも魅力の一つで、学年末休業中で、またあいにくの天候にもかかわらず、平年並みの学生が参加した。熱心に話を聞く学生の姿が印象的だった。

○キメ細やかな就職支援の実施

本学の学生課では就職支援のため、年間を通じて挨拶やお辞儀の練習をする「マナー指導」、自分の魅力を最大限に表現するための「履歴書添削」、態度や言葉遣いを指導する「面接指導」のほか、ジョブサポーターによるマンツーマン指導やグループディスカッション・面接対策セミナーの実施、また、未内定で卒業した学生へのサポートを実施するなど、就職活動を全面的にバックアップしている。

問合せ先：鹿児島大学 産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

PBL 型授業の地域活性化への活用

平熊ウォーキングコースづくり～里道再生プロジェクト～【第一工業大学】

第一工業大学では、霧島市隼人町の平熊自治会と学生の共同作業によるウォーキングコースづくりを実施している。大きな目的は少子高齢化が進む地域の活性化に大学が様々な形で貢献していくことであるが、地域住民との交流や共同作業を通じて学生が地域に潜む魅力や課題を発見・実感し、地域に貢献する意識を醸成することも狙っている。

石橋調査から里道再生へ

平熊自治会と本学の交流は 2013（平成 25）年にさかのぼる。当地区を通りかかった際にたまたま目にした江戸期建設の石造水路橋（平熊の石洗越）の調査のため地域の方々に聞き取りを実施し、翌年には公民館で調査成果の報告会を実施した。本学にて COC+事業が開始した 2015（平成 27）年からは、地域住民や隼人町歴史民俗資料館の方々を案内役として招いた地域学習や、これらを通じて学生が見出した地域の魅力をまとめたまちあるきマップの制作と発表会を開催するなど、地域と学生の交流による成果が形になり始めた。

2017（平成 29）年には COC+事業関連科目として地域貢献演習（2 単位）が開講され、その一環として地域内に新たな人の流れを生み出すためのウォーキングコースづくりに着手した。コース設定では、これまでの活動で得られた地域特有の風景や歴史的なスポットが盛り込まれた。さらに、3 次元地形モデルなどのツールを議論に活用することで、忘れ去られて久しい里道の存在と価値が見出され、住民と学生によって草刈りや樹木の伐採が実施された結果、約 30 年ぶりに往時の風景を取り戻すに至った。より多くの方に利用してもらうためのコースの改善や、継続性のある維持管理体制の構築が目下の課題である。

「取り組み」の成果

里道再生と維持管理作業を通じて、学生自らが参加して「つくった」インフラであるという主体性と愛着の醸成が見られたことは、予想を超えた成果であった。一連の取り組みに関わった学生の一部は、県内の建設会社や建設コンサルタントなど、地域を支える職業を選択しているという事実もまた、この取り組みの成果のひとつといえる。

里道再生プロジェクトは、鹿児島県が主催する「第 6 回かごしま・人・まち・デザイン賞」にて一次審査通過という評価を受けた。さらに冒頭に述べた石造水路橋（平熊の石洗越）は、その希少性や地域住民による愛着度などが評価され、平成 30 年度土木学会選奨土木遺産に認定された。

雑草に覆われていたこの石橋を地域活性化に活かそうと考えていた有志によって、人の目に触れやすくするための除草作業が数年前から実施されていたとの後日談を聞いたのは最近のことである。

謝辞

本プロジェクトは霧島市隼人町松永の平熊自治会の皆さんの本学学生教育に対するご理解と多大なるご協力によって成り立っています。ここに記して感謝申し上げます。



3次元地形モデルを用いた地域住民との会議



再生された里道

問合せ先：鹿児島大学 産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

地域人材の育成と地元就業を支援する



かごしまCOC+通信
KAGOSHIMA COC+ NEWSLETTER

 地(知)の拠点

第 16 号
令和元年 6 月

かごしま学卒者
地元定着促進協議会

「第3回企業・自治体等との懇談会」の開催

～企業・自治体と本学教職員・学生との意見交換会～

【鹿屋体育大学】

鹿屋体育大学では、COC+事業計画をより円滑に推進するために、毎年業界関係者を招いての懇談会を実施している。この懇談会の大きな目的は、本学学生へ向けて「鹿児島県で就業することの魅力」を発信するための情報収集と環境作りである。

○テーマ「観光とまちづくり」

本年度は、開催のテーマを「観光とまちづくり」に設定し、鹿児島の魅力を伝えるために日々の業務に取り組んでいる鹿児島県内の企業・自治体等の関係者を招聘し、実施した。平成31年1月22日、鹿児島県内2企業（九州旅客鉄道株式会社鹿児島支社、城山観光株式会社）と3自治体（鹿児島県商工労働水産部雇用労政課、鹿屋市総務部、大崎町総務課・企画調整課）の各担当者の方々計10人を招き、本学からは教職員8人と鹿児島県内の企業や自治体等への就職や観光関連の企業への就職を希望する学生4人も交え、「どんな人材像を企業や自治体は求めているか」を懇談会のテーマの大きな柱として積極的な意見交換を行った。

○実施概要

はじめに森司朗理事・副学長より開会挨拶があり、次に前田博子教授（キャリア形成支援室長）より「COC+事業の取り組みおよび就職実績」等の説明があった。続いて、各企業・自治体等からそれぞれの業務内容について説明があり、日頃からいかに「鹿児島の魅力」を県内外の方々へ周知させるために「観光とまちづくり」に尽力されているかについて、各自の具体的な体験談も交えながらの興味深い討論となった。

また、「どんな人材像を企業や自治体は求めている

るか」というテーマでの懇談では企業や自治体側から、『誠実、成長と進化、地域を元気に』を体現できる人材を必要としている」「自分の目標を立て、達成に向けて努力したりスポーツを一生懸命に取り組んだりしている学生には非常に魅力を感じる」等の貴重な意見があり、参加した学生は、メモを取りながら真剣に話に聞き入っていた。

○参加学生の声

懇談会終了後の学生からは、「今まで知らなかった分野について多くの情報を聞くことができたので非常に有意義であった」「企業・自治体に取り組む地域活性化の具体的な事例を知ることができてよかった」等の前向きな意見や新たな発見が見られ、各企業や自治体等の日頃の業務内容の理解を深め、就職の選択肢を増やす意味で非常に有意義な内容であった。

鹿屋体育大学では、COC+事業をさらに展開させるために来年度も、新たなテーマで業界関係者を招き、本学学生への「鹿児島の魅力」の発信に注力していきたいと考える。

○謝辞

「第3回企業・自治体等との懇談会」実施にご協力いただきました九州旅客鉄道株式会社鹿児島支社、城山観光株式会社、鹿児島県、鹿屋市、大崎町（順不同）の関係各位に御礼申し上げます。



懇談会の様子



積極的に質問する本学学生

問合せ先：鹿児島大学 産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

社会とつながる正課科目と進路支援プログラム

【志学館大学】

志学館大学では、「食と観光」、「地域就業力を強化し自己形成を促進させる」というコンセプトでカリキュラムデザインを行うことで、毎年度、正課科目の新設・改編とともに、進路支援プログラムや資格講座の拡充が実現した。COC+最終年度を迎えて振り返ると、特に、産業界・自治体との連携・協力の形態が増えた点が挙げられる。ここでは、平成30年度の新たな取組の一部を中心に紹介したい。

○鹿児島市・鹿屋市・企業連携「地域産業論演習」

平成30年度、1年次配当・夏季集中の法学部専門科目として新設し、鹿児島市との講座・ワークショップと副市長意見交換会、企業等訪問バスツアー、鹿児島県南薩地域振興局協力の地域・産業研究を行い、72人が履修した。バスツアーではCOC+共通の南薩コースも活用のおうで独自の霧島コースを設け、坂元醸造(株)・(株)ホテル京セラ・(株)オーガランドを訪問し特産品の黒酢料理も味わった。新設科目のため1年生のみの履修となったが、ワールドカフェや座談会、先輩社員との交流などの多様な参加型学習の中で、学生は積極的に意見・質問を述べ動いていた。令和元年度は、鹿児島市のほか鹿屋市とも連携し、鹿児島市長・鹿屋市二役との意見交換会、地域イベント主催者との交流も組み込み、バスツアーは大隅コースを中心に予定している。

○鹿児島ユナイテッドFC連携「スポーツ産業」

平成30年度、法ビジネス学科専門科目「スポーツ産業」を改編し、一部にプロサッカークラブ「鹿児島ユナイテッドFC」の徳重剛代表講話と、学外研修としての試合運営体験を取り入れ、3年生中心に27人が履修した。運営当日、学生は受付や販売補助、安全確保、清掃、試合中の担架係などを担当しつつ、応援グッズ、ステージ、ゲーム企画、地産地消の食ブースも観察した。「会場全体が盛り上がり、一体感のある大事なコンテンツ」、「来場者を増やす工夫がなされた」などの感想が寄せられていた。

○(株)JTB鹿児島支店連携「B&S 中大連携キャリア教育プログラム」

平成29年度に協定を結び、共通教育科目「キャリア開発演習」、人間文化学科専門科目「地誌学演習」、法学部キャリア教育ゼミにおいて、観光・

旅行業に関する講義、修学旅行生が鹿児島市内を散策するコースの考案、実地踏査、プレゼンテーションとフィードバックにより改善するコーオプ(産学協働)教育を実施した。また、平成30年度には初めて実際に佐賀県の2つの中学校を受け入れ、学生ボランティアが市内散策のアテンドを行った。今年度は大阪府からも受け入れている。なお、小城市立三日月中学校は、上級学校訪問として本学で講義、大学生生活紹介、学内ツアー、サークル・学友会・留学生交流も体験した。さらに、12月には、東京・大阪・名古屋方面のJTB各支店の社員15人が研修で来学し、学生10人と意見交換を行い、学生の意欲の高さが好評だった。



中学生と案内する学生



JTB社員研修意見交換会

○進路支援プログラムと資格センター講座

地元の各業界等からご協力をいただき、意見交換会やキャリア講演会、模擬面接会、合同説明会、各種講座・適性診断・模擬試験、内定者報告会、内定者研修会、就業体験など、課外で50以上の進路支援プログラムを設けている。継続的に改善を図るとともに毎年新規事業を追加し、低年次から段階的に参加するよう促しており、特に3年生の参加率が高い。令和元年度の全体ガイダンスについては、6月18日現在で在学生の72%が自主的に参加している。この他にも資格センターの各種講座があり、特にCOC+初年度に始まった鹿児島商工会議所後援「かごしま検定対策講座」を継続して地域マインド育成をめざしている。また昨年度の九州FG証券・鹿児島銀行寄附講座「証券外務員対策講座」開設が新しい動きである。

問合せ先：鹿児島大学 産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp



地域人材の育成と地元就業を支援する

かごしまCOC+通信

KAGOSHIMA COC+ NEWSLETTER

第 17 号
令和元年 6 月

かごしま学卒者
地元定着促進協議会

文部科学省 私立大学研究ブランディング事業による

鹿女短「食育ステーション」の取組

【鹿児島女子短期大学】

本学は、文部科学省による平成 29 年度「私立大学研究ブランディング事業」に採択された。選定された事業は「鹿児島の食文化の継承と発展のための拠点形成～『鹿女短 食育ステーション』構築事業～」である。かつては地域や家庭の中で自然に受け継がれてきた鹿児島の食文化が、時代や社会の変容により次世代に継承していくための「場」を失いつつある。そのため、本学が鹿児島の食文化・食育に関わる人・もの・情報が行きかう「場」＝「ステーション」となることにより、鹿児島の食文化・食育を次世代に伝え、発展させるための持続的なシステムの構築を目指す。今回は、「鹿児島の食アンバサダー」の養成について紹介する。

○「鹿児島の食アンバサダー」とは？

「鹿児島の食アンバサダー」とは、鹿児島の食文化についての知識や経験を身につけ、愛着をもって発信してくれる人、地域での活動により鹿児島の食の魅力を広めてくれる人のことをいう。鹿児島の食の背景について学ぶ「知る（主に座学）」、知識として学んだことを体験的に身につける「作る（主に体験活動）」、そしてアンバサダーの使命として最も重要となる「伝える（主に伝承活動）」の認定要件を満たせば、「鹿児島の食アンバサダー」として認定される。対象は、現在本学在学学生のみだが、今後卒業生や高校生をはじめ一般の方々にも拡大していきたい。2 月の第 1 回認定式において、鹿児島の食文化の継承者の証となる「認定証」及び「ピンバッジ」を授与された 116 人の「鹿児島の食アンバサダー」が誕生した。

○養成のための取組例

2 月 9 日に、栄養士を目指す学生が主体となって運営する学外の方向けの料理教室を開催した。また、3 月 26 日には「春休み山川子どもクラブ（指宿市）」の児童を対象に、児童教育学科の学生が食育クイズ等の食育活動を実施した。更に、一般の方と学生と一緒に学ぶ料理教室である「鹿女短スマイル食育講座」として、4 月 27 日には「あくまき」作りを行った。今後、「酒すし」や「つけ揚げ」等の料理教室も開催する。



学生による料理教室

子どもクラブでの食育活動



ピンバッジ

認定証の授与

○第 1 回「COC+教育プログラム認定証」144 人の卒業生に授与

本学では、「地域活性化の担い手」として地域に貢献する学生を育成する目的で、平成 29 年度以降の入学生から卒業時に各学科専攻が定めた認定基準のポイントを満たした学生に、標記の認定証を発行している。これは、地域活性化の担い手として、地域に貢献する人材になりうる意欲、知力、経験及び実践力を有していると学長が認める学生に対して授与されるものである。学生には、「本学での認定を機に卒業後も地域貢献活動が続けてください」とエールを送っている。

問合せ先：鹿児島大学 産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

地域企業・自治体による特別講義や企業見学

鹿児島高専の地方創生への取組

【鹿児島工業高等専門学校】

鹿児島高専では、地域企業への理解を深めるための特別講義・講演、企業見学と体験学習を通じ、地元を志向する学生を育成し、地元就職率及び定着率の向上に繋げることを目的として、平成 27 年度から、地域企業による特別講義と企業見学を行っている。平成 30 年度はこれらの位置づけを対象学年ごとに明確化し、1 年生から 4 年生までの全 5 学科を対象に計 20 の企画を実施した。1 年生に対しては学習の始まった専門課程との関連を意識した形で企業技術者による特別講義、2 年生は専門性を生かした地域での活動へ関心を高めてもらうために、霧島市及び日置市職員による地方創生に関する特別講義並びに鹿児島で働く本校 OB・OG による講演、3 年生はエンジニアとして働くことへの意識を高めてもらうために、企業訪問によるものづくり現場の見学、4 年生は就職を念頭にいた上での企業講演を実施した。

平成 30 年度の取組状況

○「企業技術者等による特別講義」

前学期（6 月～8 月）に 4 年生、後学期（11 月～12 月）に 1 年生を対象にそれぞれ実施した。

講義後の学生アンケートでは、「今回講義を受けた企業を知っていたか」の問いに対し、「知らなかった」と回答した人は 76.4%と多く、「企業について、もっと詳しく知りたい」との声もあった。

また、「今回受講した企業（産業）で働いてみたいと思ったか」の問いに対し、「働きたいと思う」と回答した人は 32.1%であった。

○「地方創生特別講義及び OB・OG の事例発表」

後学期（11 月～12 月）に 2 年生を対象に、霧島市及び日置市職員による地方創生特別講義と OB・OG による事例発表を実施した。



特別講義（霧島市）

特別講義（日置市）

講義後、学生からは、「地方創生について今まであまり知らなかったが、今回の講義で知ることが出来た」「地元に残るのもいいと思った」など前向きな意見があった。

また、「今年卒業したばかりの先輩の説明がわかりやすかった」「実際に OB の話を聞いて良かった」等、OB・OG による講演が学生の心に響きやすいこともわかった。

○「地域企業見学」

後学期（11 月～翌年 2 月）に 3 年生を対象に地域企業 5 社の企業・現場見学を実施した。



企業見学（株）九州タブチ

企業見学（国分電機株式会社）

実施後の学生アンケートでは、「今回見学した企業を知っていたか」の問いに対し、「知らなかった」と回答した人は 86.4%と多く、「今回見学した企業（産業）で働いてみたいと思ったか」の問いに対し、「働きたいと思う」と回答した人は 29.6%であった。

また、「地元企業で開発からすべてやっているということを知ることができた」「見学での話を聞いて、すごく働きやすそうでいい職場だなと思った」「有意義な時間を過ごせたと思う」などの声があった。

学生に対し地域企業や地元自治体への理解を深めるための特別講義や企業見学を行うことにより、地元就職率及び定着率の向上に繋げることが期待されるが、学生が地域企業について知る機会が少ないことも地元定着率低下の原因の一つであり、学校や企業側も学生に対する魅力的な情報提供を行うことが重要である。また、これらの取組を COC+ 補助事業終了後も継続して実施していくことが最も重要であると思われる。

問合せ先：鹿児島大学 産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp



地域人材の育成と地元就業を支援する

かごしまCOC+通信

KAGOSHIMA COC+ NEWSLETTER



地(知)の拠点

第 18 号
令和元年 7 月

かごしま学卒者
地元定着促進協議会

地元就業に向けた支援事業が加速中！

平成 30 年度 地元就業支援の取組

【鹿児島大学】

鹿児島大学では、平成 30 年度は学内はもとより事業協働機関と連携して多彩な取組を行い、地元就業支援事業の量的・質的充実を図るとともに、対象者を学年不問とするなど参加者の拡大に努めた。また、地元企業及び学生の関心が高まっているインターンシップについて、独自プログラムの開発・実施や企業説明会の開催などを積極的に行った。以下に主要な取組事例を紹介する。

○就職支援センターとの連携事業の推進

COC+グループは就職支援センターと連携して、6月に地元企業優先の「鹿大生のためのインターンシップ合同企業説明会」を開催した（企業 39 社、学生 215 人）。7月に開催した学内合同企業説明会では、県内企業によるブース形式の説明会とした（企業 18 社、学生 21 人）。また、10月に従来は業界ごとに行っていた内定者と後輩学生との懇談会を、各業界が一堂に会して開催（学生 17 人）したほか、2月には学年不問の「学内業界研究フェア」を実施するなど新たな取組を行った（企業 148



学内業界研究フェア

社、学生 742 人）。その結果、平成 30 年度に説明会やセミナーに参加した県内企業数は前年度比 15%増の 159 社に上った。

○かごしま課題解決型インターンシップの本格実施

既存の 1～5 日間程度のインターンシップに加え、平成 30 年度より地元企業・自治体で行う地域志向の「地域キャリア・インターンシップ」をCOC+グループが開発・実施した。これは地元で活躍できる中核人材を育成するためのもので、10 日間以上の現場実習に基づく課題解決型とし、公開報告会を組込むことで、学生の地元企業等への就職意欲、現場適応力、課題解決力などを高めるとともに、受入側の自己点検と職場改善への動機づけを高める効果を狙った。受入プログラムは、受入先とCOC+グループ側の協働作業によって作成した。平成 29

年度のトライアルでは受入先 5 箇所・参加学生 11 人であったが、平成 30 年度の本格実施では受入先 20 箇所・参加学生 25 人となり、令和元年度（6 月時点）は受入先 29 箇所・参加学生 32 人と、着実に増加している。インターンシップの事後評価では受入側も学生も高く評価しており、地元メディアでも大きく取上げられ注目度は高い。



かごしま課題解決型インターンシップ

○各学部での取組

各学部では、それぞれの特徴を生かした地元就業支援が実施された。農学部では、「インターンシップ研修」が新たに開講され、研修先の 9 割は地元企業・事業体、自治体となった。また、県内及び九州内の農林畜産、食品産業 40 社による企業説明会が開催された。工学部では、就職活動の早期化に伴い、就職ガイダンスの時期が前倒して実施された。理学部では、インターンシップ対策を含めた就業支援の充実などが図られた。

○事業協働機関との連携事業の強化

事業協働機関との密な連携のもと、多彩な地元就業支援イベントも実施した。6月に県内の観光事業者と留学生との就職面談会（企業 6 社、学生 50 人）や、10月に鹿児島商工会議所による「簿記啓発普及セミナー」を共催するなど、地元就業支援の取組を推進した。今後も「オールかごしま」による事業取組を継続して実施していきたい。

問合せ先：鹿児島大学 産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

地域課題解決に向けた

フィールドワークの事例紹介

【鹿児島国際大学】

鹿児島国際大学では、平成 27 年度に県内で 2 校目として「地（知）の拠点大学」に認定（事業名：フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム）され、地域を志向した科目等での学びやフィールドワークを通して、地域の課題発見・解決に向けて主体的に行動できる人材を育成するとともに、地元鹿児島に貢献できる行動力のある学生を全学的に育成している。本プログラムを受講する学生に対しては、3 年次前期終了時に「修了見込証明書」、卒業時に「修了証」を授与している。これらは、地域活性化のプロフェッショナルになるための教育を受けた証でもあり、就職活動の際には、大きなアピールポイントとなる。

ここでは、平成 30 年度に実施したフィールドワークの事例の中から、その一部を紹介する。

○「知覧武家屋敷庭園活性化事業」

南九州市のにぎわい創出事業の一環として、知覧武家屋敷群一帯の観光振興や地域活性化に取り組んでいる。武家屋敷群周辺を実際に歩いて「おすすめスポットパンフレット」を作成したり、地元農園と協働して新商品開発に取り組んだり、SNS アカウントを開設したりと、積極的に活動した。実際に参加した「知覧茶マルシェ」や運営に携わった「武家屋敷のおひなまつり」では、来場者との交流も深まり、今後も新たなイベントの立案・実施を予定し、「お客様がお客様を呼ぶ観光の仕組みづくり」を目指している。



知覧武家屋敷庭園活性化

○「喜入旧麓地区の景観保全活動に関する取組」

鹿児島市との包括連携協定に基づき、観光農業公園グリーンファームで「喜入旧麓地区れきしフットパスウォーク & グリーンファーム森カフェ体験」を実施。午前中は旧麓自治会と協働で作成したフットパスマップを利用し、近世の面影を残す武家門や道端の水路など、歴史的な雰囲気を感じることを出来る旧麓地区を探索。午後からはグリーンファームに場所を移して、学生が企画した「ファミじいを探せ」「デコレーションロッジ」「草花アクセサリー & エコキャンドル作り」などを学生主体で実施し、地域住民との交流を図った。



喜入旧麓 & グリーンファーム

○「阿久根市地域活性化プロジェクト」

平成 26 年度から取り組んでいる阿久根市の地域活性化事業については、夏には JR 阿久根駅前のチャレンジショップ“輪”にて地元の高校生とタイアップした販売会を実施。冬には「オシャレな阿久根、サカナじゃない阿久根」をコンセプトとしたクリスマスイベントを開催し、高校生が作った商品を販売する他、雑貨や飲食など 9 店舗が出店。ピアノコンサートも開催し、音楽とマルシェ（市場）、さらにバスツアーも組み合わせたことで女性客の増加につながった。



阿久根市チャレンジショップ

問合せ先：鹿児島大学 産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

地域人材の育成と地元就業を支援する



かごしまCOC+通信
KAGOSHIMA COC+ NEWSLETTER

地(知)の拠点

第19号
令和元年8月



かごしま
学卒者地元定着促進協議会

かごしま COC+公開講座 2019

「食と観光で鹿児島県の魅力アップを考える」開催

COC+参画校（8大学等）の共同事業「かごしま COC+公開講座 2019」を、8月10日（土）、鹿児島大学において開講した。学生51人が受講し、講師をはじめ COC+参画校の関係者も多数参加し、講義やワークショップを熱心に参観した。



参加者全員で記念写真

【開催趣旨】

鹿児島県の有望な産業分野である「食と観光」を主要テーマに、地域人材を目指す学生が、各大学等における地域活性化の取組を学ぶとともに、ワークショップを通して、課題解決手法のブレインストーミング及びKJ法のスキルアップを図り、協働する力を高めることを目的に実施した。

【実施概要】

COC+教育プログラム開発委員会委員長の鹿児島大学武隈晃理事（教育担当）の挨拶の後、「食と健康」分科会と「観光とまちづくり」分科会に分かれて講座を開始した。

午前の講義は、本年度より各分科会2名の先生が担当し、一人の持ち時間を50分に拡大すること

で、より内容の濃い講義となった。午後は課題解決型のワークショップを行い、その成果は最後に2分科会合同でグループごとに発表した。

最後に、鹿児島国際大学大久保幸夫学長による講評と閉会挨拶があり、全員で記念写真を撮って成功裏に終了した。

＜午前の部：講義＞

「食と健康」分科会では、鹿屋体育大学の長島未央子先生が、スポーツ選手の体力作りの過程で得られた食事メニューの開発や栄養学の専門的知見を、食ビジネスに應用していく取組を紹介した。鹿児島県立短期大学の木下朋美先生は、鹿児島が誇る茶の多様な魅力を明らかにし、世界に通用する魅力的の商品へと高めていく可能性を示した。



講義風景（「食と健康」分科会）



講義風景（「観光とまちづくり」分科会）

問合せ先：鹿児島大学産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

一方、「観光とまちづくり」分科会では、鹿児島工業高等専門学校の内田一平先生が地方都市（秋田県角館町）の事例を取り上げ、地域資源のブラッシュアップによる観光活性化及び交流人口の拡大策について紹介し、鹿児島国際大学の西原誠司先生は、国際交流の観点から観光による地域活性化の可能性について講義した。

いずれの講義も、「食と観光」あるいは他の分野が相互に結びつき、新たな価値を生み出していくことを学ぶ良い機会となった。

＜午後の部：ワークショップ＞

「食と健康」分科会は「鹿児島のお茶販売高を倍増せよ〜かごしま茶のブランド力向上を図る〜」をテーマに、「観光とまちづくり」分科会は「修学旅行生向け体験観光ツアーの開発〜将来のリピーター

を育てる〜2泊3日の旅行プランを提案する〜」をテーマに行った。

学生は4〜5人の小グループに分かれ、ファシリテータを中心にグループワークを実施した。大学の枠を超えたグループワークによって、学生達は鹿児島が有する地域資源の価値について、多角的に理解し、協働して課題解決をおこなうという貴重な経験を積んだ。

＜全体発表＞

ワークショップ終了後は、全員が一堂に会し、各分科会でのグループワークの結果を発表し、成果の共有を図った。特にファシリテータを務めた学生は、短時間ではあったが、アイデア出しからまとめまで、当初の目的を遂行してくれた。その力量は、地域人材への期待を高めてくれるものであった。



ワークショップ（左2枚）と全体発表（右）

○参加学生のアンケート結果

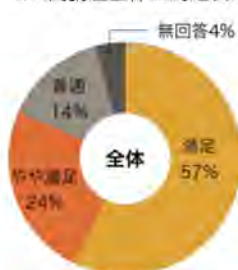
講座全体に対する満足度は「満足」と「やや満足」を合わせ 81%になり、概ね好評であったものの、4人に一人がやや満足にとどまったことから、内容のさらなる工夫が必要と考える。

ワークショップのテーマ（課題）は、ほぼ全員が興味を示してくれた。今回のワークショップ経験が、スキルアップに役だったかを聞いたところ、

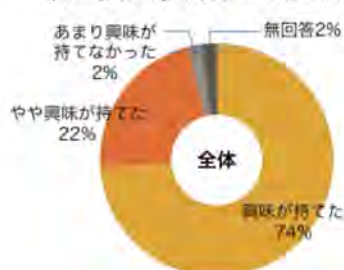
「大いに役立った」から「やや役立った」まで含めると、88%の学生が役に立ったと回答した。

ワークショップは、8大学等の多様な学生による協働体験の場であり、地域人材を目指す学生達のスキルアップを図り、地域人材のネットワーク形成のきっかけの一つとするとの当初の目的は、ほぼ達成されたと言える。

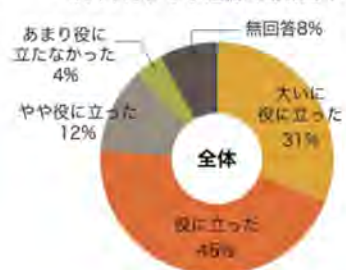
＜公開講座全体の満足度＞



＜ワークショップのテーマについて＞



＜スキルアップに役立ったか＞



問合せ先：鹿児島大学産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

地域人材の育成と地元就業を支援する



かごしまCOC+通信
KAGOSHIMA COC+ NEWSLETTER

第20号
令和元年9月
かごしま
学卒者地元定着促進協議会



COC+8校共同による「地元企業よかとこ発見バスツアー2019」を実施 今年も 地元企業の魅力を発見し、魅力に触れた4日間！

今年で3回目となる、日帰りの「地元企業よかとこ発見バスツアー2019」を、9月3日から6日までの4日間、県内4コースで



「魅力」発見に出発！

実施した。これは、学生が地元企業を知り、地元企業の魅力に触れてもらうことを目的に取り組んでいるCOC+参画8校による共同事業の一つで、今年は11の地元企業を114人の学生・教職員が訪問した。

実施に当たっては、今年もコースごとの担当大学が企業選定から当日の運営までを行うとともに、使用したバスも鹿児島大学・志学館大学・第一工業大学及び鹿児島県から無償提供を受けた。

大隅コース

9月3日

鹿屋市役所、(株)鹿児島食品、(株)財宝

志学館大学が担当した。鹿屋市役所で地域の現状を学び、校舎再活用施設「ユクサおおすみ海の学校」で特産品を用いた昼食を取り、販促方法について議論した。(株)鹿児島食品では、鹿屋市の内発型誘致企業第1号としての地域行事への積極的な参加に一同感銘を受け、安心・信頼・法令遵守等の方針により取引先には大手も名を連ねていることを知った。管理・品質保証・製造部等の業務内容について、試食しながら説明を受け、食品加工業の特徴を掴んだ。(株)財宝では、ICTと人の手の戦略的な組み合わせや品質管理の徹底、正確な在庫・運搬業務、お客様対応等について、清潔な工場・倉庫内見学のもとに理解することができた。両社ともに社員の説明がわかりやすく、特に商品開発の進め方や苦労話に対し、



開発の醍醐味も味わう学生たち

学生からの質問は途絶えることがなかった。

学生からのコメント（一例）

- ・地方にも、全国で活躍し社員が生き生きとした活力ある企業があると分かった。
- ・地域密着の形態で顧客の声をダイレクトに聞くことが、質の良い製品の提供の1つの理想形だと思った。

始良・伊佐コース

9月4日

アルバック九州(株)、鹿児島空港ビルディング(株)、バレルバレープラハ&GEN

鹿児島工業高等専門学校が担当した。アルバック九州(株)では、フラットパネルディスプレイ製造装置をはじめ、食品業界などあらゆる産



真空時の食品（珈琲）の香り実験

業界を支える真空装置の製作現場を見学し、参加者は一様に驚きの表情をみせていた。特に、真空時における沸点の変化や大気圧との関係、チョコレート菓子製作や食品に与える香りの変化等、実際に真空実験を体験し、理解と興味を深めたようである。

鹿児島空港は、地域創生の拠点空港として、年間約600万人の乗降客があり、全国第9位の利用者数となっている。鹿児島空港ビルディング(株)では、これらの利用者に対し安全・安心、そしてより快適な空間を提供するための様々な取組を実施している。今回は日頃見ることでできない、空港ビルの巨大な地下空間で行われている、水や電気といったライフラインの安定供給をはじめ空調関係のサービス等、その維持・管理に要する機器や設備、携わるエンジニアについて見学・聴講することができた。

学生からのコメント（一例）

- ・真空実験も楽しくでき、真空状態を知る良い機会でした。
- ・普段立ち入ることのできない地下施設やVIP室に入ることができ、非常に良い経験となった。

【問合せ先】鹿児島大学産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島 A コース

9月5日

(株)南光、西原商会グループ、(株)島津興業

鹿児島国際大学が担当した。(株)南光では、OB社員の体験発表や工場見学を実施した。詳しい説明を受けながらの工場見学では「ものづくり」の



工場見学の様子

現場で働く社員の方々が、コミュニケーションを大事にし、チームワーク第一で仕事に取り組んでいる様子に、参加者一同感銘を受けていた。

(株)西原商会では、日常の営業活動をVTR等の映像を使いながら具体的に紹介して頂き、また、グループに分かれての座談会で活発な質疑応答が行われた。参加者は、社員の方から直接話を聞く中で、会社の特徴や雰囲気を感じ、知名度が高い一方、よく知らなかった営業活動や経営理念に触れ、地元企業のあらたな一面を発見する良き機会となった。

(株)島津興業では、学芸員によるユーモア溢れる解説に魅了されながら仙巖園及び尚古集成館を見学した。社員の方々の懇切丁寧な対応ぶりから、明るく伸び伸びと仕事に取り組める職場環境であることが感じられるとともに、世界遺産の保全と人々への歴史への興味関心を高めることを目指して仕事に取り組んでいる様子に、一同感激している様子であった。

学生からのコメント(一例)

- ・会社の特徴や雰囲気を感じることができた。
- ・「働く」ことについてのイメージが固められた。
- ・地元企業の生の声が聞けた。

鹿児島 B コース

9月6日

(株)鹿児島放送、サツマ酸素工業(株)、(株)南給

鹿児島女子短期大学が担当した。(株)鹿児島放送では、会社概要の説明後、局内見学を行った。ニューススタジオでは、アナウンサーが用いるプロンプターの説明を受けたり、放送局の心臓部のマスター室見学では、24時間稼働できる備えとして停電時の対処



カメラ操作を体験する参加者

や災害対策の説明を受けたりした。バラエティ番組の生放送スタジオでは、パーソナリティ一席に座ったり、カメラの切り替えなども体験し

たりした。その後、県外で働いた経験のあるディレクターとデスク記者から、鹿児島で放送に関わって感じていることの話聞いた。サツマ酸素工業(株)では、会社概要の説明後、社内見学及びフロンガス破壊工場見学を行い、最後に小グループに分かれて各大学の先輩にあたる社員との懇談を行った。昨年完成した新社屋は津波等の災害対策として、社員の執務室を2階以上に設け、食料の備蓄もされているなど、防災性に優れていた。また、地球環境を守るためフロンガスの回収・破壊・再生を県内で唯一行っており、その工場を実際に見学し、学生達も興味津々の様子だった。社員との懇談も学生に好評だった。

(株)南給では、営業事務の執務室見学の後、冷凍庫を見学し、会社概要の説明を受けた。その後、他の倉庫の見学も行い、最後に質疑応答の時間が設けられた。冷凍庫は-20度ほどで猛烈に寒く、広い空間だった。なかなか足を踏み入れることのできない場所のため、学生たちも興味深く見学していた。近年、冷凍食品の需要が増えているとの説明があった。

学生からのコメント(一例)

- ・思っているよりも多くの人がテレビの制作に携わっていることを知った。
- ・とても社会貢献している会社であることを知った。
- ・給食から店舗開発まで幅広くかかわっていることを知ることができて良かった。



平成29年度から実施しているこのバスツアーは、これまで延べ362人の学生等が延べ37社の地元企業を訪問し、COC+共同事業として定着した感がある。経営者による経営理念の説明、若い社員との率直な意見交換、工場見学など現場での体験は、合同企業説明会などでは得られない貴重なものとなり、参加者のアンケート回答でも地元就業に関心を示すきっかけになったことが示された。

求人難の中、県外企業の採用活動がより早期化・活発化しており、学生は、地元企業の情報に触れる機会が少ないまま県外企業に目が向いている現状もある。

COC+参画校は、補助期間終了後の来年度もこの取組を継承していく予定である。「受皿」としての役割が期待される地元企業においても、魅力ある就業先として、より積極的な情報発信が求められる。



地域人材の育成と地元就業を支援する

かごしまCOC+通信

KAGOSHIMA COC+ NEWSLETTER

文部科学省
地(知)の拠点

第21号
令和元年12月

かごしま
学卒者地元定着促進協議会



かごしまCOC+総括シンポジウム

学卒者の地元定着への取組～これまでそしてこれから～

令和元年11月29日（金） 鹿児島大学稲盛会館において開催

COC+事業は本年度をもって文部科学省からの補助期間が終了することを踏まえ、11月29日（金）鹿児島大学稲盛会館において、事業協働機関関係者をはじめ、地域企業・自治体・教職員・学生など約160人が参加し、「かごしまCOC+総括シンポジウム」を開催した。

【概要】

はじめに、協議会議長の佐野輝鹿児島大学学長による開会の挨拶、文部科学省総合教育政策局の水田功地域学習推進課長の来賓挨拶（香西健次課長補佐代読）があり、次いで、日本政策投資銀行南九州支店長の新崎恭史氏による特別講演「鹿児島の未来～地域経済の振興と人材育成～」が行われた。



佐野輝 鹿児島大学学長による
開会挨拶

その後、鹿児島大学の井上佳朗特任教授と第一工業大学の吉本博明教授から、COC+事業の5年間の取組と成果報告が行われた。休憩を挟んで、COC+事業推進責任者の前田広人鹿児島大学産学・地域共創センター長より、次年度からのCOC+事業継承に向けた推進体制について説明があった。

最後に、「人口減少社会における'オールかごしま'の取組」をテーマに、パネルディスカッションが行われ、5年間の取組を総括し、補助期間終了後に向けた事業の継承と推進体制及び今後の方向性などについて、熱心な議論が交わされた。



1Fホールでのパネル展示

【特別講演】

鹿児島の未来～地域経済の振興と人材育成～

日本政策投資銀行南九州支店長 新崎恭史氏による特別講演があり、少子高齢化、人口減少やSociety5.0の時代到来に直面する鹿児島の今後の方向性と、COC+事業で築いた産学官金の連携インフラを生かした地域人材育成の推進に対する期待が述べられた。



特別講演 新崎恭史
日本政策投資銀行南九州支店長

<講演要旨>

金融機関の視点から鹿児島の現状を俯瞰し、具体例を示しながら、「粗付加価値・県際収支向上→県民所得向上→若年層定着」の正循環を作り上げることの重要性を指摘した上で、今後の方向性として、AIやIoTなどを活用したデジタルライゼーション、シェアリングエコノミーなどの社会変化への対応の必要性和、柔軟かつ創造的な発想でローカルとデジタルを掛け合わせることで、鹿児島における人口減少と地理的不利性を払拭できる可能性があることを指摘した。

また、そのような社会変化に順応していくには、大学生を含む若年世代の活力こそが鍵とした上で、ポジティブな地域認識を持ち、「Local to Global」、「ハードスキルとソフトスキル（人間力）」、「マクロとミクロ」、「デジタルとアナログ」、「論理とひらめき」などの軸を、軽やかに行き来し、それらを結節し、昇華させ、更にはそのような変化を楽しめる地域人材に期待を示した。

問合せ先：鹿児島大学産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

【5年間の取組と成果】

学卒者の地元定着への取組：これまで

かごしまCOC+が平成27年度に採択されてから5年間の、地域人材育成、地元就業支援、就業先の確保拡大への取組について、報告が行われた。

最初に、4つの共同事業（かごしまCOC+公開講座、地元企業見学バスツアー、かごしまCOC+推進フォーラム、かごしまCOC+通信）の取組と成果について報告があり、引き続き鹿児島大学及びCOC+参加各校の特長を生かした独自の取組について報告があった。



これまでの取組と成果報告

鹿児島大学では、教育プログラム及び学生の自主活動の支援を通じた地域人材育成、課題解決型インターンシップ、専門学部における取組等が報告され、COC+参加校については、各校の代表的取組事例について報告が行われた。

最後に、かごしまCOC+のレガシーとして、以下の4点が示された。

かごしまCOC+の4つのレガシー

- 1 大学と地元企業・自治体とのネットワークの構築
- 2 「オールかごしま」による協働推進体制の構築と実績
- 3 地域志向教育カリキュラムの充実と学びの機会の多様化
- 4 学生と地元企業・自治体との出会い・マッチング機会の向上

【ポストCOC+の推進体制】

補助期間終了後は、COC+事業の円滑な継承を図るために、「大学地域コンソーシアム鹿児島」内に「産学連携・就業部会」を設置し、現在の「かごしまCOC+事業協働機関」に加え、新たに、いくつかの大学や機関が参加した「産学官金」協働のプラットフォームとすることとしている。

また、鹿児島大学では、円滑で機動的な地域人材育成と地元就業支援活動を支えるために、令和2年度よりキャリア形成支援センターを発足させ、COC+事業の経験教員を配置することとしている。

【パネルディスカッション】

人口減少社会における「オールかごしま」の取組

鹿児島国際大学 大久保幸夫学長をモデレーターに、鹿児島県 中野功久商工労働水産部次長、鹿児島商工会議所 山下春洋専務理事、志学館大学 志賀玲子准教授のほか、鹿児島大学3年生1名と第一工業大学4年生1名がパネリストとして登壇し、活発な議論が展開された。その中で、COC+事業で構築した産学官連携ネットワークや地域人材育成に係る協働体制等のレガシーを生かし、「オールかごしま」による持続的な取組の重要性が再確認された。

これまでのCOC+事業は、次年度以降、（新）「大学地域コンソーシアム鹿児島」に引き継がれるが、県が進めている「かごしま故郷人財確保・育成プロジェクト」と連携して、さらなる機能強化を図っていくことが重要であるとの認識が示された。

また、急激に変化する社会の中で、地域人材育成では、様々な「学びのバージョンアップ」を行い、若者がいつでもチャレンジでき、自己成長につながる風土を、地域が大学と一緒に作っていくことも重要な視点であることが指摘された。



パネルディスカッション

【参加者のアンケート結果】

参加者アンケートには、「『オールかごしま』で大学、産業界、行政など、横の連携が図られ、『顔の見える関係』が構築された」ことが成果であるといった意見、「もっと学生の声を大学、行政、企業がリアルで聞ける機会があれば」といった要望、「今後の大学地域コンソーシアム鹿児島に、COC+のレガシーをしっかりとつないでください」といった激励など、多くのコメントが寄せられた。

【事務局からのメッセージ】

鹿児島大学とCOC+参加校は、今後も事業協働機関をはじめとする地域との連携をさらに推進し、地域人材育成・地元就業支援を通じた地方創生に取り組んでいきます。多くの皆様のご理解とご協力をお願いします。

地域人材の育成と地元就業を支援する



かごしまCOC+通信

KAGOSHIMA COC+ NEWSLETTER

第22号
令和2年3月
最終号
かごしま
学卒者地元定着促進協議会



地域人材の育成と地元就業を支援する かごしま COC+ を振り返って

OCOC+事業を推進した実務者

かごしま COC+事業は、各事業協働機関の実務者による熱意と献身的な取組によって、推進されてきました。実務者は、学内におけるCOC+事業の支援及び実施に努めることはもとより、COC+共同事業（COC+公開講座、地元企業見学バスツアー、COC+推進フォーラム、COC+通信、その他）の企画・実施などについても、多大な貢献をしてくださいました。また、毎年度の事業報告書原稿及び文科省へ提出する実績報告書原稿の作成、各種アンケートの実施など、年間を通じて多種多様な業務を、労を厭わずに取り組んでくださいました。

〇事業目標の達成

このような中、目標とする学卒者の地元定着率の達成については厳しいものの、地元でのインターンシップ参加者数、新規雇用創出数、寄附講座数については、事業協働機関全体として、目標値を達成できました。多くの方の協力と努力の賜物と思っています。今後は、学卒者に加え、Uターン者も視野に入れた取組が求められます。

〇かごしまCOC+のレガシー

また、事業目標には掲げていませんでしたが、COC+事業の推進によって、地（知）の拠点としての機能強化に繋がるいくつかの重要な成果が得られたと思います。

- ①各校における地域志向教育の充実及び8大学等共同による地域人材の育成

地域人材育成では、産業界や行政の協力によってゲスト講師を招聘し、学内教員との協働による授業展開や、地域をフィールドにした地域人材の育成も盛んに行われ、アクティブラーニングなどの実践的な教育が拡大しています。

②「オールかごしま」による協働のプラットフォームの形成

これまで、鹿児島県においては、産・学・官の2者間による協働は見られましたが、かごしまCOC+事業のように、「産学官金」が、共通の目標を掲げて協働し合う取組は、画期的であり大きな成果と言えます。産学官金の間に顔の見える関係が築かれ、運用面のノウハウを蓄積できたことは、持続的な協働を進めていく上で大きいと思います。

③産業界及び行政と学生とのマッチング機会の増大

学生の中には、「地元には働く場がない」、「都会の方がより良い生活ができる」などの思い込みも多いのですが、その根底には、地元に関する情報の不足が存在しています。そこで、COC+事業では、企業人・行政職員のゲスト講師招聘、キャンパス内での地元企業合同説明会開催、企業人・行政職員と学生とが一堂に会するフォーラムの開催、地元企業見学バスツアーなど、地元企業と学生が直接出会える機会の拡大に努めてきました。

以上の成果はCOC+のレガシーとして、令和2年度以降、大学地域コンソーシアム鹿児島地域の地域連携・就業部会においても引き継がれていきます。



令和元年度 第4回4部合同部会参加者とこれまでの「かごしまCOC+通信」

【問合せ先】鹿児島大学産学・地域共創センターCOC+グループ ☎099-285-6487 ✉plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

かごしま COC+通信 編集後記

平成 29 年 7 月に「かごしま COC+通信」を創刊して以来、これまで 22 号まで発行を続けることができました。広報部会員をはじめ、この取組を支えてくださった皆様の並々ならぬ努力とお力添えがあったからこそです。かごしま COC+事業の 5 年間の取組を振り返り、最後に広報部会員から皆様にメッセージをお伝えします。

【鹿児島大学】

かごしま COC+事業の取組を皆様に分かりやすくお伝えするため、広報部会を中心として編集・発行してきた「かごしま COC+通信」。いかがだったでしょうか。皆様からご意見をいただき、改善を重ねながら発行を進めてきました。ご支援いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。今後は新「大学地域コンソーシアム鹿児島」でお世話になります。ありがとうございました。(牧野)

【鹿児島体育大学】

全国から学生が集まる本学での活動は、苦労も多かったのですが、皆様にご協力いただき、とてもやりがいがありました。少しずつ学生に「鹿児島の魅力」が広がっていることを実感しています。

ありがとうございました。(伊地知)

【鹿児島国際大学】

鹿児島大学 (COC+大学) はじめ COC+参加校および事業協働機関の関係者の皆様、5 年間の活動期間中「バスツアー」「公開講座」「フォーラム」などの実施等に際し、お世話になりました。ありがとうございました。(関)

【志学館大学】

志学館大学は以前から地元定着率は高かったのですが、この活動を通して定着率が高まるという効果よりも地元に対する視野が広がるという効果が大きかったのではないかと感じています。鹿児島の社会を支えてくださっている方々の御協力の下、学生が地元のことを知ったことと、地元の方々に学生を知ってもらえたことが大きな成果だと思っています。(宗)

みなさまの応援
ありがとうございました！
これからも
よろしく
お願いします！

【第一工業大学】

5 年間の COC+事業一番の成果は、県内のあらゆるセクターが“心でつながった”こと。わたしたちが敷いたレールは鹿児島の未来へ延伸し続けることでしょう。関係各位、ありがとうございました。また会いましょう。(吉本)

【鹿児島県立短期大学】

若者の地元定着の向上に向けて、「オールかごしま」で取り組んできたものの、限られた期間での目標達成はなかなか困難な状況にありましたが、COC+事業で進めてきた取組は、今後も「大学地域コンソーシアム鹿児島」に着実に生かされていくものと確信しています。ありがとうございました。(朝日)

【鹿児島女子短期大学】

COC+の最後の 2 年間、多くの先生方に協力をいただき、苦労も終わってみれば感謝の一言です。特に、お忙しい中、欲張った文章や写真を最大限生かした「総括シンポジウムのポスター」に仕上げてくださった S 先生には大変感謝しています。(竹原)

【鹿児島工業高等専門学校】

本取り組みにあたり、多大なご協力をいただきました鹿児島高専 テクノクラブ会員企業の皆様、また、ご助言、ご支援をいただきました大学・高専の皆様へ感謝申し上げます。本経験を活かし、引続き活動を進めて参ります。(安楽)

【鹿児島県企画課】

COC+は、学生の皆さんにとって鹿児島を知る気づきの場でもあったと思います。これまでに学んだことや考えたことを、ここ鹿児島で思う存分生かしてください！(2 年間の担当でした。皆様ありがとうございました。)(河内)

VII 資料

1 事業目標と進捗状況

	平成26年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	基準	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
事業協働地域就職率	54.0%	55.3%	54.0%	56.9%	54.6%	58.7%	53.2%	60.7%	50.5%	61.5%	
うちCOC+大学	39.5%	41.0%	41.2%	43.0%	40.6%	45.0%	39.7%	48.0%	36.4%	50.0%	
事業協働機関へのインターンシップ参加者数	370人	413人	526人	478人	664人	544人	753人	608人	951人	659人	
うちCOC+大学	62人	91人	178人	118人	173人	146人	151人	174人	143人	200人	
事業協働機関からの寄附講座数	2講座	2講座	2講座	5講座	3講座	6講座	7講座	8講座	8講座	8講座	
うちCOC+大学	2講座	2講座	2講座	2講座	2講座	1講座	4講座	1講座	4講座	1講座	
事業協働機関雇用創出数	0人	0人	6人	2人	4人	8人	27人	8人	35人	9人	
大学以外の事業協働機関による事業への満足度	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

注) 令和元年度の実績値については、令和2年度に入ってから確定される。

○事業協働地域就職

全国の他の地域と同様に、目標達成は厳しい状況である。

大都市圏等県外企業の採用活動がより早期化・活発化したこと、賃金などの待遇面で地元企業と大都市圏企業とで大きな格差があること、専門性(特に理工系)を生かせる地元企業が少なく必ずしも「受け皿」となり得ていないことなどから、理工系の学生を中心に県外就職へ流れたものと思われる。

○インターンシップ参加者数

キャリア形成におけるインターンシップの重要性について学生の理解や関心が高まっていることなどから、全体としては、毎年度の目標を達成しており、順調に推移している。

なお、COC+大学においては、平成30年度を除いて各年度の目標は達成しているものの、県外企業による好条件のインターンシップに学生が流れていることなどから県内でのインターンシップ参加者数は漸減している。

○寄附講座数

概ね、目標どおりに推移している。

特に、COC+大学においては目標を上回る4講座が開設され、すべて医療・医学系の分野である。

○雇用創出数

地元自治体や事業協働機関である鹿児島県による積極的な企業誘致活動が奏功し、立地協定締結に基づき県内進出した県外企業等での新規雇用が見られ、目標を上回る形で推移している。

また、大学発ベンチャー企業での雇用もあった。

○事業協働機関(大学以外)の満足度

アンケート結果で、16全事業協働機関から「満足」との回答があった。

これは、かごしまCOC+事業を通して、各大学と地元産業界・企業・行政等との間に「顔の見える関係」が築かれ、共通の地域課題に連携して取り組んできたことにより、大学の取組への理解が深まったことなどによるものである。COC+事業終了後についても、COC+継承の事業や組織に対する高い期待が示された。

2 かごしま学卒者地元定着促進協議会 構成員

事業協働機関の名称		職名	備考
1	鹿児島大学	学長	COC+事業推進代表者・議長
		理事・副学長 (企画・社会連携担当)	副議長
		理事・副学長(教育担当)	COC+教育プログラム開発 委員会委員長
		産学・地域共創センター長	COC+事業推進責任者
		COC+推進コーディネーター	
2	鹿屋体育大学	学長	
3	鹿児島国際大学	学長	
4	志学館大学	学長	
5	第一工業大学	学長	
6	鹿児島県立短期大学	学長	
7	鹿児島女子短期大学	学長	
8	鹿児島工業高等専門学校	校長	
9	鹿児島県	企画部次長	
10	鹿児島県工業技術センター	所長	
11	鹿児島県大隅加工技術研究センター	所長	
12	(公財)かごしま産業支援センター	事務局長	
13	(公社)鹿児島県観光連盟	専務理事	
14	(公社)鹿児島県工業倶楽部	事務局長	
15	鹿児島県農業協同組合中央会	専務理事	
16	鹿児島県森林組合連合会	代表理事専務	
17	鹿児島県漁業協同組合連合会	常務理事	
18	鹿児島経済同友会	事務局長	
19	鹿児島県商工会議所連合会	専務理事	
20	鹿児島県商工会連合会	事務局長	
21	鹿児島県中小企業団体中央会	専務理事	
22	(社福)鹿児島県社会福祉協議会	事務局長	
23	(株)鹿児島TLO	代表取締役	
24	(株)鹿児島銀行	地域支援部長	

3 COC+教育プログラム開発委員会及び部会 構成員

COC+教育プログラム開発委員会 構成員

事業協働機関の名称	職名	備考
鹿児島大学	理事・副学長(教育担当)	委員長
	産学・地域共創センター長	COC+事業推進責任者
	産学・地域共創センター COC+グループ長	副委員長
	COC+推進コーディネーター	
鹿屋体育大学	キャリア形成支援室長	
鹿児島国際大学	副学長・産学官地域連携センター長	
志学館大学	図書館長	
第一工業大学	入試部長	
鹿児島県立短期大学	学生委員長	
鹿児島女子短期大学	地域連携センター長	
鹿児島工業高等専門学校	副校長(教育主事)	
鹿児島県	雇用労政課長	
(公社)鹿児島県観光連盟	専務理事	
鹿児島県農業協同組合中央会	総合企画部長	
鹿児島県漁業協同組合連合会	総務指導室次長	
鹿児島県商工会議所連合会	事務局長	
鹿児島県中小企業団体中央会	事務局次長	

COC+教育プログラム開発委員会 部会 構成員

	地域志向 教育部会	地元就業部会	広報部会	ポストCOC+ あり方部会
鹿児島大学	○	○	○	○
鹿屋体育大学	○	○	○	○
鹿児島国際大学	○	○	○	○
志学館大学	○	○	○	○
第一工業大学	○	○	○	○
鹿児島県立短期大学	○	○	○	○
鹿児島女子短期大学	○	○	○	○
鹿児島工業高等専門学校	○	○	○	○
鹿児島県	企画課		○	○
	雇用労政課	○		
鹿児島経済同友会	○	○		○
鹿児島県商工会議所連合会	○	○		○

4 実務担当者

COC+大学	
鹿児島大学	井上 佳朗(特任教授/H27.12～R2.3) 牧野 暁世(特任助教/H28.2～R2.3)
	遠矢 良太郎(COC+推進コーディネーター/H27.12～H29.3)
	南 重秋(COC+推進コーディネーター/H29.4～R2.3)
	斎藤 智子(特任専門員/H27.12～H30.12) 田中 浩子(特任専門員/H31.2～R2.3)
	大原 碧(事務補佐員/H27.12～H30.10) 大迫 郁子(事務補佐員/H30.11～R2.3)
	東 洋充(社会連携係長/H27.12～H30.3) 手塚 祐輔(産学・地域連携係長/H30.4～)
COC+参加校	
鹿屋体育大学	竹下 俊一(キャリア形成支援室長/H27.12～H28.7)
	前田 博子(キャリア形成支援室長/H28.8～)
	仮屋蘭 一樹(キャリア支援係長/H27.12～H28.3)
	伊地知 貴之(キャリア支援係長/H28.4～) 寺下 久士(事務補佐員/H28.4～)
鹿児島国際大学	大久保 幸夫(副学長・産学官地域連携センター長/H27.11～H31.3)
	中山 慎吾(副学長・産学官連携センター長/H31.4～)
	迫田 耕一(産学官地域連携センター次長/H27.11～H30.3)
	大迫 宗昭(産学官地域連携センター次長/H30.4～)
	小林 和代(産学官地域連携センター事務室長/H28.4～H30.3)
	福吉 百合香(産学官地域連携センター事務室長/H30.4～)
	関 博信(COC推進室参事・COC+副コーディネーター/H27.11～)
	上治 麻美(COC推進室事務補助員/H27.11～H28.3)
	海江田 乃扶子(COC推進室書記/H28.4～H30.3)
	山中 卓(産学官地域連携センター書記/H30.4～H31.3)
	田崎 由美子(産学官地域連携センター係長/H31.4～)
志学館大学	近藤 諭(図書館長・教授/H27.12～) 大重 康雄(大学間連携部門長・教授/H31.4～)
	志賀 玲子(進路支援センター長・社会連携センター長・准教授/H27.12～)
	宗 建郎(産学官コミュニティ連携部門長・准教授/H29.4～) 稲森 真由美(課長/H27.12～)
	川野 智洋(主任/H27.12～H28.3) 井上 翔太(事務員/H28.4～H29.3)
	内村 勇蔵(課長代理/H29.4～H30.8) 清水 真弓(事務員/H30.8～)
第一工業大学	古田 智基(社会連携センター長/H27.12～H29.3)
	吉本 博明(社会連携センター長・入試部長/H29.4～)
	飯塚 衛(就職・厚生課長(社会連携センター担当)/H27.12～H31.3)
	恒益 俊春(入試課長補佐(社会連携センター担当)/H31.4～)
	中山 里恵(社会連携センター事務員/H27.12～H29.3)
	中禮 綾乃(社会連携センター事務員/H29.4～H30.3)
	末重 美穂(社会連携センター事務員/H30.4～) 新保 順子(事務補佐員/H28.5～H30.3)
鹿児島県立短期大学	木戸 裕子(学生部長・教授/H28.4～H30.3) 倉重 賢治(教務委員長・教授/H28.4～H30.3)
	宮本 泰宏(次長兼学生課長/H28.4～H30.3) 福田 忠弘(学生部長・教授/H30.4～R2.3)
	朝日 吉太郎(学生委員長・教授/H30.4～R2.3) 藤井 一彦(次長兼学生課長/H30.4～R2.3)
鹿児島女子短期大学	寺師 睦美(准教授/H30.4～H31.3) 井上 周一郎(准教授/H31.4～)
	大重 康雄(地域連携センター長・教授/H27.12～H31.3)
	宇都 弘美(キャリアセンター長・教授/H30.4～)
	千葉 しのぶ(地域連携センター長・准教授/H31.4～)
	住澤 知之(図書館長・教授/H30.4～H31.3) 山本 有一(図書館長・教授/H31.4～)
	高島 まり子(COC+コーディネーター/H27.12～H30.3)
	竹原 小菊(COC+コーディネーター/H30.4～) 高吉 リカ(事務補佐員/H28.4～H29.6)
	馬見塚 ゆかり(事務補佐員/H29.7～H30.3) 大河平 光江(事務補佐員/H30.4～H31.3)
	笠野 ひと美(事務補佐員/H31.4～)
鹿児島工業高等専門学校	植村 眞一郎(地域共同テクノセンター長/H27.12～H28.3)
	大竹 孝明(地域共同テクノセンター長/H28.4～H29.3・同センターコーディネーター/H30.4～R2.3)
	豊平 隆之(地域共同テクノセンター長/H30.4～H31.3)
	宮田 千加良(地域共同テクノセンター長/H29.4～H30.3・H31.4～R2.3)
	楠原 良人(地域共同テクノセンターマネージャー/H28.4～H30.3)
	須田 隆夫(教務主事/H27.12～H31.3) 松田 信彦(教務主事/H31.4～)
	安楽 四郎(課長補佐(企画担当)/H27.12～H28.3・企画室長/H31.4～)
	徳田 眞澄(企画室長/H28.4～H31.3) 田尻 正和(企画係長/H27.12～H29.3)
	脇園 好光(教務係長/H27.12～H29.3・企画係長/H29.4～H31.3)
	和田 菜美歌(事務補佐員/H28.1～H29.11) 中尾 小百合(事務補佐員/H29.12～R1.9)
	池江 菜々美(企画係係員/R1.10～)

その他の事業協働機関		
鹿児島県	企画課	河内 伸仁(主幹/H30.4～) 仙石 康輔(主事/H30.4～) 園田 英信(主幹/H28.4～H30.3) 森山 一平(主事/H27.12～H30.3) 伊瀬知 強(主幹/H27.12～H28.3)
	雇用労政課	高崎 雅英(課長補佐兼雇用支援係長/H28.4～H30.3) 廣瀬 和泰(課長補佐兼雇用支援係長/H30.4～)
鹿児島県工業技術センター		瀬戸口 眞治(企画支援部長/H27.12～H30.3) 久保 敦(企画支援部長/H30.4～H31.3) 尾前 宏(企画支援部長/H31.4～R2.3)
鹿児島県大隅加工技術研究センター		山本 誠(次長/H27.4～H29.3) 林 弘久(次長/H29.4～H30.3) 久保下 尚(次長/H30.4～)
(公財)かごしま産業支援センター		田中 健吾(産学官連携課長/H27.12～H29.3) 中村 俊一(産学官連携課長/H29.4～R2.3)
(公社)鹿児島県観光連盟		島 亨(事務局長兼総務部長/H27.12～H29.3) 室屋 恵一(事務局長兼総務部長/H29.4～)
(公社)鹿児島県工業倶楽部		米山 高兆(事務局長/H27.12～)
鹿児島県農業協同組合中央会		上国料 智紀(総合企画部長/H27.12～)
鹿児島県森林組合連合会		野村 輝明(参事/H27.12～H29.8) 迫間 博文(参事/H29.9～)
鹿児島県漁業協同組合連合会		西 一樹(部長兼総務課長/H27.12～H28.6) 大久保 好英(総務課長補佐/H28.7～H30.6) 福田 幸訓(総務課長/H30.7～H31.4) 三木 達郎(次長兼総務課長/R1.5～)
鹿児島経済同友会		浦底 康助(事務局長/H27.12～H29.10) 水流 弘行(事務局長/H29.11～) 田島 健作(事務局次長/H27.12～)
鹿児島県商工会議所連合会		田中 文裕(会員サービス部長/H27.12～H29.5) 金田 博一(産業振興部長/H29.6～) 下迫 ゆい(会員サービス部/H27.12～H30.8) 瀬脇 和弥(産業振興部/H30.9～)
鹿児島県商工会連合会		弥栄 達郎(事務局長/H29～) 山下 英之(総務課長/H30～)
鹿児島県中小企業団体中央会		福山 賢志(事務局次長/H27.12～)
(社福)鹿児島県社会福祉協議会		谷川 靖夫(参事/H27.4～H29.3) 小園 修一(参事/H29.4～H31.3) 竹内 正広(参事/H31.4～)
(株)鹿児島TLO		吹留 博実(代表取締役/H27.12～) 上原 美子(技術移転スペシャリスト/H27.12～) 小坂 京子(総務経理(事務)担当/H27.12～)
(株)鹿児島銀行		熊迫 悠平(地域支援部副調査役/H29.8～) 松山 真実(地域支援部部長席付/H28.4～H29.7)

5 事業協働機関連絡先

	担 当		住 所	電話番号
COC+大学				
鹿児島大学	産学・地域共創センター COC+グループ	〒890-0065	鹿児島市郡元1-21-40	099-285-6487
COC+参加校				
鹿屋体育大学	教務課キャリア支援係	〒891-2393	鹿屋市白水町1	0994-46-4883
鹿児島国際大学	産学官地域連携センター	〒891-0197	鹿児島市坂之上8-34-1	099-263-0686
志学館大学	進路支援センター	〒890-8504	鹿児島市紫原1-59-1	099-812-8507
第一工業大学	社会・地域連携センター	〒899-4332	霧島市国分中央1-10-2	0995-45-3003
鹿児島県立短期大学	学生部学生課	〒890-0005	鹿児島市下伊敷1-52-1	099-220-1112
鹿児島女子短期大学	地域連携センター	〒890-8565	鹿児島市 高麗町6-9	099-254-9191
鹿児島工業高等専門学校	総務課企画室	〒899-5193	霧島市隼人町真孝1460-1	0995-42-9038
その他の事業協働機関				
鹿児島県	企画部 企画課	〒890-8577	鹿児島市鴨池新町10-1	099-286-2324
	商工労働水産部 雇用労政課	〒890-8577	鹿児島市鴨池新町10-1	099-286-3023
鹿児島県工業技術センター	企画支援部	〒899-5105	霧島市隼人町小田1445-1	0995-43-5111
鹿児島県大隅加工技術研究センター	(次長)	〒893-1601	鹿屋市串良町細山田4938番地	0994-31-0314
(公財)かごしま産業支援センター	産学官連携課	〒892-0821	鹿児島市名山町9番1号 鹿児島県産業会館2階	099-214-4770
(公社)鹿児島県観光連盟	事務局	〒892-0821	鹿児島市名山町9番1号 鹿児島県産業会館内	099-223-5771
(公社)鹿児島県工業倶楽部	事務局	〒892-0821	鹿児島市名山町9番1号 鹿児島県産業会館 中2階	099-225-8012
鹿児島県農業協同組合中央会	総務課	〒890-0064	鹿児島市鴨池新町15	099-258-5105
鹿児島県森林組合連合会	(参事)	〒892-0816	鹿児島市山下町9番15号 財団法人鹿児島県林業会館 3階	099-226-9471
鹿児島県漁業協同組合連合会	総務指導室	〒890-8540	鹿児島市鴨池新町11-1 鹿児島県水産会館 3階	099-253-7811
鹿児島県経済同友会	事務局	〒892-0821	鹿児島市名山町1-3 鹿児島ビル8階	099-222-4492
鹿児島県商工会議所連合会	産業振興部	〒892-8588	鹿児島市東千石町1-38 鹿児島県商工会議所内	099-225-9522
鹿児島県商工会連合会	事務局	〒892-0821	鹿児島市名山町9番1号 鹿児島県産業会館 6階	099-226-3773
鹿児島県中小企業団体中央会	総務企画課	〒892-0821	鹿児島市名山町9番1号 鹿児島県産業会館 5階	099-222-9258
(社福)鹿児島県社会福祉協議会	福祉人材・研修センター	〒890-8517	鹿児島市鴨池新町1-7 県社会福祉センター内	099-258-7888
(株)鹿児島TLO	(代表取締役)	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番40号 鹿児島大学内	099-284-1631
(株)鹿児島銀行	地域開発部	〒892-0828	鹿児島県鹿児島市金生町6-6	099-239-9829

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム
令和元年度 事業報告書(総集版)

発行日 令和2年3月
発 行 鹿児島大学 産学・地域共創センター 連携推進部門COC+グループ
〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1丁目21番40号
TEL:099-285-6487 FAX:099-285-6109
E-mail: plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp



鹿児島大学
KAGOSHIMA UNIVERSITY